

保健管理センター年報

第 49 号

(令和 6 年度)

岐阜大学保健管理センター

巻 頭 言

令和6（2024）年度保健管理センター年報をお届けします。

当センターは1974年（昭和49年）に開設。この巻頭言を執筆している2025年度で50周年を迎え、2026年9月1日に『保健管理センター設立50周年記念岐阜大学シンポジウム』を挙行了しました。テーマは、「大学のウェルネスを考える」で米国大学保健管理協会（American College Health Association; ACHA）の前会長、次期会長、CEOを招聘。会場参加者約300人、オンライン参加者約170人と多くの参加者を得、保健管理センター長とCEOの講演プログラムは成功裡に終了することができました。

我が国における大学進学率と大学・大学院数の大幅な増加は、高等教育現場はエリート養成から安定社会を支える質の高い中堅層を養成する役割へ変容してきたと言えます。超高齢少子化による人口減少社会の要請に応えるべく、高等教育機関は今後さらに変貌を遂げる必要があります。全国の国立大学保健管理施設が集う国立大学保健管理施設協議会は1957年（昭和32年）12月に発足。その後、国立大学だけでなく、すべての高等教育機関を対象とした社団法人全国大学保健管理協会（Japan University Health Association; JUHA）が1964年（昭和39年）10月に設立し、2002年（平成14年）4月には公益社団法人となりました。500以上の高等教育機関が加盟している全国規模の大学保健管理協会組織は世界でも少なく、JUHAは米国大学保健管理協会（American College Health Association; ACHA）（約1000の全米高等教育機関が加盟する）に次ぐ規模です。2012年（平成24年）のJUHA50周年記念研究集会（兵庫県神戸市）でACHAとの「友好の証」が取り交わされてより、両協会は交流を深めてきました。今回も、本学の『保健管理センター設立50周年記念シンポジウム』におけるCEOの特別講演に加え、第63回全国大学保健管理研究集会（福島県郡山市）でのACHA次期会長特別講演も実現しました。米国保健省が打ち立てた2000年までに全米すべてのキャンパスを敷地内全面禁煙にするというスローガンをきっかけに、ACHAはヘルシーキャンパス活動を推し進めてきました。これに刺激をうけ、JUHAも2020年にヘルシーキャンパス宣言を提唱、全国の大学に活動が展開されています。本学も、「全学生・教職員のウェルネス（幸福）を追求する保健管理センター」を目標に掲げウェルネス活動の展開を図ってきました。ウェルネスルームの開設やウェルネスデイのイベント開催など、保健管理センターは一部の学生のみを対象とするのではなく、全大学構成員の幸福を希求することをモットーとしてきました。

今後とも、我々、保健管理センターは、日々の業務に真摯に取り組みながら、自由な発想で活動を展開し発展してまいります。本学の学生と教職員の健康増進活動は、即ち、全構成員のウェルネス向上と大学組織のウェルビーイングに繋がると信じているからです。

本年報を手にとってくださり、ありがとうございます。当センターの業務ならびに大学生の保健管理体制につき、どうぞ忌憚ない御意見、御示唆を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年2月吉日

保健管理センター長 山本 眞由美

目 次

巻 頭 言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・岐阜大学保健管理センター長 山本眞由美

I 令和6年度 健康管理業務報告

1. 学生の健康管理事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 正規生の定期健康診断結果のまとめ	
1) 定期健康診断受診状況（正規生）・・・・・・・・	3
2) 学部学生・大学院学生の受診率の年次推移（平成19～令和6年）・・・・・・・・	4
3) 定期健康診断 有所見者数と判定基準・・・・・・・・	6
4) 胸部 X 線撮影・・・・・・・・・・・・・・・・	8
5) 血圧測定・・・・・・・・・・・・・・・・	9
6) 尿検査・・・・・・・・・・・・・・・・	10
7) 心電図検査・・・・・・・・・・・・・・・・	12
8) 内科診察・・・・・・・・・・・・・・・・	13
9) 身体計測・・・・・・・・・・・・・・・・	14
10) BMI の分布・・・・・・・・・・・・・・・・	15
11) 血液検査・・・・・・・・・・・・・・・・	17
3. 秋季入学大学院生（新入生）の定期健康診断・・・・・・・・	20
4. 非正規生（研究生・聴講生）の定期健康診断結果のまとめ・・・・・・・・	21
5. 新入生感染症抗体の測定結果・・・・・・・・	23
6. 学生の特種健康診断・・・・・・・・	24
7. 感染症発生状況・・・・・・・・	27
8. 教職員健康管理事業計画（柳戸地区）・・・・・・・・	29
9. 教職員定期健康診断および特種健康診断（実施のまとめ）・・・・・・・・	30

II 令和6年度 年間主要業務報告

1. 業務報告（学生の健康管理を中心に）・・・・・・・・	33
2. 学生の保健管理センター利用状況・・・・・・・・	34
3. 学生を対象とした禁煙支援状況・・・・・・・・	36
4. 健康診断証明書発行、救急搬送し出し状況・・・・・・・・	38
5. 栄養指導件数、ヨガ実施実績、歯科相談件数・・・・・・・・	38
6. 国家資格免許申請のための医療面接・・・・・・・・	39
7. 各種行事における救護待機の詳細・・・・・・・・	39
8. 学生相談室利用状況・・・・・・・・	41

9. 障害学生支援室 支援実施報告	42
10. 業務報告（教職員（柳戸地区）の健康管理にかかわる行事）	44
11. 教職員健康管理室利用状況	45
12. 就業支援について	45

Ⅲ 研究・調査活動

1. 保健管理センタースタッフの業績	47
1) 研究成果の発表	47
2) 研究費獲得状況	49
3) 学会役員	50
4) 学会招待講演、招待シンポジスト、座長	51
5) 学術賞等の受賞状況	51
6) 学会発表	51
7) 講演	54
8) 社会活動	55
9) 報告書他	56
10) 報道	56
2. 報道記事	57

Ⅳ 教育・広報・社会活動

1. 保健管理センター利用案内	61
2. 保健管理センターニュース刊行日本語・英語（No.167～175）	66

Ⅴ 保健管理センター規程等

1. 岐阜大学保健管理センター規程	71
2. 岐阜大学保健管理センター運営委員会細則	72
3. 岐阜大学保健管理センター長候補者推薦及び教育職員選考細則	74
4. 岐阜大学保健管理センター障害学生支援室細則	75
5. 保健管理センター運営委員会委員（令和6年度）	77
6. 保健管理センター学校医・非常勤講師（令和6年度）	77
7. 保健管理センター教職員（令和6年度）	79
8. 保健管理センター 位置図	80

I 令和6年度健康管理業務報告

1. 学生の健康管理事業計画
2. 正規生の定期健康診断結果のまとめ
3. 秋季入学大学院生（新入生）の定期健康診断
4. 非正規生（研究生・聴講生）の定期健康診断結果のまとめ
5. 新入生感染症抗体の測定結果
6. 学生の特殊健康診断
7. 感染症発生状況
8. 教職員健康管理事業計画（柳戸地区）
9. 教職員定期健康診断および特殊健康診断（実施のまとめ）

I 令和6年度 健康管理業務報告

1. 学生の健康管理事業計画

	区 分	対 象 者	実施時期	検 査 項 目 など	
健康調査	新入生の健康調査 (CCAPS 質問票)	新入生・編入生 高得点者	4月～5月 4月～7月	Webによる健康調査(スクリーニング) 精神科医、臨床心理士等による個人面接	
	在学生の健康調査 (CCAPS 質問票)	在学生 高得点者	2月 2月～3月	Webによる健康調査(スクリーニング) 精神科医、臨床心理士等による個人面接	
定期健康診断	定期健康診断	学部・大学院・ 研究生	在学生 2月7、8、9、13、 14、15、16、19、 20、21日	問診、内科診察、胸部X線撮影、身体計測、 視力測定、血圧測定、尿検査(蛋白・糖)、 歯科検診 栄養面談指導(学部・大学院の新2年生対 象)	
			春季新入生・編入 生 4月1、2、3、4日	問診、内科診察、胸部X線撮影、身体計測、 視力測定、血圧測定、尿検査(蛋白・糖)、 血液検査(肝機能(AST、ALT)、血清脂 質(LDLコレステロール、HDLコレステ ロール、中性脂肪)、随時血糖、ヘモグロビ ンA1c、尿酸、感染症抗体(麻疹、風疹、流 行性耳下腺炎、水痘)]	
			秋季新入生 10月9日	心電図検査(学部新入生)	
			非正規生 4月2日、 10月9日	問診、内科診察、胸部X線撮影、身体計測、 視力測定、血圧測定、尿検査(蛋白・糖)	
	事後措置	肥 満	BMI 30 以上	在学生3月～12月 新入生4月～12月	体重再測定、保健指導、学校医による指導、 栄養指導等
			BMI 25 以上	在学生3月～12月 新入生4月～12月	
		や せ	BMI 16.0 以下	在学生3月～12月 新入生4月～12月	
		胸 部 レントゲン	デジタル撮影 有所見者	在学生3月～12月 新入生4月～12月	学校医による結果説明、精査目的で医療機 関紹介等
		血 圧	最高血圧 140 以上 最低血圧 90 以上	在学生3月～12月 新入生4月～12月	血圧再測定、保健指導、精査目的で医療機 関紹介等
		視力(矯正)	0.6 以下	在学生3月～12月 新入生4月～12月	視力再検査等
内 科 診 察		有所見者	在学生3月～12月 新入生4月～12月	学校医による結果説明、精査目的で医療機 関紹介	
尿 検 査		糖(+)蛋白(+) 以上	在学生3月～12月 新入生4月～12月	尿再検査、精査目的で医療機関紹介等	
心 電 図		有所見者	新入生4月～12月	学校医による結果説明、精査目的で医療機 関紹介等	
血 液 検 査	有所見者	新入生4月～12月	保健指導、栄養指導、学校医による結果説 明、精査目的で医療機関紹介等		
既往歴・現病歴	該当者	在学生3月～12月 新入生4月～12月	治療状況の確認、学校医面談、障害学生支 援室と連携等		
その他健康診断	特 殊 健 康 診 断	該当者	4月、10月	問診、診察、血液検査、尿検査など (労働安全衛生法や国立大学協会のガイド ライン等に準じて実施)	
	特殊健康診断事後措置	有所見者	6月、11月	学校医による問診、診察、実験・研究環境 などの確認と指導、担当教官への助言等	
	臨 時 健 康 診 断	伝染病が発生した時など、必要に応じて行なう			
健康教育	健康教育(集団指導)	学生・教職員	前期、後期	共通教育実技系保健体育(必須科目:禁煙、 予防接種、エイズ、AEDの使い方など)、初 年次セミナー(こころの健康、学生相談、自 己健康管理)、教職員FD実施、全学共通教 育(健康科学講義)	

	区 分	対 象 者	実 施 時 期	検 査 項 目 な ど
その他	入学式オリエンテーション	学生	4月	保健管理センターの案内をパワーポイントで作成し、各部局のオリエンテーションで説明してもらっている
	オープンキャンパス 医療待機	該当者	8月	オープンキャンパス
	入学試験医療待機	該当者	共通テスト、 前期・後期入試	入試時応急処置対応、合理的配慮助言等
	学位授与式・ 入学式救護待機	該当者	3月、4月	学位授与式・入学式救護待機等
	国家資格免許申請 のための医療面接	医学科・獣医学科	3月	問診、精神科医面接、証明書発行
	応 急 処 置	学生・教職員・ 本学来訪者	通年	診察、処置、投薬等
	フィジカルヘルス相談	学生・教職員	通年	内科医による相談
	メンタルヘルス相談	学生・教職員	通年	精神科医、臨床心理士による相談
	保 健 指 導（個 別）	学生	通年	医師、保健師、看護師、管理栄養士による 保健指導
	禁 煙 支 援（個 別）	学生	通年	内科診察（院外処方箋発行）、保健指導
	歯 科 相 談	学生	10回/年 第1水曜日 午後	岐阜大学医学部附属病院歯科医師による歯 科相談
	栄 養 指 導	学生	4回/月 毎週水曜日 午後	管理栄養士による栄養相談
	ヨ ガ ク ラ ス	学生	1～2回/月 毎週水曜日 午後	ヨガ講師によるヨガ教室（対面・オン ライン配信）
	い こ ま い セ ミ ナ ー	学生・教職員	7月	日本栄養士会が全国展開している「栄養ワ ンダー」を開催
	障害学生支援室との連携	該当者	通年	障害学生支援室との情報共有、協働
	学内健康増進講演会、FD	主に教職員	通年	学生支援担当者、新採用教職員、部局教授 会等を対象

2. 正規生の定期健康診断結果のまとめ

1) 定期健康診断受診状況（正規生）

4月1日時点で本学に在籍する全学生7294人を対象に、新入生は4月1日～4日間の4日間、その他の在學生は2月7日～21日間の10日間の日程で実施した。上記の期間に受診できなかった学生は、受診の利便性を図るために大学と契約した指定の健康診断実施機関での受診を6月30日まで可能にした。これらの日程における正規生の総受診者数は、学部生4633人、大学院生は1113人、計5746人（受診率79.7%）であった。

		本学 在籍者数 (人)	対象者数 (a) (人)	受診者数 (b) (人)	他機関 受診者数 (c) (人)	受診率 (b)+(c)/(a) (%)
学 部	教 育 学 部	962	962	820	0	85.2
	地 域 科 学 部	449	449	359	0	80.0
	医 学 部	971	971	840	0	86.5
	工 学 部	2,217	2,217	1,736	0	78.3
	応 用 生 物 科 学 部	884	884	773	0	87.4
	社会システム経営学環	125	125	105	0	84.0
	計	5,608	5,608	4,633	0	82.6
大 学 院	教 育 学 研 究 科	92	92	58	8	71.7
	地 域 科 学 研 究 科	31	31	20	0	64.5
	医学系研究科医科学専攻	244	244	14	17	12.7
	医療者教育専攻（修士）	13	13	0	1	7.7
	医学系研究科（看護学）	17	17	4	8	70.6
	工学研究科博士課程	111	111	37	4	36.9
	自然科学技術研究科	1,004	1,004	893	4	89.3
	共同獣医学研究科	25	25	16	3	76.0
	連合農学研究科	123	99	62	2	64.6
	連合獣医学研究科	3	1	0	0	0.0
	連合創薬医療情報研究科	23	23	9	0	39.1
	計	1,686	1,660	1,113	47	69.9
総 計	7,294	7,268	5,746	47	79.7	

学部学生受診状況（学年別）

		在籍者数 (休学者含む) (a) (人)	受診者数 (b) (人)	他機関 受診者数 (c) (人)	受診率 (b)+(c)/(a) (%)
学 部	1 年	1,322	1,282	0	97.0
	2 年	1,322	1,157	0	87.5
	3 年	1,316	990	0	75.2
	4 年	1,386	994	0	71.7
	5 年	119	93	0	78.2
	6 年	143	117	0	81.8
計	5,608	4,633	0	82.6	

2) 学部学生・大学院学生の受診率の年次推移（平成19～令和6年）

学部学生受診率（学年別）

(%)

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
1年	98.0	98.7	99.3	98.2	98.5	99.0	98.8	98.7	99.0	98.3	98.5	98.9	97.8	94.4	96.9	97.0	98.0	97.0
2年	85.3	79.2	88.2	79.1	82.1	81.0	88.2	84.9	80.4	87.5	85.7	87.1	76.1	70.4	80.7	79.7	81.0	87.5
3年	76.6	82.1	87.5	83.1	79.9	84.1	88.1	79.7	72.5	79.6	84.0	81.7	76.6	70.7	73.2	78.4	75.1	75.2
4年	80.2	79.3	84.8	85.9	87.6	82.2	86.3	83.0	74.9	80.0	81.2	83.3	81.5	76.9	72.5	73.6	72.2	71.7
5年	78.1	81.3	88.3	70.5	93.2	60.8	70.5	79.3	61.8	58.3	74.8	75.7	65.9	81.9	77.4	73.4	75.0	78.2
6年	92.8	91.6	97.3	97.5	94.7	99.0	93.3	85.2	86.2	87.9	90.7	84.2	75.8	76.5	84.9	81.6	75.0	81.8
全体	84.7	84.6	89.9	86.5	87.3	86.1	89.8	86.3	81.2	85.5	86.9	87.3	82.4	78.0	80.7	81.8	81.2	82.6

学部学生受診率（学部別）

(%)

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
教育学部	93.7	95.6	96.9	95.3	95.2	95.1	96.5	94.6	93.4	95.6	95.9	95.8	93.3	93.7	91.8	90.3	87.2	85.2
地域科学部	89.1	88.9	92.5	92.3	89.7	92.8	93.6	87.7	82.5	88.7	89.9	88.2	79.2	71.8	81.7	84.7	80.7	80.0
医学部	80.1	79.3	83.8	78.2	90.1	85.3	91.2	83.7	82.1	81.0	85.6	85.1	83.7	86.2	90.3	88.5	85.2	89.5
工学部(昼間)	81.5	80.3	88.5	83.3	83.3	81.8	85.9	81.8	75.7	81.5	82.4	84.0	77.0	69.1	70.7	73.5	75.6	78.3
工学部(夜間)	50.5	51.5	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
応用生物科学部	87.8	88.0	91.0	90.8	84.4	84.0	88.6	84.7	79.4	87.2	87.7	87.3	83.7	78.0	81.4	83.7	84.4	87.4
社会システム経営学環	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100	93.8	80.9	84.0
全体	84.7	84.6	89.9	86.5	87.3	86.1	89.8	86.3	81.2	85.5	86.9	87.3	82.4	78.0	80.7	81.8	81.2	82.6

*受診率の計算式：健康診断受診者数÷対象者数（在学者数）

学部学生の令和6年度における受診率は全平均81.9%で、昨年に比べ0.7%増であった。学年別にみると、2、3、5、6年生の受診率は0.1～6.8%増、1、4年生の受診率は0.5～1.0%減であった。

新入生はガイダンスなどのスケジュールに組み込まれて健康診断を受診するため、例年受診率が高い水準を維持している。学年が上がるごとに受診率が低くなる傾向があり、授業や研究等の忙しさが一因と考えられる。健康診断の必要性和、健康診断期間中に受診できなかった学生に対して学外の健康診断施設で受診可能ということをさらに周知していく必要がある。

昨年と比較し、受診率が低下した学部へは、学部長への周知を行い話し合いを重ね、受診率向上を目指している。教育学部は他学部比べて高い受診率を維持することができていたが、これは、教育実習で学校に立ち入るため、学生が健康診断受診の必要性を十分に認知していることや、学部として健康診断を受診するよう早期から働きかけを行っているためと推察される。近年、教育実習カリキュラムとの兼ね合いで必修授業を健診期間中に実施しており、受診率が低下傾向にあると情報を得たため、学生が健康診断を受診しやすいように学部と調整を行うことは新たな課題である。受診率が高かった学部では、採尿容器の設置場所に工夫をしていたり、学生への通知時に健康診断証明書を発行できるメリットを含めて通知するなどをしてきた。今後も受診率が向上できるように、健康診断受診の意味を周知させるべく保健管理センターと各学部での連携を強化、協力していく必要がある。

大学院生受診率（研究科別）

(%)

年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
教育学研究科	66.9	62.7	76.9	71.1	75.7	78.6	80.5	79.1	75.0	77.3	81.7	81.9	71.1	65.4	76.1	75.8	67.1	71.7
地域科学研究科	51.9	64.1	74.3	80.6	83.3	72.3	68.3	66.7	76.7	60.0	64.7	64.0	73.8	48.4	68.8	48.6	57.6	64.5
医学系研究科 博士前期	74.1	93.3	84.0	85.2	85.2	95.0	95.0	82.6	92.0	85.0	90.0	-	-	-	-	-	-	-
医学系研究科 博士後期	38.1	50.0	28.6	37.8	50.0	63.6	25.0	41.7	40.0	58.3	57.1	62.5	42.9	28.6	33.3	0.0	0.0	-
医学系研究科 医科学専攻	-	36.2	47.5	35.0	24.1	25.2	20.8	15.4	17.5	15.6	22.2	34.9	13.0	10.7	13.0	15.7	15.4	12.3
医療者教育専攻 (修士)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0	50.0	16.7	23.1	7.7
医学系研究科 (看護学修士)	-	45.8	60.0	50.0	38.5	37.5	44.4	30.0	22.2	53.0	43.5	40.9	29.4	26.7	47.4	56.5	50.0	70.6
工学研究科 博士前期	91.7	93.7	95.8	95.3	96.2	94.9	96.0	93.7	93.2	96.1	93.8	20.0	25.0	0.0	0.0	-	-	-
工学研究科 博士後期	46.9	33.8	60.6	54.1	46.9	53.0	59.3	48.8	53.4	35.7	52.7	52.6	-	-	-	-	-	-
工学研究科 博士課程	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	74.1	66.1	57.8	43.8	44.1	36.4	34.8	36.9
応用生物科学 研究科	-	97.2	97.4	93.8	91.3	90.6	90.7	87.9	89.7	88.3	85.2	55.6	-	-	-	-	-	-
農学研究科	84.3	76.9	100	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
自然科学技術研究科 (修士)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	94.3	96.3	93.7	84.9	91.3	90.6	88.8	89.3
共同獣医学研究科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80.0	66.7	64.7	81.0	68.0	76.0
連合農学研究科	66.3	70.9	70.9	69.3	78.6	70.1	68.9	50.9	67.9	56.3	64.7	73.3	64.6	57.3	46.8	52.3	64.6	64.6
連合獣医学研究科	79.5	72.1	70.0	58.7	58.1	54.5	61.5	55.0	43.1	68.3	59.1	80.0	82.1	75.0	50.0	0.0	0.0	0.0
連合創薬医療 情報研究科	58.3	42.9	85.7	62.5	31.6	38.9	33.3	42.3	42.3	50.0	64.0	65.2	41.7	23.1	20.0	27.8	30.0	39.1
全体	74.8	74.7	82.6	80.1	79.2	78.1	78.3	74.3	73.8	75.0	76.5	80.9	75.5	66.1	74.4	70.2	69.1	69.8

大学院生の令和6年度における受診率は全平均69.8%で、昨年に比べ0.7%増であった。

社会人大学院生には、職場で受けた職員定期健康診断結果の写しを提出してもらうことで個人の健康情報を把握し、健康診断受診とみなしている。入学手続き案内や健康診断実施の案内メールにその点を記載しているが、健康診断結果の提出に至っていない学生が多いことが予想される。学務係との連携を強化するなど、周知方法を工夫していく必要がある。キャンパス内に足を踏み入れる以上は、安全管理上、健康状態を把握しておく必要があることを認識し、社会人学生の健康診断の受診あるいは結果提出の周知徹底を図っていききたい。

近年は、外国人留学生が増加しているが、健康診断の仕組みのない国の出身者は、健康診断を受診すること自体が生来初めてという学生もおり、十分な説明が必要である。外国人留学生は情報が本人まで届きにくいことがあるため、配布物や掲示物などは、英語版を準備し、学務係や担当教員と協力して確実に情報が留学生まで届くように努め、外国人留学生が健康診断を安心して受診できるよう連携を図っていききたい。健康診断で病気が発覚する留学生もいるため、健康診断の実施は有意義である。健診事後措置まで繋げていく必要がある。

3) 定期健康診断 有所見者数と判定基準

総合判定の分布人数

	学年・課程	総合判定								総受診者数 (人)
		A (人)	B (人)	C (人)	D (人)	D1 (人)	D2 (人)	E (人)	G (人)	
男 性	1年	150	116	302	138	0	0	0	1	707
	2年	318	77	209	22	0	5	3	1	635
	3年	263	69	163	24	0	11	0	1	531
	4年	244	63	170	20	5	0	4	0	506
	5年	27	7	17	0	0	2	0	0	53
	6年	42	4	21	0	0	0	1	0	68
	院修士課程	292	130	188	99	0	4	5	0	718
	院博士課程	26	10	36	10	0	1	0	0	83
	男性計 (%)	1,362(41.3)	476 (14.4)	1,106(33.5)	313 (9.5)	5 (0.2)	23 (0.7)	13 (0.4)	3 (0.1)	3,301 (100)
女 性	1年	205	108	204	56	0	0	0	2	575
	2年	266	61	164	9	0	17	3	2	522
	3年	257	80	95	13	0	11	1	2	459
	4年	257	93	117	13	0	6	1	1	488
	5年	25	4	6	2	0	2	0	1	40
	6年	31	9	5	2	0	0	2	0	49
	院修士課程	111	57	65	19	0	4	0	1	257
	院博士課程	14	7	23	7	0	2	1	1	55
	女性計 (%)	1,166(47.7)	419 (17.1)	679 (27.8)	121 (4.9)	0 (0.0)	42 (1.7)	8 (0.3)	10 (0.4)	2,445 (100)
合計 (%)	2,528(44.0)	895 (15.6)	1,785 (31.1)	434 (7.6)	5 (0.1)	65 (1.1)	21 (0.4)	13 (0.2)	5,746 (100)	

() 内の数字は受診者全員に対する割合を示す (%)

健康診断総合判定の規準について

判定	説明文	項目	保健管理センターの事後措置
A	異常値はありませんでした。今後とも自己健康管理に心がけてください。	身体計測、血圧、尿、視力、聴力、胸部X線、心電図、診察、肝機能、脂質、糖代謝、尿酸	1年後の健康診断受診を勧奨する。ポピュレーションアプローチや啓発活動の対象者として位置づける。
B	基準値から外れていますが、心配のない範囲です	身体計測、胸部X線、心電図	1年後の健康診断の結果に大きな変化がないか確認する。所見について質問があれば対応する。
C	再検査が必要です	BMI、血圧、尿、視力	保健管理センターで再検査を実施する。
	生活習慣の見直し、改善が必要です（保健指導）	BMI、脂質、尿酸	保健管理センターで保健師・管理栄養士などが保健指導、健康相談に対応する。
	（医療機関での）再検査が必要です	胸部X線、心電図	保健管理センターで医師から結果を説明し、必要に応じて医療機関へ紹介する。
D	D2 詳しい検査が必要です	聴力、胸部X線、心電図、診察、肝機能、脂質、糖代謝、尿酸	保健管理センターで医師から結果を説明し、適切に医療機関へ紹介する。
	D1 治療が必要です	胸部X線、心電図	保健管理センターで医師から結果を説明し、直ちに医療機関へ紹介する。必要であれば修学支援につなげる。
E	治療中	身体計測、血圧、尿、視力、聴力、胸部X線、心電図、診察、肝機能、脂質、糖代謝、尿酸	主治医の管理下にあることを確認する。保健管理センターの医師より照会状を作成し、病状について情報を得る。必要であれば修学支援につなげる。
G	未受診の項目あり	身体計測、血圧、尿、視力、聴力、胸部X線、心電図、診察、肝機能、脂質、糖代謝、尿酸	項目に応じ、適切に対応する。

各検査項目の有所見者数

	再検査基準	身体計測		血圧	尿		胸部 X 線	診察	総受診者数 (人)
		BMI 25 以上 (人)	BMI 18.5 未満 (人)	最高血圧140以上 最低血圧90以上 最高血圧80未満 (人)	蛋白 (+) 以上 (人)	糖 (+) 以上 (人)	所見あり (人)	所見あり (人)	
男 性	1 年	84	130	10	9	3	10	6	707
	2 年	52	109	0	8	1	4	5	635
	3 年	39	112	5	9	2	14	12	531
	4 年	46	96	5	6	2	10	7	506
	5 年	4	9	0	1	0	1	2	53
	6 年	7	6	1	0	0	1	1	68
	院修士課程	85	124	7	7	0	10	12	718
	院博士課程	28	10	0	0	0	3	1	83
	男性 計 (%)	345 (10.5)	596 (18.1)	28 (0.8)	40 (1.2)	8 (0.2)	53 (1.6)	46 (1.3)	3,301 (100)
女 性	1 年	26	119	1	9	1	7	4	575
	2 年	35	85	1	9	2	10	15	522
	3 年	13	97	0	5	1	1	11	459
	4 年	23	116	0	3	1	2	8	488
	5 年	0	7	0	0	1	1	1	40
	6 年	3	10	0	0	0	0	2	49
	院修士課程	15	53	1	4	0	2	3	257
	院博士課程	17	5	0	1	2	1	4	55
	女性 計 (%)	132 (5.4)	492 (20.1)	3 (0.1)	31 (1.3)	8 (0.3)	24 (1.0)	48 (2.0)	2,445 (100)
合 計 (%)	477 (8.3)	1088 (18.9)	31 (0.5)	71 (1.2)	16 (0.3)	77 (1.3)	74 (1.3)	5,746 (100)	

() 内の数字は、男女それぞれあるいは、総受診者数に対する割合を示す (%)

4) 胸部 X 線撮影 (デジタル) (有所見者の内訳) (実施率= 5745/5746 = 99%、既に医療管理下にある 1 人は実施しなかった)

学 年	胸部 X 線 受診者数 (a) (人)	判定 A、B 支障なし (b) (人)	判定 C 再検査 (c) (人)	判定 D 要治療 (d) (人)	判定 D2 要精密検査 (e) (人)	判定 E 治療中 (f) (人)	有所見者数 (g) (人) (c+d+e+f)	有所見率 (g/a) (%)
男 性	1 年	707	697	3	7	0	10	1.4
	2 年	635	631	2	0	2	4	0.6
	3 年	531	517	12	1	1	14	2.6
	4 年	506	496	8	0	1	10	1.8
	5 年	53	52	1	0	0	1	1.9
	6 年	68	67	1	0	0	1	1.5
	院修士課程	718	708	10	0	0	10	1.4
	院博士課程	83	80	3	0	0	3	3.6
男性 計	3,301	3,248	40	8	4	1	53	1.6
女 性	1 年	575	568	1	6	0	7	1.2
	2 年	522	512	5	0	5	10	1.9
	3 年	459	458	1	0	0	1	0.2
	4 年	488	486	2	0	0	2	0.4
	5 年	40	39	0	0	1	1	2.5
	6 年	49	49	0	0	0	0	0.0
	院修士課程	257	255	0	0	2	2	0.8
	院博士課程	54	53	0	0	1	1	1.9
女性 計	2,444	2,420	9	6	9	0	24	1.0
総 計	5,745	5,668	49	14	13	1	77	1.3

有所見者 77 人の事後措置の詳細内容 (人) 医療機関へ精密検査を指示した 43 人の返信状況(人)

指示内容	経過観察	7	→	返信あり	28
	医療機関紹介	43		返信なし	15
医療機関管理下		1		計	43
来所なし		26			
計		77			

返信のあった 28 人の精密検査結果 (人)

異常なし	21
右肺尖嚢胞	2
陳旧性炎症性変化	2
異所性胸腺あるいは胸腺の一部	1
術後変化 (心房中隔欠損修復術後)	1
左下葉炎症性結節の疑い	1
計	28

健康診断受診者のうち、医療管理下にあるため胸部 X 線撮影を実施しなかったのは 1 人であった。有所見者のうち来所のなかった 26 人については、メール、電話等で来所を促すが連絡が取れない学生もいた。今後は、学部や部局に電話するなどの連携をとり、来所に繋げていく必要がある。

返信のあった 28 人のうち、21 人は異常がないことが確認された。右肺尖嚢胞 2 人、陳旧性炎症性変化 2 人、異所性胸腺あるいは胸腺の一部 1 人、術後変化 (心房中隔欠損修復術後) 1 人、左下葉炎症性結節の疑い 1 人であった。

5) 血圧測定（有所見者の内訳）

		受診者数 (a) (人)	判定 C および D2 最高血圧 140mmHg 以上または 最低血圧 90mmHg 以上 (b) (人)	判定 C 最高血圧 80mmHg 未満 (c) (人)	有所見者数 (b+c) (人)	有所見率 (b+c/a) (%)
男 性	1 年	707	10	0	10	1.4
	2 年	635	0	0	0	0
	3 年	531	5	0	5	0.9
	4 年	506	5	0	5	1
	5 年	53	0	0	0	0
	6 年	68	1	0	1	1.5
	院修士課程	718	7	0	7	1
	院博士課程	83	0	0	0	0
	男性 計	3,301	28	0	28	0.8
女 性	1 年	575	1	0	1	0.2
	2 年	522	1	0	1	0.2
	3 年	459	0	0	0	0
	4 年	488	0	0	0	0
	5 年	40	0	0	0	0
	6 年	49	0	0	0	0
	院修士課程	257	1	0	1	0.4
	院博士課程	55	0	0	0	0
	女性 計	2,445	3	0	3	0.1
合 計	5,746	31	0	31	0.5	

有所見者（31 人）の事後措置内容 (人)

保健管理センターで再検査し、一過性の所見で経過観察でよいと判断したもの	4
家庭自己血圧測定を実施し、一過性の所見（白衣高血圧）と確認できたもの	7
医療機関での精密検査を指示したもの	1
現在治療中	2
来所なし	17
計	31

医療機関へ精密検査を指示した 1 人の返信 (人)

返信あり	1
返信なし	0
計	1

返信のあった 1 人の精密検査結果 (人)

正常内	0
本能性高血圧	1
計	1

収縮期血圧 140mmHg 以上または最低血圧 90mmHg 以上の学生は、男性 28 名（0.8%）、女性 3 名（0.1%）であり、男性の方が割合は高かった。来所した学生のうち、一過性の所見で経過観察でよいと判断したものは 4 名、家庭自己血圧測定を実施し、一過性の所見（いわゆる白衣高血圧）と確認できたものは 7 名、医療機関での精密検査を指示したものは 1 名であった。医療機関での精密検査を指示した 1 名のうち、返信があったのは 1 名で、本能性高血圧であった。有所見であるが保健管理センターに来所していない学生は 17 名であった。来所していない学生に対し個別に電話・メールで連絡を取り、健康リスクについて説明していく。また、血圧が高い学生は、次年度の結果を確認し経過をみる必要がある。

6) 尿検査 (有所見者の内訳) 学生には採尿キットを事前に配布し、早朝尿を持参させた。

11 名が検体を提出しなかったため、再検査案内し 1 名が再検査した。

①尿蛋白

		受診者数 (a) (人)	判定 A 異常なし (b) (人)	有所見者数 (+) 判定 C 以上 (c) (人)	有所見率 c/a (%)
男 性	1 年	706	697	9	1.3
	2 年	634	626	8	1.3
	3 年	530	521	9	1.7
	4 年	506	500	6	1.2
	5 年	53	52	1	1.9
	6 年	68	68	0	0.0
	院修士課程	718	711	7	1.0
	院博士課程	83	83	0	0.0
	男性 計	3,298	3,258	40	1.2
女 性	1 年	574	565	9	1.6
	2 年	520	511	9	1.7
	3 年	457	452	5	1.1
	4 年	487	484	3	0.6
	5 年	39	39	0	0.0
	6 年	49	49	0	0.0
	院修士課程	256	252	4	1.6
	院博士課程	55	54	1	1.8
	女性 計	2,437	2,406	31	1.3
合 計	5,735	5,664	71	1.2	

有所見者 71 人の事後措置の詳細内容 (人)

保健管理センターで再検査し、一過性の所見と確認したもの	13
医療機関で精密検査を指示したもの	3
医療管理下のもの	1
来所なし	54
計	71

医療機関へ精密検査を指示した 3 人の返信状況 (人)

返信なし	0
返信あり	3
計	3

返信のあった 3 人の精密検査結果 (人)

軽度蛋白尿	1
異常なし	2
計	2

尿蛋白陽性者のうち、3 名に医療機関で精密検査を指示し、医療機関の返信があった。返信のあった 3 名のうち 1 名は軽度蛋白尿であった。他 2 名は異常なしであった。医療管理下にある 1 名は IgA 腎症であった。保健管理センターで再検査を実施し、陰性を確認した者は 13 名であった。有所見にもかかわらず来所のない 54 名については、メールや電話等で来所を促したが連絡がとれない学生もいたので、次年度の健康診断所見を確認して経過観察する必要がある。

②尿糖

		受診者数 (a) (人)	判定 A 異常なし (b) (人)	有所見者数 (+) 判定 C 以上 (c) (人)	有所見率 (c/a) (%)
男 性	1 年	706	703	3	0.4
	2 年	634	633	1	0.2
	3 年	530	528	2	0.4
	4 年	506	504	2	0.4
	5 年	53	53	0	0.0
	6 年	68	68	0	0.0
	院修士課程	718	718	0	0.0
	院博士課程	83	83	0	0.0
	男性 計	3,298	3,290	8	0.2
女 性	1 年	574	573	1	0.2
	2 年	520	518	2	0.4
	3 年	457	456	1	0.2
	4 年	487	486	1	0.2
	5 年	39	38	1	2.6
	6 年	49	49	0	0.0
	院修士課程	256	256	0	0.0
	院博士課程	55	53	2	3.6
	女性 計	2,437	2,429	8	0.3
合 計	5,735	5,719	16	0.3	

有所見者 16 人の事後措置の詳細内容 (人)

学校医診察により経過観察となったもの	3
医療機関での精密検査を指示したもの	4
医療管理下 (1 型糖尿病 1、2 型糖尿病 1)	2
来所なし	7
計	16

医療機関での精密検査を指示した 4 人の返信結果 (人)

2 型糖尿病 (内服治療)	1
医療機関での経過観察 (境界型 1、妊娠糖尿病 1)	2
異常なし	1
計	4

所見なしだが現病歴に糖尿病の記載があったもの (人)

1 型糖尿病	0
2 型糖尿病	1
計	1

尿糖陽性率は男性 0.2%、女性 0.3%で、全体は 0.3%であった。尿糖陽性者のうち、医療管理下の 2 名は、1 名は 1 型糖尿病、もう 1 名は 2 型糖尿病であった。医療機関での精密検査を指示した 4 名のうち、2 型糖尿病で内服治療開始が 1 名、医療機関での経過観察が 2 名、異常なしが 1 名であった。経過観察や来所のない学生については、次年度の健康診断結果を確認する必要がある。尚、所見にかかわらず、問診で糖尿病と回答があった学生は在学期間中に 1 度は学校医が面談を行い、照会状を介して主治医と医療機関情報を共有した。ちなみに、受診者 5,735 名以外で過去に糖尿病の記載があったものは 2 名であった。1 名は 1 型糖尿病、もう 1 名は 2 型糖尿病であり、電話や面談で現在の状態について確認を行った。

7) 心電図検査 (学部新生・編入生対象) (有所見者の内訳)

学 部 名	受診者数 (a) (人)	判定 C、D2 所見あり (b) (人)	有所見率 (b/a) (%)
教 育 学 部	232	6	2.6
地 域 科 学 部	111	3	2.7
医 学 部	192	3	1.6
工 学 部	545	7	1.3
応 用 生 物 科 学 部	202	2	1.0
社会システム経営学環	31	0	0.0
総 計	1,313	21	1.6

有所見者 21 人の事後措置の詳細内容 (人) 医療機関へ精密検査を指示した 9 人の返信状況(人)

学校医診察により経過観察となったもの	1	→	返信あり	5
医療機関にて精密検査指示したもの	9		返信なし	4
来所なし	11		計	9
計	21			

返信のあった 5 人の精密検査結果 (人)

完全右脚ブロック、房室ブロック、心筋症疑い	1	←
心室性期外収縮	3	←
完全右脚ブロック	1	←
計	5	

心電図の有所見者 21 名のうち、10 名は学校医の診察もしくは保健指導を受け、個別に結果説明を行った。そのうち 1 名は既往歴や症状の有無などを聞き取る中で経過観察と判断された。他 9 名は、医療機関での精密検査を指示された。そのうち、精査結果が確認できたのは 5 名であり、医療管理下となるも、就学上の配慮を要する者はいなかった。また、紹介状の返信がなかった 4 名には、受診状況を確認し、受診していない者に関しては必ず医療機関で精密検査を受けるようにメールで受診勧奨を行った。

8) 内科診察（有所見者の内訳）

	受診者数 (a) (人)	所見あり (判定D・D2) (b) (人)	有所見率 (b/a) (%)	所見内容の内訳 (人)										
				甲状腺腫	心音の異常	皮膚の異常	脈の異常	浮腫・皮膚の異常	結膜蒼白	神経系の異常	四肢関節の異常	(左頸部リンパ節腫脹疑い) その他の所見		
男性	1年	707	6	0.8		4	1							1
	2年	635	3	0.5		2	1							
	3年	531	11	2.1	1	6	4							
	4年	506	4	0.8		4								
	5年	53	2	3.8		2								
	6年	68	1	1.5		1								
	院修士課程	718	8	1.1		4	3					1		
	院博士課程	83	1	1.2	1									
男性計	3,301	36	1.1	2	23	9	0	0	0	0	1		1	
女性	1年	575	4	0.7	3					1				
	2年	522	12	2.3	10	1	1							
	3年	459	11	2.4	6	3	2							
	4年	488	7	1.4	3	1	1	1		1				
	5年	40	1	2.5		1								
	6年	49	1	2.0	1									
	院修士課程	257	3	1.2	2					1				
	院博士課程	55	3	5.5		1	1		1					
女性計	2,445	42	1.7	25	7	5	1	1	2	1	0		0	
合計	5,746	78	1.4	27	30	14	1	1	2	1	1		1	

有所見者（78人）の事後措置の詳細内容 (人)

学校医診察により経過観察となったもの	4
医療機関での精密検査を指示したもの	23
現在治療中	1
来所なし	50
計	78

(下表へ)

医療機関へ精密検査を指示した23人の返信状況 (人)

返信あり	16
返信なし	7
計	23

(下表へ)

返信のあった16人の精密検査結果 (人)

異常なし	5
収縮期機能性心雑音	1
心雑音（三尖弁閉鎖不全中等度 僧帽弁逸脱と逆流）	1
心雑音（軽度の肺高血圧（mild TR）、軽度の右房拡大あり）	1
心雑音（軽度の大動脈弁閉鎖不全症、僧帽弁逸脱症・僧帽弁逆流）	1
僧帽弁逸脱症	1
僧帽弁逸脱症、僧帽弁閉鎖不全症	1
単純性甲状腺腫疑い	1
橋本病	1
関節リウマチ	1
全身性アトピー性皮膚炎	1
肥満症、脂質異常症	1
計	16

有所見者78名中、学校医の診察を受け、医療機関での精密検査を指示されたのは23名であった。医療機関から返信があった学生16名の詳細は、上の表に示す様に11名の新規診断があり、有所見者における新規疾病発見率は、14.1%（11人/78人中）であった。尚、この11名には、修学に際して配慮が必要な学生はいなかった。

9) 身体計測 Body Mass Index (BMI) 値 BMI = 体重 (Kg) / [身長 (m)]² (有所見者の内訳)

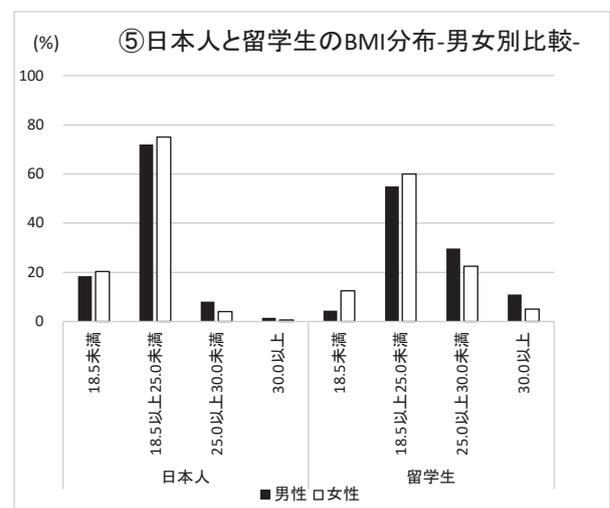
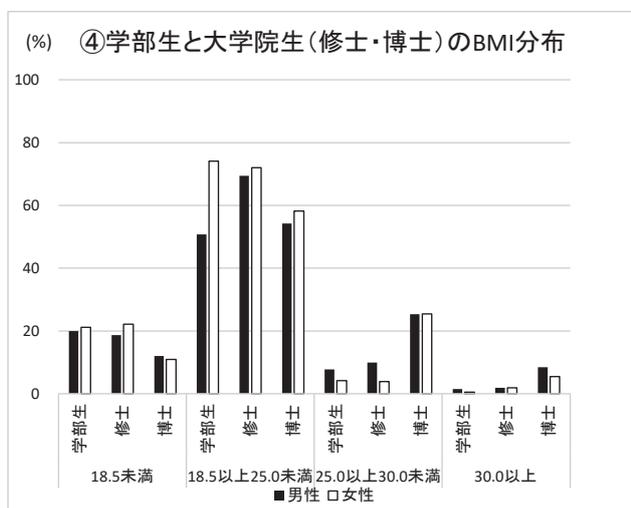
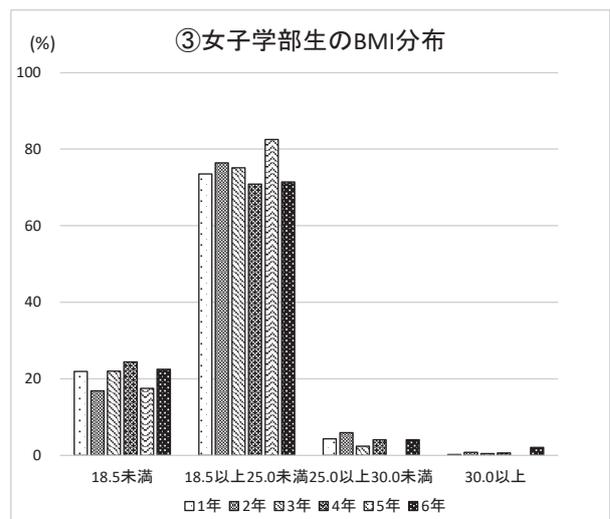
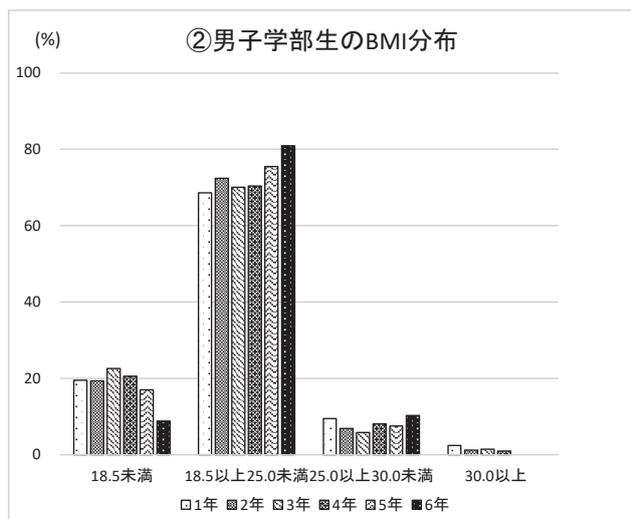
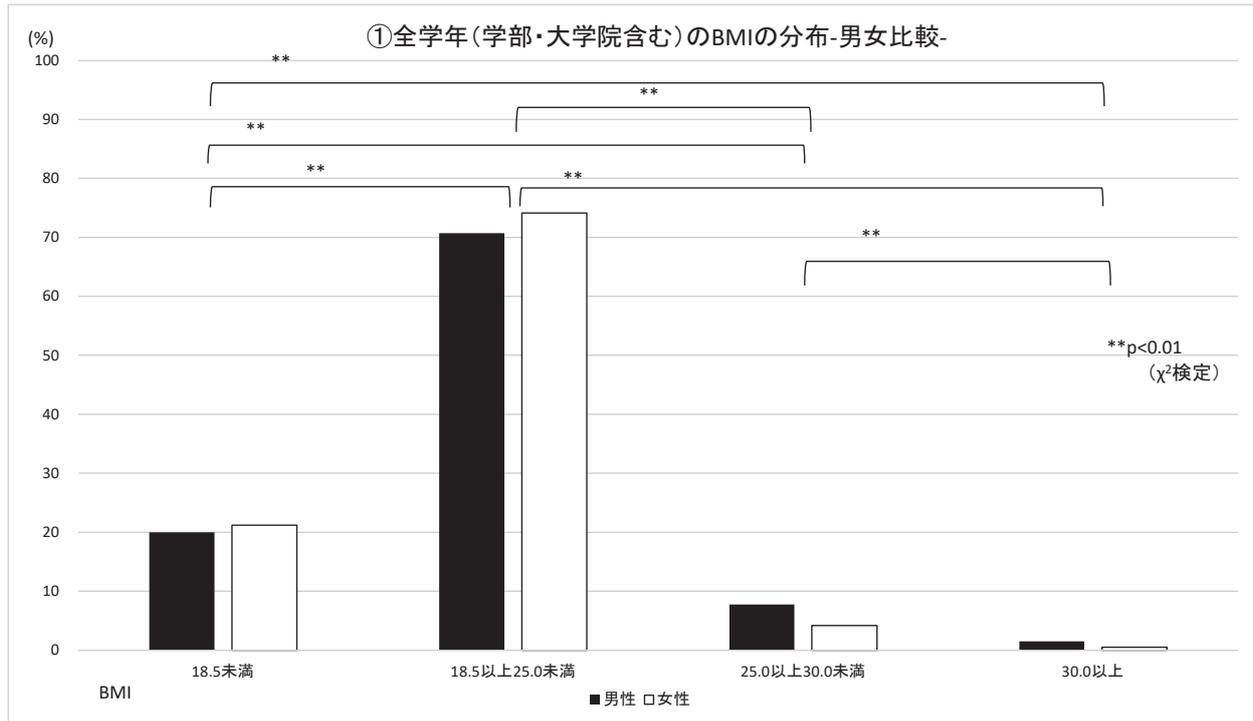
①肥満 (BMI 25.0 以上)

性別	学年	受診者数 (a) (人)	有所見者の内訳 (b)				肥満者数 (BMI25 以上) (b) (人)	有所見率 (b/a) (%)
			体格指数 (BMI) (kg/m ²)					
			判定C 25-29.9(人)	判定D、D2 30-34.9(人)	判定D、D2 35-39.9(人)	判定D2 40-(人)		
男性	1 年	707	67	14	3	0	84	11.9
	2 年	635	44	7	1	0	52	8.2
	3 年	531	31	7	0	1	39	7.3
	4 年	506	41	3	2	0	46	9.1
	5 年	53	4	0	0	0	4	7.5
	6 年	68	7	0	0	0	7	10.3
	院修士課程	716	71	13	0	1	85	11.9
	院博士課程	83	21	7	0	0	28	33.7
	男性計	3,299	286	51	6	2	345	10.5
女性	1 年	575	25	1	0	0	26	4.5
	2 年	522	31	3	1	0	35	6.7
	3 年	459	11	1	1	0	13	2.8
	4 年	488	20	2	1	0	23	4.7
	5 年	40	0	0	0	0	0	0.0
	6 年	49	2	1	0	0	3	6.1
	院修士課程	257	10	5	0	0	15	5.8
	院博士課程	55	14	3	0	0	17	30.9
	女性計	2,445	113	16	3	0	132	5.4
総計	5,744	399	67	9	2	477	8.3	

②低体重 (BMI 18.5 未満)

性別	学年	受診者数 (a) (人)	有所見者の内訳 (b)		低体重者数 (BMI18.5 未満) (b) = (c) + (d) (人)	有所見率 (b/a) (%)	高度やせ (BMI16.0 以下) 所見率 (d/a) (%)
			体格指数 (BMI) (kg/m ²)				
			判定 B 16.1 以上 18.5 未満 (c) (人)	判定 D、D1 16.0 以下 (d) (人)			
男性	1 年	707	128	10	138	19.5	1.4
	2 年	635	112	11	123	19.4	1.7
	3 年	531	110	10	120	22.6	1.9
	4 年	506	90	14	104	20.6	2.8
	5 年	53	9	0	9	17.0	0.0
	6 年	68	6	0	6	8.8	0.0
	院修士課程	716	123	11	134	18.7	1.5
	院博士課程	83	10	0	10	12.0	0.0
	男性計	3,299	588	56	644	19.5	1.7
女性	1 年	575	120	6	126	21.9	1.0
	2 年	522	83	5	88	16.9	1.0
	3 年	459	92	9	101	22.0	2.0
	4 年	488	109	10	119	24.4	2.0
	5 年	40	6	1	7	17.5	2.5
	6 年	49	10	1	11	22.4	2.0
	院修士課程	257	54	3	57	22.2	1.2
	院博士課程	55	6	0	6	10.9	0.0
	女性計	2,445	480	35	515	21.1	1.4
総計	5,744	1,068	91	1,159	20.2	1.6	

10) BMI の分布



全学生（学部・修士・博士課程含む）の男女比をBMI群別にみると（図①）、18.5～25.0の普通体重群に比べて18.5未満の低体重群は女性の方が、25.0以上の肥満群は男性の方が有意に多かった。（カイ2乗検定で $p<0.01$ ）

学部生を学年別で見ると、男子学生（図②）では、1年生の25.0以上の肥満の割合が2～5年と比較して高くなっている。これは、新入生である1年生は、受験による生活習慣の乱れによるいわゆる一過性の受験太りが影響していると考えられる。入学後、様々な理由で食生活が変化したり、生活習慣や運動習慣も変化し、肥満の割合が低下したと考えられる。しかしながら、最終学年となる4年生や6年生では、再び肥満の割合が増加している。また、男子学生（図②）も女子学生（図③）どちらも、どの学年においても25.0以上より18.5未満の割合が多かった。特に女子学生は誤ったボディイメージに従った不必要なダイエットが影響している可能性があるため、将来、妊娠・出産を控えるプレコンセプションケアの観点からも、適正体重を自己管理することの重要性を女子学生には啓発する必要がある。

次に、学部生と大学院生（図④）を比較すると、男子学生は、学部生より修士課程、修士課程より博士課程で、肥満の割合が高い。特に、博士課程における男子学生の肥満の割合は、学部生に比べ「25.0以上30.0未満」、「30.0以上」ともに高い。博士課程に進む学生は、研究等の忙しさや社会人学生が多いことから、食生活管理が不十分になっていたり、運動不足になっていることが原因ではないかと推測される。博士課程における男性学生の肥満の割合が顕著に高いことは、修士や博士課程においては、学部生に比べて外国人留学生の占める割合が高いことから、留学生の肥満割合を反映していると推測される。日本人と留学生（図⑤）を比較すると、留学生は男女ともに「25.0以上30.0未満」、「30.0以上」が日本人に比べて高い。日本人と留学生では、食文化や食生活が異なることに加え、来日後の生活の変化によるストレスが影響していると推察されるが、さらに留学生の多くは小中学校の時代に食育を受けた経験が乏しいと思われ、栄養の知識に乏しい傾向にあり、栄養に関する知識啓発が必要と感じている。岐阜大学では、日本人、留学生に関わらず学部・修士・博士の2年生全員を対象に栄養士による栄養相談を実施している。

本学では、健康診断事後指導として、BMIが25.0以上の学生には、体重再測定および体組成測定実施と保健指導の実施、BMIが30.0以上の学生は、学校医診察を勧めている。男性は、食生活や就寝時間の乱れ等の生活習慣に起因する肥満が多いため、適切な体重コントロールができるように、管理栄養士による栄養指導を強化し、自己管理能力を高めるための知識提供をするように工夫した。さらに、必要な学生には肥満専門外来へ繋ぎ、医療的な介入を勧めた。また、外国人留学生に関しては、食文化や食生活が異なる上に、食育経験のない学生が多いことを踏まえ、管理栄養士等が個々に合わせた知識提供を個人面談で実践した。BMIが18.5未満の学生に対しても、体重再測定および体組成測定実施と体調確認を行うように心がけた。尚、入学時と比べて短期間で体重が大幅に増減した（在学中にBMIが5.0以上の増減）学生に対しては、定期健康診断後、速やかに抽出（入学時BMIとの比較を実施）して面談を実施した。特に、二次性肥満（多のう胞性卵巣症候群などの内分泌疾患を想定して生理不順がないか）、摂食障害（心理的・社会的背景がないか）を否定する問診確認も行う必要があると考えている。

11) 血液検査 (学部新生・大学院新生対象) (有所見者の内訳)

①肝機能検査

	受診者数 (a) (人)	有所見者数 (b)=(D2+E) (人)	有所見者内訳		有所見率 (b/a) (%)	
			判定 D2 AST 41 (IU/L) 以上または ALT 41 (IU/L) 以上 (人)	判定 E (人)		
男性	学部	743	101	101	0	13.6
	修士	403	46	46	0	11.4
	博士	23	3	3	0	13.0
男性合計		1169	150	150	0	12.8
女性	学部	601	19	18	1	3.2
	修士	142	5	5	0	3.5
	博士	17	0	0	0	0.0
女性合計		760	24	23	1	3.2
合計		1929	174	173	1	9.0

②糖代謝検査

	受診者数 (a) (人)	有所見者数 (b)=(D2+E) (人)	有所見者内訳		有所見率 (b/a) (%)	
			判定 D2 血糖値(随時)140(mg/dl)以上または 血糖値(随時)50(mg/dl)未満または ヘモグロビンA1c 6.0(%)以上 (人)	判定 E (人)		
男性	学部	743	3	2	1	0.4
	修士	403	0	0	0	0.0
	博士	23	0	0	0	0.0
男性合計		1169	3	2	1	0.3
女性	学部	601	1	0	0	0.2
	修士	142	0	0	0	0.0
	博士	17	0	1	0	0.0
女性合計		760	1	1	0	0.1
合計		1929	4	3	1	0.2

③脂質検査

	受診者数 (a) (人)	有所見者数 (b)=(D2+E) (人)	有所見者内訳		有所見率 (b/a) (%)	
			判定 D2 中性脂肪 250 (mg/dl) 以上または LDLコレステロール 140(mg/dl)以上 (人)	判定 E (人)		
男性	学部	743	28	28	0	3.8
	修士	403	47	46	1	11.7
	博士	23	1	1	0	4.3
男性合計		1169	76	75	1	6.5
女性	学部	601	25	25	0	3.4
	修士	142	7	7	0	5.5
	博士	17	3	3	0	17.6
女性合計		760	35	35	0	4.6
合計		1929	111	110	1	5.8

④尿酸検査

	受診者数 (a) (人)	有所見者数 (b) (C+D2+E) (人)	有所見者内訳			有所見率 (b/a) (%)	
			判定 C 尿酸 7.6-8.9 (mg/dl) (人)	判定 D2 尿酸 9.0 (mg/dl) 以上 (人)	判定 E (人)		
男性	学部	743	18	14	4	0	2.4
	修士	403	14	12	2	0	3.5
	博士	23	0	0	0	0	0.0
男性合計		1169	32	26	6	0	2.7
女性	学部	601	0	0	0	0	0.0
	修士	142	1	1	0	0	0.7
	博士	17	0	0	0	0	0.0
女性合計		760	1	1	0	0	0.1
合計		1929	33	27	6	0	1.7

※①-④の検査項目重複学生あり

※E判定とは健診時すでに治療中の学生を示す。

有所見者(276人=①~④の(b)合計-重複学生数)の事後措置内容 (有所見率=276/1929×100=14.3%)

学校医の判断で経過観察で良いと判断したもの	4
医療機関での精密検査を指示したもの	106
来所なし	166
計	276

医療機関へ精密検査を指示した 106 人の返信 (人)

返信あり	52
返信なし	54
計	106

返信のあった 52 人の精密検査結果 (人)

再検査で異常なし	26
肝機能障害	2
肝機能異常	1
高 LDL コレステロール血症	3
家族性高コレステロール血症疑い	2
高トリグリセリド血症疑い、肝機能異常疑い	1
脂質異常症	7
非アルコール性脂肪肝性肝疾患 (MASLD)	1
脂肪肝	6
脂肪肝、高コレステロール血症	1
中性脂肪高値	1
高尿酸血症	1
計	52

新入生定期健康診断では、毎年血液検査（肝機能検査，糖代謝検査，脂質検査，尿酸検査）を実施している。どの項目においても、女性よりも男性の有所見率が高かった。特に、肝機能検査や尿酸検査においては、圧倒的に男性の有所見率が高い。生活習慣病における性差について、壮年期、中年期で指摘されているが、大学生の年代（若年成人）においても、性差があることが示された。特に、ほとんどが脂肪肝と推察される肝機能異常（ALTが30以上）と、遺伝的背景が関与すると推察される高尿酸血症は、この年代においても男性に多いことが示された。この性差メカニズムについては今後の検討が必要である。脂肪肝は、将来の肝硬変や肝臓癌など、また、高尿酸血症は将来の痛風発作だけでなくCKD（慢性腎臓病）のリスクを高めることが分かっているので、若年成人の時期から十分な医療管理に繋げる必要があると考える。

血液検査の有所見者 276 人のうち、医療機関での精密検査を指示したものが 106 人、来所なしが 166 人であった。せっかく費用をかけて血液検査を実施しても事後指導が実施できなくては意味がないため、有所見者をいかに事後指導に繋げていくか検討が必要であると考え。医療機関での精密検査を指示した 106 人のうち、返信があった学生は 52 人であった。返信のあった学生 52 人のうち、26 人は異常なしと診断され、他 26 人は肝機能障害や脂質異常症、脂肪肝等といった診断があり、経過観察の指示や、医療機関で食事や運動療法などの医療管理下となった。

3. 令和6年 秋季入学大学院生（新入生）の定期健康診断

秋季大学院新入生 受診状況

	対象者数※ (a) (人)	受診者数 (b) (人)	受診率 (b/a) (%)
外国人留学生	25	22	88.0
日本人学生	6	4	66.7
合計	31	26	83.9

※対象者は在籍者で、この中には未来日者の数も含む

秋季大学院新入生 有所見者数

	受診者数 (b) (人)	有所見者 判定 C・D (c) (人)	有所見率 (c/b) (%)
身体計測	26	9	34.6
視力	26	11	42.3
血圧	26	0	0.0
尿検査	26	1	3.8
胸部 X 線	26	0	0.0
診察	26	1	3.8
脂質	26	6	23.1
肝機能	26	2	7.7
糖代謝	26	1	3.8
尿酸	26	1	3.8
全体	26	20	76.9

※有所見の規準は、春季と同じ。

有所見者（C・D判定）は上記の表に示す様で、身体計測9名、視力11名、尿検査1名、診察1名、脂質6名、肝機能2名、糖代謝1名、尿酸1名、有所見者数は20人（有所見者率76.9%）であった。有所見者には必要に応じ保健指導を実施した。尚、外国人留学生に対しては、学校医が英語で対応した。

4. 非正規生（研究生・聴講生）の定期健康診断結果のまとめ

令和6年 春季入学生（非正規生）健康診断

春季非正規生 受診状況（男女別）

	対象者数 (a) (人)	受診者数 (b) (人)	他機関 受診者数 (c) (人)	受診率 (b)+(c)/(a) (%)
男 性	58	16	19	60.3
女 性	25	9	8	68.0
計	83	25	27	62.7

春季非正規生 受診状況（日本人学生と外国人留学生）

	対象者数 (a) (人)	受診者数 (b) (人)	他機関 受診者数 (c) (人)	受診率 (b)+(c)/(a) (%)
日本人学生	* 60	12	27	65.0
外国人留学生	23	13	0	56.5
計	83	25	27	62.7

*うち、17人はオンライン受講学生。

春季非正規生 有所見者数

	受診者数 (b) (人)	有所見者数(d) 判定C・D (人)	有所見率 (d/b) (%)
身体計測	25	3	14.3
視力	25	9	42.9
血圧	25	1	4.8
尿検査	25	0	0.0
胸部X線	25	0	0.0
診察	25	0	0.0
全体	25	12	57.1

※有所見の規準は、正規生と同じ。

春季入学生（非正規生）の受診率は62.7%であった。

春季非正規生のうち有所見者（C・D判定）は身体計測3名、視力9名、血圧1名で、有所見者は12人（有所見者率57.1%）であった。有所見者には、学内の教育支援システムのメールを利用して、保健管理センターで再検査および保健指導、学校医面談を受けるよう伝えた。

令和6年 秋季入学生（非正規生）健康診断

秋季非正規生 受診状況（男女別）

	対象者数 (a) (人)	受診者数 (b) (人)	他機関 受診者数 (c) (人)	受診率 (b)+(c)/(a) (%)
男性	51	26	3	56.9
女性	37	25	5	81.1
計	88	51	8	67.0

秋季非正規生 受診状況（日本人学生と外国人留学生）

	対象者数 (a) (人)	受診者数 (b) (人)	他機関 受診者数 (c) (人)	受診率 (b)+(c)/(a) (%)
日本人学生	* 33	1	7	24.2
外国人留学生	55	50	1	92.7
計	88	51	8	67.0

*うち、15人はオンライン受講学生。

秋季非正規生 有所見者数

	受診者数 (b) (人)	有所見者数(d) 判定 C・D (人)	有所見率 (d/b) (%)
身体計測	51	17	33.3
視力	51	17	33.3
血圧	51	1	2.0
尿検査	51	2	3.9
胸部 X 線	51	1	2.0
診察	51	1	2.0
全体	51	28	54.9

※有所見の規準は、正規生と同じ。

秋季入学生（非正規生）の受診率は67.0%であった。

有所見者（C・D判定）は、身体計測17名、視力17名、血圧1名、尿検査2名、胸部 X 線1名、診察1名で、有所見者は28人（有所見者率54.9%）であった。有所見者には、学内の教育支援システムのメールを利用し、保健管理センターで再検査および保健指導、学校医面談を受けるよう伝えた。

社会人学生については、職場で受けた定期健康診断の写しを提出することで受診としているが、浸透されていないように思われる。よって、これまでの周知方法を見直し、検討していく必要がある。オンラインの講義のみ受講する学生についても、教員から、職場で受けた定期健康診断の写しを提出するよう周知していただくよう依頼した。

5. 新入生感染症抗体の測定結果

新入生（学部、大学院）全員に、四種類の感染症（麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘）の抗体測定を実施した。日本環境感染症学会の基準に基づき、抗体価が不十分かつ生来2回予防接種を打っていない学生には、追加ワクチン接種を学務情報システム（Web）を利用して推奨した。また、保健管理センターを来所した学生には、個別で予防接種の必要性を説明し、追加接種を促した。

令和6年 春季入学生（正規生、編入生含む）四種抗体（麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘）陽性率

		受診者 ^{**} （人）	抗体陽性者（人）	抗体陽性率（%）
四種抗体 (EIA 法)	麻疹	1,879	250	13.3
	風疹	1,879	442	23.5
	流行性耳下腺炎	1,879	1,037	55.2
	水痘	1,879	1,462	77.8

令和6年 秋季入学大学院生（正規生）四種抗体（麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘）陽性率

		受診者 ^{**} （人）	抗体陽性者（人）	抗体陽性率（%）
四種抗体 (EIA 法)	麻疹	26	11	42.3
	風疹	26	19	73.1
	流行性耳下腺炎	26	17	65.4
	水痘	26	21	80.8

感染症抗体測定法（EIA 法）と抗体陽性判定基準値

項目	測定方法	基準値
麻疹	EIA 法 - IgG	16.0 以上
風疹	EIA 法 - IgG	8.0 以上
流行性耳下腺炎	EIA 法 - IgG	4.0 以上
水痘	EIA 法 - IgG	4.0 以上

（日本環境感染症学会 医療関係者のためのワクチンガイドライン第5版2026年
URL：http://www.kankyokansen.org/wp-content/uploads/vaccine-guideline_05.pdf より）

6. 学生の特殊健康診断

目的：学生の就学上の安全管理を図るため、労働安全衛生法に準じた特殊健康診断を学生にも実施した。

X線・RI取扱者は、放射線障害防止法による。

対象者：有機溶剤、特定化学物質、電離放射線（RI・X線バッジ使用者）の取り扱いをする学生および新規に取り扱いを開始する学生

実施日程：前期 令和6年4月17日（水） 13：30～15：30

令和6年4月18日（木） 9：30～11：30、13：00～15：30

令和6年4月19日（金） 9：30～11：30、13：00～15：30

後期 令和6年10月23日（水） 13：30～16：00

1) 前期特殊健康診断（結果のまとめ）

(1) 学部別の対象者登録者数と受診者数

学 部 名	登録者数 (a) (人)	受診者数 (b) (人)	受診率 (b/a) (%)
工 学 部	88	83	94.3
応 用 生 物 科 学 部	40	39	97.5
教 育 学 部	9	9	100.0
学 部 計	137	131	95.6
教 育 学 研 究 科	3	3	100.0
医 学 系 研 究 科	9	5	55.6
工 学 研 究 科	6	6	100.0
自 然 科 学 技 術 研 究 科	189	180	95.2
連 合 創 薬 医 療 情 報 研 究 科	7	7	100.0
連 合 農 学 研 究 科	12	11	91.7
共 同 獣 医 学 研 究 科	7	7	100.0
大 学 院 計	233	219	94.0
総 計	370	350	94.6

(2) 結果

有機溶剤取扱者

判 定	人 数 (人)
管理 A	286
B①	1

電離放射線取扱者

判 定	人 数 (人)
管理 A	133

有機溶剤代謝物判定

判 定	キシレン (人)	NNジメチルホルムアルデヒド(人)	トルエン (人)	ノルマルヘキサン(人)
分布 1	31	57	74	145
分布 2	0	0	1	0

特定化学物質取扱者

物質名	人数(人)	物質名	人数(人)
アクリルアミド	46	ジクロロエタン	11
四塩化炭素	24	ジクロロメタン	89
クロム酸	11	テトラクロロエタン	10
ベンゼン	10	CMME	10
マンガン	13	ニッケル化合物	14
クロロホルム	157	ナフタレン	1
1,4-ジオキサン	3	コバルト及びその化合物	12

すべて A 判定

2) 後期特殊健康診断 (結果のまとめ)

(1) 学部別の対象者登録者数と受診者数

学 部 名	登録者数 (a) (人)	受診者数 (b) (人)	受診率 (b/a) (%)
工 学 部	29	27	93.1
応 用 生 物 科 学 部	49	43	87.8
学 部 計	78	70	89.7
医 学 系 研 究 科	7	6	85.7
自 然 科 学 技 術 研 究 科	34	26	76.5
連 合 農 学 研 究 科	6	4	66.7
工 学 研 究 科 (博 士 課 程)	1	1	100.0
共 同 獣 医 学 研 究 科	4	3	75.0
大 学 院 計	52	40	76.9
総 計	130	110	84.6

(2) 結果

有機溶剤取扱者

判 定	人 数 (人)
管理 A	60

電離放射線取扱者

判 定	人 数 (人)
管理 A	50

有機溶剤代謝物判定

判 定	キシレン (人)	NNジメチルホルムアミド(人)	トルエン (人)	ノルマルヘキサン(人)
分布 1	1	4	17	23
分布 2	0	0	0	0

特定化学物質取扱者：

物質名	人数(人)	物質名	人数(人)
アクリルアミド	5	ジクロルメタン	16
弗化水素	1	コバルト及びその化合物	1
マンガン	1	インジウム化合物	1
クロロホルム	26		

すべて A 判定

【参考】 管理区分判定表

管理区分 A	異常なし（自覚症状及び異常所見はほとんど認められない）
管理区分 B	管理区分 C には該当しないが、当該業務による異常の疑いがある
B①	要経過観察
B②	要再検
B③	要精密検査
管理区分 C	異常がある（当該業務による自覚症状が多く、かつ持続的で、他覚所見が著名に認められる）
C①	要治療
C②	就業禁止
管理区分 R	当該業務以外の原因による疾病または異常が就業することにより悪化する恐れがある

【参考】 代謝物判定表

分布 1	対象となる有機溶剤のその職場での気中濃度が許容濃度の 1/3 以下である可能性が大きく、作業員への平均的暴露量も少ない状態
分布 2	許容濃度以下だがその 1/3 を超えている可能性が大きく、作業員への平均的暴露量がやや多い状態
分布 3	許容濃度を超えている可能性が大きく、作業員への平均的暴露量もかなり多い状態 その職場の作業環境や作業方法を調査し暴露の低減努力が必要

有機溶剤名	検査内容	分布		
		1	2	3
キシレン	尿中のメチル馬尿酸 (g/l)	0.5 以下	0.5 超、1.5 以下	1.5 超
NNジメチルホルムアルデヒド	尿中のN-メチルホルムアミド(mg/l)	10 以下	10 超、40 以下	40 超
1・1・1-(ト)リクロロエタン	尿中のトリクロロ酢酸 (mg/l)	3 以下	3 超、10 以下	10 超
	尿中の総三塩化物 (mg/l)	10 以下	10 超、40 以下	40 超
トルエン	尿中の馬尿酸 (g/l)	1 以下	1 超、2.5 以下	2.5 超
ノルマルヘキサン	尿中の 2.5-ヘキサジオン(mg/l)	2 以下	2 超、5 以下	5 超

7. 感染症発生状況

保健管理センターでは、迅速な感染症発生状況把握と対応のため、Formsによる感染症入力フォーマットでの報告を実施している。

①新型コロナウイルス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生	5	11	31	138	8	6	7	11	21	15	8	1	262
教職員	31	33	5	22	14	5	4	1	5	4	16	4	144
附属病院	0	0	4	5	3	1	1	0	2	1	2	0	19
附属小中学校(職員含)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保育園(職員含)	0	0	0	1	1	0	1	0	2	1	0	0	6

②インフルエンザ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生	7	2	1	0	0	0	1	5	119	60	1	2	198
教職員	0	0	0	0	0	0	1	1	18	10	0	0	30
附属病院	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
附属小中学校(職員含)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保育園(職員含)	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5

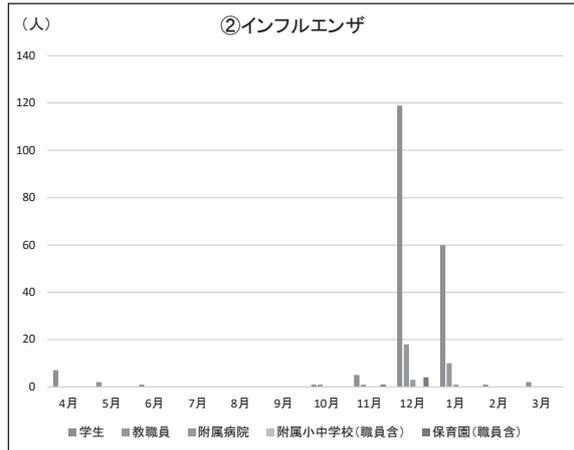
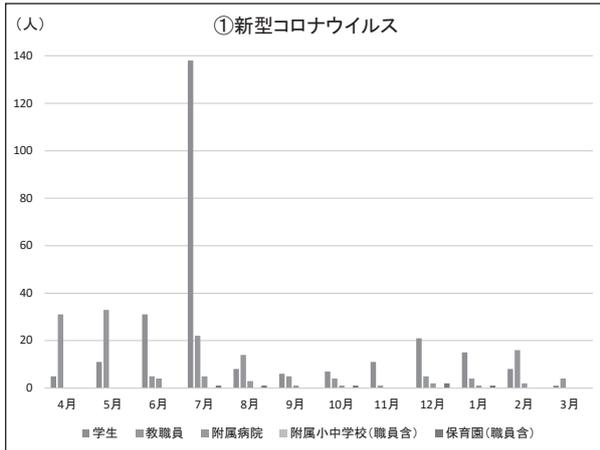
③その他の伝染病

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生	0	7	1	1	0	0	3	3	2	1	3	0	21
教職員	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	3
附属病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
附属小中学校(職員含)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保育園(職員含)	2	4	14	27	2	5	11	0	1	1	8	0	75

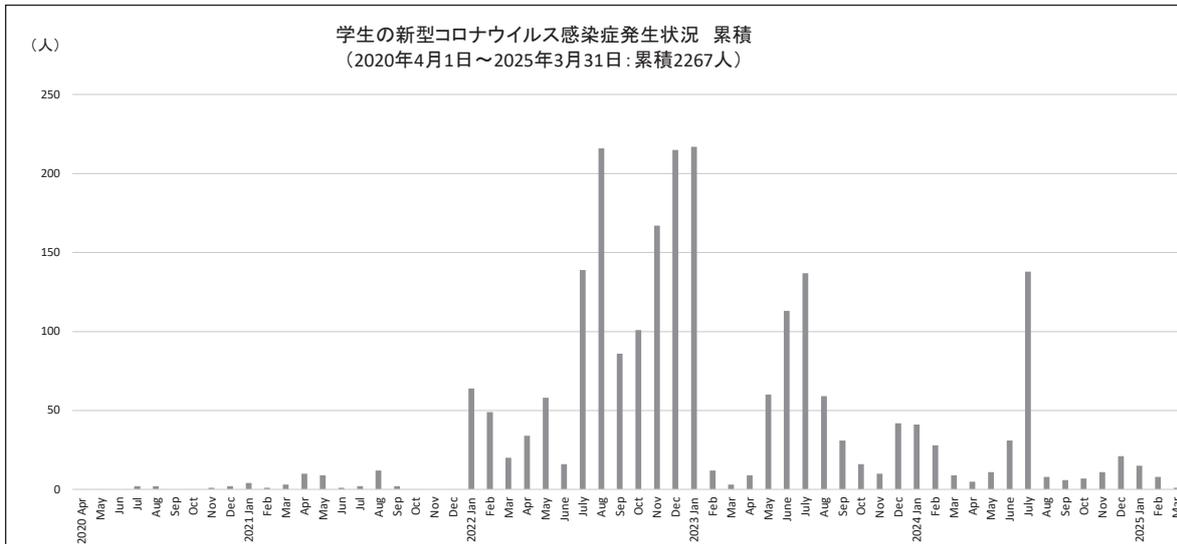
内訳：水痘2人、手足口病(疑い含む)55人、RSウイルス10人、ヘルパンギーナ3人、溶連菌感染症2人、流行性角結膜炎2人、アデノウイルス1人、ヒトメタニューモウイルス1人、診断名なし6人

Formsの聞き取り内容は各個人の連絡先、所属、部活動、住居(大学寮や国際交流会館)、同居者の有無、感染症の種類、新型コロナワクチンの接種状況、受診病院名、症状発症日、診断日、現在の症状、感染経路、最終来学日、出校停止期間まで記載することになっている。また、各感染症の出校停止期間を明記して理解を促すように記載している。感染拡大予防の観点と、各個人の健康管理の観点から情報集約ができるシステムとなっている。リアルタイムで報告ができるため、迅速に保健管理センターが対応できる。項目の最後には質問事項の有無を設け、必要な対象者には電話やメールで保健指導を実施している。学生に学業上の不利益が伴わないよう、必要時には保健管理センターで証明書を発行し担当教員に配慮を求めることもある。各個人に不利益が生じる可能性があるため、体調不良報告を躊躇することとなり、感染拡大にも拍車をかけることになるため、学生が報告しやすい体制作りは大切である。今後も世の中の情勢に合わせて内容を更新し、迅速な情報収集に努める。

令和6年4月からは新型コロナウイルスは5類感染症へ移行し、通常の医療体制となった。令和6年度の岐阜大学の新型コロナウイルス発生状況推移は、厚生労働省が発表している新規陽性者数の全国推移と連動していた。令和5年度、令和6年度共に夏季に流行している。また、その他の感染症の報告が昨年、一昨年より増加している。この傾向も全国的な感染症の拡がりと同様の動きである。令和6年度は新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行し、人の移動が活発化したことが、患者増加の背景にあると考えられる。感染拡大が繰り返された約3年間、行動制限やマスク着用の徹底で、さまざまな病原体にさらされる機会が減っており、それが病気への抵抗力を弱めたとも考えられている。



新型コロナウイルス感染症 (2020年4月1日～2025年3月31日)	合計	学生	教職員	附属病院	保育園
累積数 (人)	3474	2267	555	594	58



8. 教職員健康管理事業計画（柳戸地区）

教職員の健康管理

	区 分	対 象 者	実施時期	内 容
健康診断事後措置	定期健康診断事後措置	有所見者	随 時	産業医、保健師による面談、保健指導 受診勧奨
		ストレスチェックによるメンタルヘルス相談の希望者	随 時	産業医による面談
	特定業務従事者健康診断事後措置	有所見者	随 時	産業医、保健師による面談、保健指導 受診勧奨
	特殊健康診断事後措置	有所見者およびその就業場所	随 時	産業医の特別巡視 産業医、保健師による面談、保健指導
	リスクアセスメント対象物健康診断事後措置	有所見者およびその就業場所	随 時	産業医の特別巡視 産業医、保健師による面談、保健指導
	採用時健康診断事後措置	有所見者	随 時	産業医、保健師による面談、保健指導 受診勧奨
	海外派遣労働者健康診断事後措置	受診者	随 時	産業医による面談、保健指導、受診勧奨 予防接種の勧奨
その他	麻薬施用者免許申請のための医師面接	麻薬取扱業務に携わる教職員	通 年	医師の面談、診断書作成
	電離放射線健康診断受診証明書発行	電離放射線業務に携わる教職員	通 年	特殊健康診断結果の証明
	応急処置	教職員	通 年	処置、医療機関情報の提供および紹介
	健康相談	教職員	通 年	産業医による相談、医療機関情報の提供および紹介
	メンタルヘルス相談	教職員	通 年	産業医による相談、医療機関情報の提供および紹介
	過重労働職員に対する面接	過重労働のあった教職員	随 時	産業医による面談、事業主への勧告
	就業支援	就業上の悩みをもつ教職員	随 時	医師による面談、部局との連絡調整 事業主への勧告
	復職支援	療養中または療養後復職した教職員	随 時	産業医による面談、部局との連絡調整 事業主への勧告
禁煙指導	教職員	通 年	禁煙についての相談 医療機関情報の提供および紹介	

労働安全衛生活動

	区 分	実 施 者	実施時期	内 容
委員会	安全衛生推進室会議 安全衛生推進委員会 安全衛生委員会	産業医 保健師（衛生管理者）	毎月各1回	柳戸地区の労働安全衛生活動について討議
職場巡視	産業医巡視	産業医	毎月1回	柳戸地区の就業場所を巡視
	職場巡視	保健師（衛生管理者）	毎週1回	本部およびセンターの就業場所を巡視
	産業医特別巡視	産業医 保健師（衛生管理者）	随 時	特殊健康診断にて異常所見があった場合、作業環境測定にて第2管理区分以上となった場合、労働災害が起こった場合に、当該就業場所を視察。労働安全衛生上必要な指示、指導を行う
安全衛生教育	感染症にかかわる巡視	産業医 保健師	随 時	感染症が蔓延した際に、当該就業場所を視察。感染症対策に必要な指示、指導を行う（必要に応じて消毒の実施）

9. 教職員定期健康診断および特殊健康診断（実施のまとめ）

1) 教職員健康診断項目

検査項目		34歳以下 36～39歳	41歳～44歳	35歳・40歳・ 45歳以上	
定期健康診断	医師診察	問診、内科診察	○		
	身体計測 (体格指数)	身長	○		
		体重		○	○
		腹囲	—		
	視力検査	遠視力	○		
	聴力検査	1000Hz、4000Hz	—	—	○
		会話法	○	○	—
	血圧検査	座位			
	胸部X線撮影検査	デジタル撮影			
	尿検査	糖			
		蛋白			
		潜血			
	血液検査	肝機能検査	AST、ALT、 γ -GTP	○	○
		血中脂質検査	HDLコレステロール、LDLコレステロール、中性脂肪		○
		血液一般検査	白血球数、赤血球数、色素量、ヘマトクリット値、血小板数、MCV、MCH、MCHC		
腎機能検査		クレアチニン、e-GFR			
代謝検査		血糖値、ヘモグロビンA1c、尿酸値			
感染症抗体検査	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎	産業医が指示した者			
心電図検査	安静時	—	○	○	
がん検診	胃がん	胃部X線検査	—	年度末年齢が50歳以上かつ奇数の者	
	乳がん	問診およびマンモグラフィデジタル撮影	年度末年齢が40歳以上かつ奇数の女性		
	子宮頸がん	内診、細胞診、問診	年度末年齢が20歳以上かつ奇数の女性		
	大腸がん	便潜血反応	年度末年齢が40歳以上の者		

検査項目		病原体汚染業務従事者	ホルムアルデヒド取扱業務従事者	エチレンオキド取扱業務従事者
特定業務従事者健康診断	医師診察	内科診察、問診		
	身体計測 (体格指数)	身長		
		体重		
		腹囲 (35歳及び40歳以上の方)		
	視力検査	遠視力	○	○
	血圧検査	座位	○	
	尿検査	糖		
		蛋白		
		潜血		
	肝機能検査	AST、ALT、 γ -GTP		
肝炎ウイルス検査	HBs抗体 (上期のみ)		—	

※定期健康診断と重複する項目は省略した。

検査項目		放射線業務従事者	有機溶剤取扱業務従事者	特定化学物質取扱業務従事者	林業チェーンソー業務従事者
特殊健康診断	医師診察	診察、問診、業務歴の聴取	○	○	○
		視診、触診 (痛覚、爪圧迫、振動覚、皮膚温)	—	—	—
	血液検査	白血球数、白血球百分率、赤血球数、色素量、ヘマトクリット値	○	—	—
	取扱物質ごとの検査	血液検査 (貧血、肝機能)、尿、代謝産物、胸部X線などの各検査	—	○ 該当者のみ	○ 該当者のみ
	運動機能検査	握力検査	—	—	—

検査項目	リスクアセスメント対象物質取扱業務従事者
リスクアセスメント 対象物質健康診断	医師が必要と認める項目 リスクアセスメント対象物についての調査票で健康診断対象となった者のみ

2) 定期健康診断および特殊健康診断等受診状況（柳戸地区【医学部除く】）

一般健康診断

	該当者 (a) (人)	受診者 (b) (人)	受診率(b)/(a) (%)	**有所見者 (c) (人)	有所見率(c)/(b) (%)
定期健康診断（特定業務従事者健康診断 上期を含む）	1,175	851	96.1	479	64.1
(*人間ドック代替受診)		279		244	
雇入時健康診断	36	36	100.0	34	94.4
海外派遣労働者健康診断	1	1	100.0	1	100.0
特定業務従事者健康診断（下期）	62	61	98.4	22	36.1
合 計	1,274	1,228	96.4	780	63.5

*人間ドック代替受診数・・・人間ドックの結果を事業所へ提出した人数

がん検診

	該当者 (a) (人)	☆受診者 (b) (人)	受診率(b)/(a) (%)	*有所見者 (c) (人)	有所見率(c)/(b) (%)
胃がん検診 (他の医療機関を受診しない、年度末年齢 が50歳以上かつ奇数の方(65歳まで))	240	60	25.0	7	11.7
子宮頸がん検診 (他の医療機関を受診しない、年度末年齢 が20歳以上かつ奇数の女性の方(65 歳まで))	232	111	47.8	5	4.5
乳がん検診 (他の医療機関を受診しない、年度末年齢 が40歳以上かつ奇数の女性の方(65 歳まで))	159	85	53.5	10	11.8
大腸がん検診 (他の医療機関を受診しない、年度末年齢 が40歳以上の方(65歳まで))	818	289	35.3	18	6.2
合 計	1449	545	37.6	40	7.3

☆受診者数・・・人間ドック、地域検診、かかりつけ医で受診した人数は除く

特殊健康診断

	該当者 (a) (人)	受診者 (b) (人)	受診率(b)/(a) (%)	*有所見者 (c) (人)	有所見率(c)/(b) (%)	
上期	放射線業務従事者	90	86	95.6	10	11.6
	有機溶剤取扱業務従事者	110	104	94.5	10	9.6
	特定化学物質取扱業務従事者	53	53	100.0	10	18.9
	林業チェーンソー業務従事者	2	2	100.0	0	0.0
	上期合計	255	245	96.1	30	12.2
下期	放射線業務従事者	86	78	90.7	13	16.7
	有機溶剤取扱業務従事者	97	95	97.9	10	10.5
	特定化学物質取扱業務従事者	48	48	100.0	9	18.8
	林業チェーンソー業務従事者	2	0	0.0	0	0.0
	下期合計	233	221	94.8	32	14.5

リスクアセスメント対象物健康診断

	該当者 (a) (人)	受診者 (b) (人)	受診率(b)/(a) (%)	*有所見者 (c) (人)	有所見率(c)/(b) (%)	
上期	リスクアセスメント対象物質取 扱業務従事者	0	0	0.0	0	0.0
	上期合計	0	0	0.0	0	0.0
下期	リスクアセスメント対象物質取 扱業務従事者	0	0	0.0	0	0.0
	下期合計	0	0	0.0	0	0.0

**有所見者数・・・岐阜大学柳戸地区（医学部除く）の判定人数

Ⅱ 令和6年度年間主要業務報告

1. 業務報告（学生の健康管理を中心に）
2. 学生の保健管理センター利用状況
3. 学生を対象とした禁煙支援状況
4. 健康診断証明書発行、救急靴貸し出し状況
5. 栄養指導件数、ヨガ実施実績、歯科相談件数
6. 国家資格免許申請のための医療面接
7. 各種行事における救護待機の詳細
8. 学生相談室利用状況
9. 障害学生支援室 支援実施報告
10. 業務報告
（教職員（柳戸地区）の健康管理にかかわる行事）
11. 教職員健康管理室利用状況
12. 就業支援について

Ⅱ 令和6年度 年間主要業務報告

1. 業務報告（学生の健康管理を中心に）

月	日	業務内容	その他行事および業務	
通年		一般診療、応急処置、医療機関受診勧奨 メンタルヘルス診療・学生相談 救急対応 健康啓発 環境管理、改善指導 臨床心理士相談 障害学生支援 健康相談 禁煙相談 歯科相談（月1回全9回） 栄養相談（週1回：水曜日） ヨガクラス（月1～2回不定期水曜日）		
	1、2、3、4	新入生定期健康診断	<初年次セミナーで1コマを担当し、こころと身体の健康について講義を実施>（全学部新入生へ必修） <「キャンパスライフの健康管理」の特別講義を実施しビデオ録画>（保健体育実技系必須講義各科目でビデオ視聴提供）	
	4	春季入学非正規生健康診断		
	7 17、18、19	入学式医療待機 前期特殊健康診断		
	5	在学生定期健康診断事後対応 新入生定期健康診断事後対応		
	6		岐阜地区保健管理担当職研究会（6/22） 第1回保健管理センター運営委員会（6/17）	
	7		岐阜県大学保健管理研究会（7/13） 東海北陸地方部会研究集会（7/25-7/26）	
	8	7、8、9	オープンキャンパス医療待機・障害学生支援受験前相談対応	
	9		東海地区保健管理担当職研究会（9/13） 岐阜地区保健管理担当職研究会（9/25）	
	10	11	秋期入学大学院生・非正規生健康診断	<健康科学>全学共通教育講義科目2単位を担当（後期15回） <「キャンパスライフの健康管理」の特別講義を実施しビデオ録画>（保健体育実技系必須講義各科目でビデオ視聴提供） 第62回全国大学保健管理研究集会（10/16-17）
		23	後期特殊健康診断	
		25	大規模災害に係る防災訓練	
11		岐大祭医療待機	岐阜地区保健管理担当職研究会（11/30）	
12			岐阜県大学保健管理研究会（12/21）	
1	1/18-19 1/25-26	令和7年度大学共通テスト入試医療待機 令和7年度大学共通テスト入試（追試）医療待機	第2回保健管理センター運営委員会（1/6）	
2	5、6、7、8、9、13、 14、15、16、19	令和7年度在学生定期健康診断・歯科健診（岐阜市歯科医師会協力） 新2年生対象栄養アドバイス（岐阜県栄養士会協力）		
	25、26	令和7年度一般選抜入試（前期）医療待機		
	28	医師免許申請用健康診断面接		
3	10	獣医師免許申請用健康診断面接	岐阜地区保健管理担当職研究会（3/1） 第3回保健管理センター運営委員会（3/5）	
	12	令和7年度一般選抜入試（後期）医療待機		
	25	学位記授与式医療待機		

2. 学生の保健管理センター利用状況

来所理由別の令和6年度の利用件数

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
来所合計(のべ件数)	411	434	303	477	259	542	419	270	381	299	220	188	4203
来所理由*													
感染症及び寄生虫症	45	29	40	178	15	24	19	35	163	90	28	11	677
新生物													0
血液及び造血器の疾患並びに免疫機能の障害		2	1	2			1		1				7
内分泌、栄養及び代謝疾患	7	11	9	6	6	7	3	7	13	1	3	3	76
精神及び行動の障害**	74	91	68	75	47	47	67	45	37	45	33	29	658
神経系の疾患		2			1		1		2			1	7
眼及び付属器の疾患	1	6	4	3	1	5	3		5	1	4	2	35
耳鼻及び乳様突起疾患	10	5	5		1	4	2	2	3		3		35
循環器系の疾患	6	6	5	4	2	4	4	2	4	1			38
呼吸器系の疾患	9	7	4	3	1	1	1	4	3		2		35
消化器系の疾患	14	12	9	45	12	15	15		5	4	2	1	134
皮膚及び皮下組織の疾患	22	19	18	20	18	14	18	15	14	11	5	16	190
筋骨格系及び組織の疾患	10	10	8	11	4	9	9	13	9	3	3	1	90
泌尿器系の疾患	1	2	2	2	2	2	4	3					18
妊娠、分娩及び産褥	4	2	1	2	1	7	2	4		5	1	5	34
周産期に発生した病態			1			1						1	3
先天奇形、変形及び染色体異常													0
症状、徴候及び異常臨床所見で他に分類されないもの	2	1	2	1		1		1					8
損傷、中毒及びその他の外因の影響	2	5	2	8	1		2		3				23
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	196	205	109	109	141	403	252	133	113	120	125	103	2009
頭痛		7	5	1			2	1		1			17
歯科口腔系	18	15	12	15	2	2	17	6	10	15	11	5	128
合計	421	437	305	485	255	546	422	271	385	297	220	178	4222

*「学生白書」(国立大学法人保健管理施設協議会発行)の分類に準じた

** 学生相談室利用数は含まない。39頁に記載

令和6年度来所業務別の利用件数(医師業務)

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(件)
来所業務別(医師)													
診察	122	122	86	122	60	70	88	87	87	65	75	64	1048
歯科医師による歯科相談	6	8	8	8		1	9	2	7	7	5	4	65
投薬	24	24	11	15	9	19	21	15	14	17	6	5	180
紹介状発行	55	123	51	39	19	34	30	37	30	17	20	18	473
照会状発行	2	1	1		2		1	1	3		1		12
健康診断証明書発行		1	6	1	3	3	1	3	1		1	2	22
証明書発行	5	4	7	7	5	2	4	7	7	1	34	19	102
紹介状 返信	28	80	25	24	14	24	18	22	15	12	14	10	286
照会状 返信	1				2		1	1	4				9
感染症報告書				1									1
事故報告書				1		1			1				3
電話対応	2	3	3			1			1		1		11
メール対応	1										1		2
健康相談	10		2	5	1			2	11		1	2	34
禁煙相談(新規)	1			1									2
禁煙相談(継続)					1								1
院外処方				1									1
栄養相談	1												1
健診事後(定健)	19	25	18	42	17	18	9	8	8		4	1	169
健診事後(特健)			2	1			1						4
健診事後(非正規生)					1			1					2
海外渡航関連業務(学校医対応分)	2	2	3	3	3	3	4	7	5		3	4	39
その他	4	2	2	10	3	7	22	4	10	15	8	6	93
業務総合計(件)	283	395	225	280	139	183	209	196	204	134	174	135	2,557

令和6年度来所業務別の利用件数（保健看護職業務）

来所業務別（保健看護職）	利用月													合計（件）
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
処置	30	32	30	68	24	20	49	28	11	10	8	6	316	
健康診断証明書	8	7		6	9	1	4	6	7	3		8	59	
電話対応	47	29	50	41	41	35	43	28	46	40	37	36	473	
メール対応	76	49	48	160	98	344	133	30	38	49	44	28	1097	
健康相談	1	5	10	5	2	4	3	3	4	2	4	1	44	
禁煙相談（新規）	1			1									2	
禁煙相談（継続）					1								1	
保健指導	2	1	2		1			1	1	8		1	17	
予約	122	98	60	71	38	46	50	16	20	23	35	31	610	
医療機関紹介・案内	9	21	20	26	13	11	7	13	7	6	7	4	144	
救護	9	5	7	5	1		5	6	1	1	1	1	42	
ペット休養	21	32	25	23	5		15	9	2	10	3	2	147	
診察希望	38	52	30	52	24	25	40	26	16	11	8	6	328	
健診事後（体重）	20	28	11	46	25	27	27	30	25	10		1	250	
健診事後（血圧）	1	1		4	7	4	2						19	
健診事後（視力）	14	35	9	6	3	7	3	6	5	2	1	1	92	
健診事後（尿）	7	5	3	1	2	5	1		2				26	
健診事後（保健指導）	19	69	15	10	10	12	7	4	9	4	2	2	163	
海外渡航関連業務（保看職対応分）	3	4	3	17	9	11	12	11	12		7	7	96	
内服確認（結核薬）													0	
その他	73	43	41	161	18	29	45	19	22	30	24	41	546	
感染症報告書	4	5	6	16	1	5	8	18	144	77	12	3	299	
事故報告書	4	6	8	5	3	1	3	5	6	2			43	
業務総合計（件）	508	527	378	723	334	587	457	259	378	288	193	179	4,811	

令和6年度来所業務別の利用件数（管理栄養士業務）

来所業務別（管理栄養士）	利用月													合計（件）
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	*2月	3月		
栄養相談（新規）	1	8	4	7	0	2	2	2	1	0	0	0	27	
栄養相談（継続）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3	
体重測定	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3	
予約								3	3	1			7	
その他											1,597		1,597	
業務総合計（件）	1	9	4	7	0	2	4	2	2	2	1,597	0	1,630	

*2月は、新2年生全員を対象とした栄養相談を実施した。

3. 学生を対象とした禁煙支援状況

禁煙希望者には、保健師・看護師が禁煙相談を実施、必要に応じて医師によるニコチン代替療法も実施した。

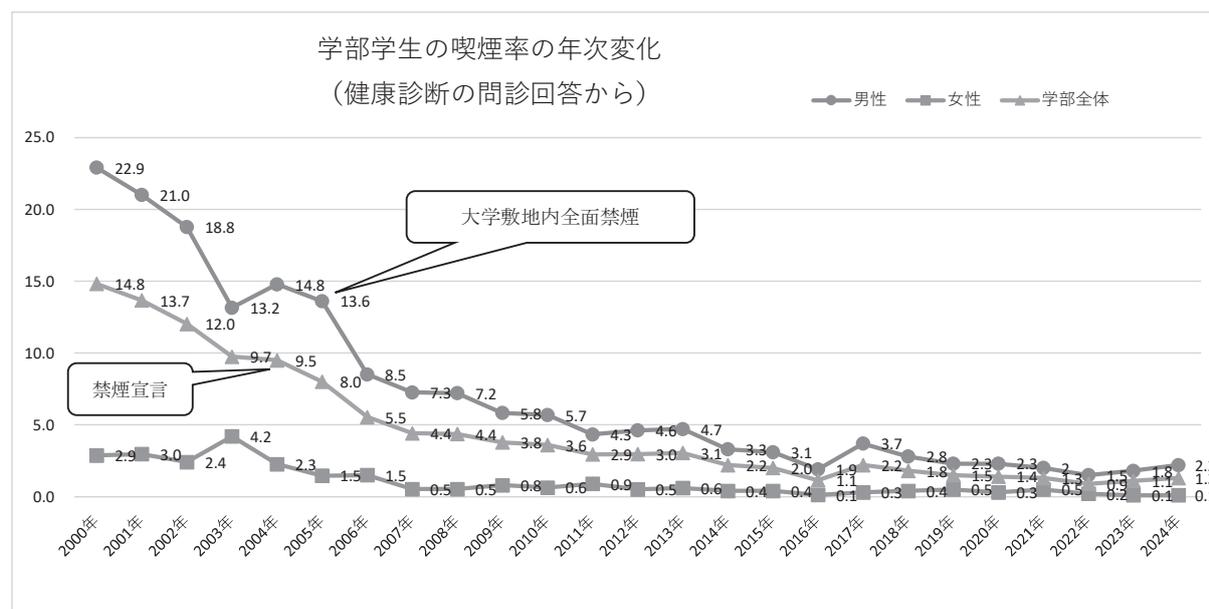
ニコチン代替療法の処方費用は大学側（学務部予算）が負担して支援した。

1) 令和6年度 禁煙支援実績

学部	実施者数 (a) (人)	性別		初トライ or 再トライ		3ヵ月後の禁煙状況確認			3ヵ月後の 禁煙成功率 (b/a) (%)
		女 (人)	男 (人)	初トライ (人)	再トライ (人)	禁煙達成・ 継続中(b) (人)	再喫煙 (人)	結果不明 (連絡取れず) (人)	
学部	学部生計	0	0	0	0	0	0	0	0.0
大学院	自然科学技術研究科	1	0	1	1	0	0	1	0.0
	大学院生計	1	0	1	1	0	0	1	0.0
総計		1	0	1	1	0	0	1	0.0

延べ禁煙相談実施回数は2回であった。

禁煙相談を希望した学生は1名おり、3か月後の禁煙達成状況を確認したところ、再喫煙していた。この学生は、3回目の禁煙外来に来なかったため連絡すると、2週間は禁煙できていた。その後一時的に連絡が取れなくなったが、禁煙開始から5ヶ月後に連絡がとれ、禁煙開始3ヶ月後に喫煙したと報告があった。今年度は禁煙外来に来る学生が1名と少なかった。まだ、禁煙支援対象学生はいるので、在学期間中はニコチン代替療法の処方費用を大学側が負担できることを学生にアピールしていく必要がある。特に燃烧式、加熱式、電子タバコ等の新型タバコは、健康への影響が少ないと思い、紙巻タバコから新型タバコに変更することで健康リスクがないもしくは少ないと認識している可能性がある。全ての喫煙が禁止の対象であり、多様化するタバコへの正しい理解と健康への影響についても周知していく必要がある。



学部学生の喫煙率変化 - 年次推移 -

(喫煙率 = 健康診断の間診で、喫煙していると回答した人数 / 健康診断受診者数)

喫煙率	学年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
学部生 男性 (%)	1年	8.2	7.0	6.9	5.7	3.8	3.3	1.0	1.0	0.5	1.0	0.6	0.5	0.4	0.5	0.3	0.1	0.0	0.3	0.1	0.1	0.3	0.0	0.1	0.0	0.1
	2年	16.4	15.7	11.8	11.1	10.5	6.3	5.8	2.5	4.0	1.4	1.6	1.1	1.5	0.7	0.5	0.0	0.3	0.9	0.8	0.0	0.2	0.6	0.0	0.5	1.1
	3年	28.1	24.5	24.9	17.3	20.8	18.5	9.9	13.0	9.9	8.5	6.1	8.1	6.5	7.2	1.9	1.0	4.8	5.4	2.7	3.1	3.0	3.5	3.0	1.9	3.8
	4年	34.9	32.2	28.3	17.4	22.6	25.4	18.1	13.3	15.1	11.6	13.0	8.0	10.2	10.0	5.0	1.6	7.9	8.4	8.1	5.8	5.5	4.1	4.6	5.2	3.8
	5年	25.0	23.1	16.7	7.3	10.4	9.3	18.8	8.9	2.0	13.1	2.2	4.3	10.8	3.3	1.8	0.1	2.1	1.7	1.4	0.0	1.5	0.0	4.6	1.7	7.5
	6年	26.9	34.8	19.6	9.8	19.6	12.0	11.1	10.2	4.8	4.6	10.6	4.3	2.7	7.7	4.1	0.3	0.0	4.9	4.3	0.2	5.3	1.4	1.5	2.9	2.9
	男性	22.9	21.0	18.8	13.2	14.8	13.6	8.5	7.3	7.2	5.8	5.7	4.3	4.6	4.7	3.3	3.1	1.9	3.7	2.8	2.3	2.3	2.0	1.5	1.8	2.2
	学部生 女性 (%)	1年	0.0	0.4	0.8	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
2年	2.0	2.0	0.9	2.3	1.5	0.4	1.0	0.0	0.2	1.0	0.2	0.2	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
3年	4.7	3.8	3.0	3.9	3.7	2.0	1.8	1.0	0.8	1.0	1.0	1.3	0.6	0.2	0.5	0.1	0.0	0.4	0.2	0.4	0.0	1.2	0.4	0.0	0.2	
4年	4.9	6.4	5.3	8.7	3.3	3.4	3.6	1.1	1.2	1.1	1.2	2.1	1.0	1.0	0.2	0.3	0.0	0.2	1.1	1.6	0.8	1.2	0.4	0.2	0.8	
5年	0.0	0.0	2.3	5.1	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	2.8	4.0	0.0	0.0	3.0	2.4	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	
6年	3.1	0.0	0.0	2.1	5.7	2.3	0.0	2.4	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	4.9	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
女性	2.9	3.0	2.4	4.2	2.3	1.5	1.5	0.5	0.5	0.8	0.6	0.9	0.5	0.6	0.4	0.4	0.1	0.3	0.4	0.5	0.3	0.6	0.2	0.1	0.2	
学部生 全体 (%)	1年	4.8	4.4	4.3	4.3	2.2	2.0	0.6	0.6	0.3	0.6	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.1	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	1.2	0.1	0.1	0.1
	2年	9.9	9.7	7.0	7.4	6.5	3.5	3.6	1.4	2.3	1.2	1.0	0.7	0.9	0.7	0.5	0.0	0.2	0.5	0.4	0.0	0.2	2.4	0.0	0.3	0.6
	3年	18.4	15.7	15.8	12.4	13.3	10.8	6.0	7.6	5.8	5.4	4.0	5.1	4.0	4.4	2.6	0.6	2.7	3.0	1.6	1.9	1.6	2.6	1.8	0.9	2.1
	4年	23.8	23.6	20.0	14.4	15.0	15.6	12.1	8.2	9.3	7.3	8.5	5.6	6.4	6.2	5.4	1.1	5.3	2.1	5.0	4.0	3.4	2.8	2.6	3.0	2.3
	5年	18.5	9.9	8.3	6.3	7.3	4.6	10.3	5.9	1.1	8.5	1.3	3.1	6.8	3.5	1.4	0.1	2.5	2.0	1.8	0.0	0.8	0.0	2.9	1.9	4.3
	6年	20.8	15.4	10.3	6.4	12.8	7.5	6.1	6.1	3.1	2.8	6.8	2.8	2.0	6.6	4.3	0.2	0.0	3.9	2.7	3.6	2.9	0.8	0.9	1.8	1.7
	学部全体	14.8	13.7	12.0	9.7	9.5	8.0	5.5	4.4	4.4	3.8	3.6	2.9	3.0	3.1	2.2	2.0	1.1	2.2	1.8	1.5	1.4	2.0	0.9	1.1	1.3

喫煙人数	学年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
学部生 男性 (人)	1年	58	51	49	44	27	27	8	8	4	8	5	4	3	4	4	3	0	2	1	1	2	1	1	0	1
	2年	90	101	68	75	64	35	34	16	22	9	9	7	9	5	5	1	2	6	5	0	1	5	0	3	7
	3年	201	175	184	146	143	114	54	75	64	60	40	49	44	50	20	26	30	31	16	17	15	18	17	9	20
	4年	291	292	240	168	178	188	130	96	108	91	104	62	73	76	59	44	8	61	53	38	33	23	26	30	19
	5年	14	10	7	3	5	4	6	5	1	8	1	3	4	2	2	3	1	1	1	0	1	0	3	1	4
	6年	20	15	11	6	11	6	6	6	3	3	7	3	2	5	4	7	0	4	3	4	3	1	1	2	2
	男性計	674	644	559	442	428	374	238	206	202	179	166	128	135	142	94	84	41	105	79	60	55	48	48	45	53
	学部生 女性 (人)	1年	0	2	4	11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
2年	9	10	4	11	7	2	5	0	1	5	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
3年	24	20	16	19	20	10	9	5	4	5	5	6	3	1	6	1	0	2	1	2	0	6	2	0	1	
4年	24	29	25	43	17	18	18	6	6	6	6	11	5	5	2	6	0	1	6	8	4	6	2	1	4	
5年	1	0	1	2	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	
6年	1	1	0	1	3	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
女性計	59	62	50	87	48	31	32	11	11	17	13	18	10	12	8	7	2	6	8	10	5	12	4	3	5	
学部生 全体 (人)	1年	58	53	53	55	27	27	8	8	4	8	5	4	4	4	4	3	1	3	1	1	2	1	1	1	1
	2年	99	111	72	86	71	37	39	16	23	14	10	8	9	8	5	1	2	6	5	0	2	5	0	3	7
	3年	225	195	200	165	163	124	63	80	68	65	45	55	47	51	26	27	30	33	17	19	15	24	19	9	21
	4年	315	321	265	211	195	206	148	102	114	97	110	73	78	81	61	50	8	62	59	46	37	29	28	31	23
	5年	15	10	8	5	6	4	6	5	1	9	1	3	5	3	2	3	2	2	2	0	1	0	3	2	4
	6年	21	16	11	7	14	7	6	6	3	3	8	3	2	7	4	7	0	5	3	4	3	1	1	2	2
	合計	733	706	609	529	476	405	270	217	213	196	179	146	145	154	102	91	43	111	87	70	60	60	52	48	58

4. 健康診断証明書発行、救急靴貸し出し状況

1) 保健管理センター窓口における定期健康診断証明書年間発行枚数

(枚)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
発行枚数	8	8	6	7	12	4	5	9	8	3	1	10	81

定期健康診断以外の各種証明書発行件数は「2. 学生の保健管理センター利用状況 令和5年度来所業務別の利用件数（医師業務）証明書発行」に記載

2) キャンパス内の自動発行機による健康診断証明書年間発行枚数

(枚)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
教育学部	11	9	6	6	2	12	5	3	1	7	5	10	77
地域科学部	8	21	2	2	10	7	2	3	1	8	3	19	86
医学部	28	13	71	24	5	1	18	1	3	4	13	11	192
工学部	28	17	10	8	3	2	8	2	3	12	10	15	118
応用生物科学部	31	11	7	3	4	8	6	5	5	2	3	10	95
社会システム経営学環	6	3	2	2	1	2	3	1	2	6	1	3	32
医学系研究科		1	2	1		1							5
教育学研究科		2			1	1	2					1	7
工学研究科								2				2	4
自然科学技術研究科	117	15	21	9	10	12	26	9	37	53	29	38	376
共同獣医学研究科									1				1
地域科学研究科				1			1			3		1	6
流域圏科学研究センター													0
連合創薬医療情報研究科													0
連合農学研究科	1	2	1			3						1	8
合計	230	94	122	56	36	49	71	24	55	95	64	111	1,007

2024年4月から証明書のコンビニ発行サービスを開始した。2024年度のコンビニでの健康診断証明書発行数は6枚であった。

3) 救急靴の貸出状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
申請件数(件)	2	4	5	4	9	3	3	4	4	4	1	0	43
貸出個数(個)	3	6	5	4	10	4	5	6	4	8	8	0	63

5. 栄養指導件数、ヨガ実施実績、歯科相談件数

1) 栄養指導件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談人数(人)	1	8	4	7	0	5	7	3	2	1	0	0	38

毎週水曜日 13:00～17:00 管理栄養士による個人栄養指導を予約制で実施した。2024年10月からWebでの予約を開始した。

新2年生全員を対象とした栄養相談を2月に実施しており、1597名に栄養指導を実施した。1月から3月はその準備・集計期間としている。

2) ヨガ実施実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受講人数(人)	9	5	9	4	5	4	3	8	2	0	1	8	58

毎月1～2回水曜日の午後1時間30分を1単位とし、非常勤講師によるヨガレッスンを実施した。対面とオンラインの同時で開催し、大学以外の場所でも参加できるようにした。名古屋大学の学生もオンラインで参加ができた。今後は、学生のニーズに沿った内容の計画、部活動やサークル活動、企業と協働した企画を実施し、参加者の増加と健康への意識を高めていく。

3) 歯科相談件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談人数(人)	6	8	8	5			9	4	7	6	※	4	57

※2月：在学生健康診断での歯科健診受診者数は658人

6. 国家資格免許申請のための医療面接

国家資格授与手続きのために精神科医師による面接を行い、申請用の診断書を発行した。

日 時：令和7年2月28日、3月10日

場 所：保健管理センター

発行者数：医学部 医学科 30名

応用生物科学部 獣医学科 19名

7. 各種行事における救護待機の詳細

1) 令和6年度 入学式（令和6年4月7日）

場所	性別	学部	主訴	応急措置内容
式典会場	女性	地域科学部	眩暈	式典中、学生の体調不良（嘔気、浮遊感、眩暈）報告があり、救護に向かった。現病歴に起立性低血圧があるも昇圧剤を自己中断していた。血圧122/57mmHg、脈拍数57回/分、体温36.8度、経皮的酸素飽和度99%。学校医の診察後、母親と帰宅した。

2) 令和6年度オープンキャンパス（令和6年8月7日（水）～9日（金））

来場型オープンキャンパスに加え、Webオープンキャンパスを実施。

令和6年8月7日 救護要請なし

令和6年8月8日

場所	性別	対象者	主訴	応急措置内容
保健管理センター	女性	大学に訪問した高校生	悪心	バス酔いで休養したいと保健管理センターに来所。血圧106/76mmHg、脈拍数65回/分、体温36.0度。学校医診察後、水分摂取をすすめ、冷却を実施。症状改善し、オープンキャンパスに参加した。

令和6年8月9日 救護要請なし

4) 令和6年度 大学入学共通テスト（令和7年1月18日19日）

令和7年1月18日

担当学部	試験場	対象者	主訴	応急措置内容
教育学部	応用生物科学部	受験生	寒気、ふるえ、悪心	試験担当者から救護要請あり。血圧122/77mmHg、脈拍81回/分、体温37.2度、経皮的酸素飽和度98%、悪心、寒気、ふるえあり。学校医が診察し、栄養不足と緊張による不安定な症状と推察。加温と水分摂取を促し、ガスター1錠処方。本人の意思により、午前は試験をそのまま継続、午後は別室受験で継続した。

令和7年1月19日

担当学部	試験場	対象者	主訴	応急措置内容
応用生物科学部	斐太高校	職員	腰部の傷の処置	斐太高校救護担当より入電あり、学校医が対応。宿泊先で入浴中に転倒し、腰部に擦過傷あり。キスパワーパッドとコロナール内服を指示した。帰校後、保健管理センターで処置を継続した。
応用生物科学部	斐太高校	受験生	頭痛、悪心	斐太高校救護担当よりFAX報告。受験生が頭痛と悪心を訴えるも、血圧99/71mmHg、脈拍数48回/分、体温36.6度のため、本人の意思を確認し、ベッド休養後、残り科目の追試申請を行った。

6) 令和6年度 入学者選抜個別学力検査 (前期日程 令和7年2月25日・26日)

救護要請なし

7) 令和6年度 入学者選抜個別学力検査 (後期日程 令和7年3月12日)

担当学部	試験場	対象者	主訴	応急措置内容
工学部	工学部	受験生	下痢	工学部試験担当者より、過敏性腸症候群の学生がトイレから出てこないと電話で相談があり、学校医が声かけと内服薬・診察の要否確認を指示したところ、本人は試験会場へ戻り、試験を続行した。
工学部	工学部	受験生	不安	工学部試験担当者より受験生が休養室に来ていると救護要請あり。本人が強い不安を訴えており、保護者との電話を希望したため休憩中に通話させ、学校医が午後試験前までに意思決定するよう説明し、以後の対応は試験担当者へ依頼した。
工学部	工学部	受験生	帰宅希望	工学部試験担当者より精神的理由で帰宅を訴えていると救護要請あり。血圧115/83mmHg、脈拍70回/分、経皮的酸素飽和度99%、体温36.9度学校医が診察後、本人の希望により別室で試験を継続した。

8) 令和6年度 学位記授与式 (令和7年3月25日)

救護要請なし

8. 学生相談室利用状況（令和6年度）

1) 学生相談室利用数

	学部生（人）										大学院生（人）						計（人）			延面接回数（回）	
	1年		2年		3年		4年		5年以上		修士1年		修士2年		博士課程		計				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計		
教育学部・研究科	2	9	0	5	1	4	5	11	0	0	2	0	1	0	0	0	11	29	40	255	
地域科学部・研究科	3	4	9	5	5	6	2	10	0	0	0	0	0	1	0	0	19	26	45	290	
医学部・研究科	1	4	0	2	2	2	5	2	1	2	0	0	0	0	0	0	9	12	21	163	
工学部・研究科	12	8	4	4	10	1	16	4	0	0						3	1	45	18	63	383
応用生物科学部・研究科	2	6	7	8	5	7	5	16	2	5						3	6	24	48	72	409
社会システム経営学環・学院	0	4	0	0	0	0	1	1	0	0							1	5	6	27	
自然科学技術研究科											18	7	21	7			39	14	53	362	
その他・卒業生																	3	1	4	12	
教職員																			78	207	
保護者																			29	55	
計	20	35	20	24	23	20	34	44	3	7	20	7	22	8	6	7	151	153	411	2,163	

※「医学部・研究科」は、連合創薬医療情報研究科を含む。「応用生物科学部・研究科」は、連合農学研究科、連合獣医学研究科、共同獣医学研究科を含む。

2) 利用合計・対在籍学生比率（100人あたり、卒業生、その他学生は除く）

	男合計 （人）(a)	女合計 （人）(b)	男比率 （%）(a/A)	女比率 （%）(b/B)
教育学部・研究科	11	29	2.4	4.9
地域科学部・研究科	19	26	9.2	9.5
医学部・研究科	9	12	1.5	1.8
工学部・研究科	45	18	2.3	4.6
応用生物科学部・研究科	24	48	5.5	8.0
社会システム経営学環	1	5	1.9	6.8
自然科学技術研究科	39	14	5.0	6.1
計	148	152	3.3	5.4

在籍者数（令和6年5月時点）

在籍者数	男合計（A）	女合計（B）
教育学部・研究科	461	593
地域科学部・研究科	207	273
医学部・研究科	607	660
工学部・研究科	1,936	392
応用生物科学部・研究科	434	601
社会システム経営学環	52	73
自然科学技術研究科	776	228
計	4,473	2,820

3) 受診動機（学生）

動機	人数（人）
自発的	198
教員に勧められて	35
親に勧められて	22
友人に勧められて	18
呼び出し面接	28
その他	3
計	304

4) 初回面接時の相談内容（学生）

相談内容	人数（人）
進路の悩み	20
対人関係	42
学業・勉強	46
自身の性格	29
健康面の不安	14
精神的な問題	134
家族友人についての相談	11
その他	8
計	304

9. 障害学生支援室 支援実施報告（令和6年度）（保健管理センター）

1) 障害学生支援室で対応した件数（令和6年4月～令和7年3月）

主な障害	発達障害 (件)	精神障害 (件)	肢体不自由 (件)	視覚障害 (件)	聴覚障害 (件)	内部障害 その他の障害 (件)	その他 (件)	合計(件)
令和6年4月	12	5	2	0	8	22	2	51
5月	5	2	3	0	5	11	8	34
6月	3	6	1	0	2	3	0	15
7月	6	1	0	0	2	5	0	14
8月	17	17	3	1	10	33	0	81
9月	8	4	3	0	3	12	0	30
10月	5	7	1	0	7	6	0	26
11月	1	4	0	0	4	4	3	16
12月	0	9	1	0	2	6	1	19
令和7年1月	2	3	0	0	1	2	0	8
2月	14	19	4	2	9	30	0	78
3月	12	12	1	3	6	11	2	47
合計対応件数	85	89	19	6	59	145	16	419

※保健管理センターでの診療や健康診断関連業務、学生相談などは含まない。

※対応内容は、本人との面談に加え、授業中の支援、関係者との調整会議、メールによる近況確認なども含むが、軽微なメールや電話対応は含まない。

2) 令和6年度 障害学生の在籍人数 (診断名がついた学生)

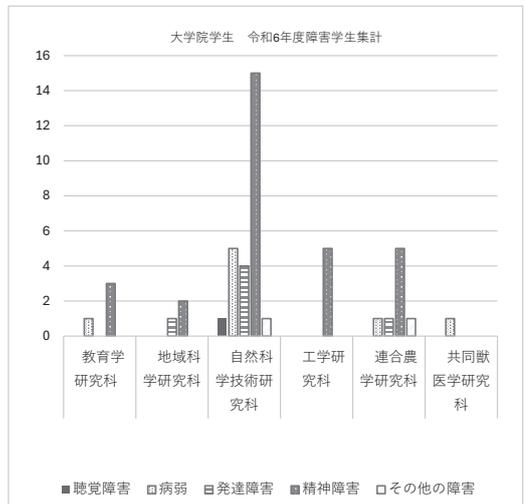
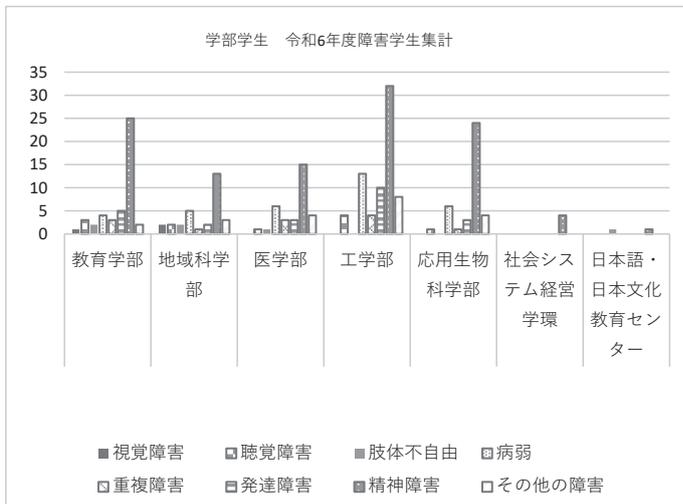
令和6年5月1日現在

学部学生

数値の個数 / 学籍番号	視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	病弱・虚弱	重複	発達障害	精神障害	その他の障害	総計
教育学部	1	3	2	4	3	5	25	2	45
1年次			2				2		4
2年次		3		1	1	2	4	1	12
3年次				2		1	6	1	10
4年次	1			1	2	2	13		19
地域科学部	2	2	2	5	1	2	13	3	30
1年次				1			1	1	3
2年次		1	1	1			2	1	6
3年次				3	1	1	1	1	7
4年次	2	1	1				10		14
医学部	0	1	1	6	3	3	15	4	33
医学科	0	0	1	4	2	3	10	3	23
1年次									0
2年次			1	1				1	3
3年次				1	1		3	1	6
4年次						2	2		4
5年次						1	3		4
6年次				2	1		2	1	6
看護学科	0	1	0	2	1	0	5	1	10
1年次									0
2年次		1		1					2
3年次							5	1	6
4年次				1	1				2
工学部	0	4	0	13	4	10	32	8	71
1年次		1		1		2		3	7
2年次				3	1	3	5	4	16
3年次		3		4	1	1	6		15
4年次				5	2	4	21	1	33
応用生物科学部	0	1	0	6	1	3	24	4	39
共同獣医学科	0	0	0	0	0	0	2	0	2
1年次									0
2年次								1	1
3年次									0
4年次									0
5年次									0
6年次								1	1
共同獣医学科以外	0	1	0	6	1	3	22	4	37
1年次				1			1	1	3
2年次				3	1	1	3	1	9
3年次		1		2			4	1	8
4年次						2	14	1	17
社会システム経営学環	0	0	0	0	0	0	4	0	4
3年次							2		2
4年次							2		2
日本語・日本文化教育センター	0	0	1	0	0	0	1	0	2
1年次			1						1
2年次							1		1
総数	3	11	6	34	12	23	114	21	224

大学院生

数値の個数 / 学籍番号	聴覚・言語障害	病弱・虚弱	発達障害	精神障害	その他の障害	総計
修士課程	1	6	5	20	1	33
教育学研究科	0	1		3		4
1年次		1		2		3
2年次				1		1
地域科学研究科			1	2		3
1年次			1			1
2年次				2		2
自然科学研究科	1	5	4	15	1	26
1年次		3	1	4		8
2年次	1	2	3	8	1	14
3年次				3		3
博士課程	0	2	1	10	1	14
工学研究科	0	0		5	0	5
2年次						0
3年次						0
4年次				5		5
連合農学研究科	0	1	1	5	1	8
1年次						0
2年次						0
3年次		1	1	3	1	6
4年次				2		2
共同獣医学研究科		1				1
4年次		1				1
総計	1	8	6	30	2	47



10. 業務報告（教職員（柳戸地区）の健康管理にかかわる行事）

通 年 業 務	月	その他行事および業務
産業医職場巡視（月1回）	4	新採用職員対象研修「障害者差別解消に向けて」「大学の保健管理について」
衛生管理者職場巡視（月4回）	5	米国大学保健管理協会（ACHA）年次集会（5/28-6/4）
安全衛生委員会（月1回 第2木曜日）※8月除く	6	岐阜地区保健管理担当職研究会（6/22）
安全衛生推進委員会（月1回 第1木曜日）※8月除く		定期健康診断、上期特殊健康診断（6/12、13、14）
安全推進室会議（月1回 第1火曜日）		メンタルヘルス問診（6/12、13、14）
救急対応		第1回保健管理センター運営委員会（6/17）
応急処置	7	ハラスメント相談員研修会・学生相談対応者研修会（6/17）
医療機関受診勧奨		岐阜県大学保健管理研究会（7/13）
メンタルヘルス相談	9	第62回東海・北陸地方部会研究集会（7/25、26）
健康相談		第51回保健管理担当職研究集会（7/25）
禁煙相談	9	岐阜地区保健管理担当職研究会（9/25）
定期健康診断事後（産業医面談等）	10	全国労働衛生週間（10/1-10/7）
上期特殊健康診断事後（産業医面談等）		第62回全国大学保健管理研究集会（10/16、17）
人間ドック受診事後相談		労働安全パトロール（10/18）
採用時健康診断事後（産業医面談等）		産業医打ち合わせ（10/30）
下期特殊健康診断事後（産業医面談等）	11	令和7年度定期健康診断打ち合わせ（11/21）
海外派遣労働者健康診断事後（産業医面談）		岐阜地区保健管理担当職研究会（11/30）
電離放射線健康診断受診証明書発行	12	下期特殊健康診断（12/5、6）
麻薬取扱免許証更新のための医師面接		岐阜県大学保健管理研究会（12/21）
復職支援のための面接指導	1	第2回保健管理センター運営委員会（1/6）
過重労働職員の産業医面接指導	2	令和6年度岐阜大学安全衛生連絡協議会（2/27）
教授会対象FD研修「ハラスメント」「学生相談」「自殺予防」	3	岐阜地区保健管理担当職研究会（3/1） 第3回保健管理センター運営委員会（3/5）

11. 教職員健康管理室利用状況

1) 健康相談等による利用の状況（健診事後措置等を含まない）

(件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
応急 対応 (内訳)	救 護	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	応 急 処 置	1	2	3	4	2	1	1	2	1	6	2	0	25
	休 養	0	0	3	1	3	1	0	0	0	0	0	0	8
健 康 相 談		4	12	19	24	24	5	10	5	25	34	13	12	187
メンタル相談		5	2	7	9	6	5	9	8	10	9	7	9	86
健康診断証明書等発行※		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
その他 (内訳)	学生についての相談	0	1	1	13	2	8	14	15	8	22	21	21	126
	職員についての相談	0	0	0	0	5	5	0	0	3	2	3	2	20
	そ の 他	4	0	0	0	43	19	43	8	6	0	1	2	126
合 計		14	17	33	51	85	44	79	38	54	73	48	46	582

※健康診断証明書等・・・特殊健康診断証明書、RI施設立入許可願、麻薬取扱免許申請のための健康診断書等

2) 健診事後措置

(件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
定期健康診断後面談		0	0	4	2	10	7	11	3	9	0	5	12	63
人間ドック後面談		0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	4
採用時健康診断後面談		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
海外派遣労働者健康診断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
特殊健康診断後面談		0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	5
メンタルヘルス問診票に基づく面談		0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合 計		1	0	5	4	10	8	11	4	9	3	8	16	79

3) 医療機関への紹介状の年間発行枚数

(枚)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
応 急 対 応		0	0	0	1	1	0	2	0	1	3	0	1	9
健 康 相 談		0	2	3	0	7	0	0	0	2	1	1	2	18
メンタル相談		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
定期健診等		1	0	2	2	551	3	9	1	18	1	0	0	588
合 計		1	2	5	3	559	3	11	1	21	6	1	3	616

12. 就業支援について

1) 就業支援のための面談実施回数

(回)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
メンタル	復職前面談	0	3	3	2	4	3	4	2	0	1	0	1	23
	復職時面談	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	復職後 フォローアップ	2	2	4	4	1	3	3	3	3	4	3	3	35
フィジカル	復職前面談	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	復職時面談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	復職後 フォローアップ	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
就 業 相 談		0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
過 重 労 働 面 談		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合 計		2	8	9	7	5	6	8	7	3	5	3	6	69

2) 就業支援のための意見書発行枚数

(枚)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就 業 意 見 書		1	0	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0	7

Ⅲ 研究・調査活動

1. 保健管理センタースタッフの業績
2. 報道記事

Ⅲ 研究・調査活動

1. 保健管理センタースタッフの業績

1) 研究成果の発表

著書（和文）

- 1) 山本眞由美. 第1章 健康診断について, 第3章第3節 実験・実習の安全対策, 第5章第6節 内分泌・代謝の病気, 第6章 日本の医療制度. 2024 大学生の健康ナビーキャンパスライフの健康管理－. 岐阜県大学保健管理研究会企画, 山本眞由美監修. 岐阜新聞社. 2024:7-13, 52-55, 140-145, 205-207.
- 2) 深尾琢. 第2章第1節 睡眠について. 2024 大学生の健康ナビーキャンパスライフの健康管理－. 岐阜県大学保健管理研究会企画, 山本眞由美監修. 岐阜新聞社. 2024:14-17.
- 3) 堀田亮. 第4章第8節 大学生の悩みの特徴と心の相談窓口. 2024 大学生の健康ナビーキャンパスライフの健康管理－. 岐阜県大学保健管理研究会企画, 山本眞由美監修. 岐阜新聞社. 2024:106-111.
- 4) 田尻下聡子. 第5章第5節 消化器・肝臓の病気. 2024 大学生の健康ナビーキャンパスライフの健康管理－. 岐阜県大学保健管理研究会企画, 山本眞由美監修. 岐阜新聞社. 2024:134-139.
- 5) 堀田亮. 大学学生相談における PDCA サイクル. 公認心理師必携! 事例で学ぶ教育・特別支援のエビデンスベイスト・プラクティス. 金剛出版. 2024.
- 6) 川本美奈子. お腹の中の赤ちゃんがアレルギーにならないためにできること. チャイルドヘルス. 診断と治療社 2024 Vol.27 (7):517-519.

原著（和文）

- 1) 川上ちひろ, 早川佳穂, 今福輪太郎, 堀田亮, 高橋美裕希, 鷹羽律紀, 藤崎和彦, 西城卓也. 看護職のスキルアップ／キャリアアップの一助に: 岐阜大学医学教育開発研究センターの教育プログラムの紹介. 看護展望 49 (7):76-81, 2024.6.
- 2) 堀田亮, 瀬戸山陽子, 川上ちひろ. 医療者教育者における障害学生支援に関するキーワードの認知度と必要度に関する予備的検討. 医学教育 55 (3):229-234, 2024.6.
- 3) 堀田亮. 南フロリダ大学 Counseling Center の視察調査報告. 学生相談研究 45 (1):34-45, 2024.7.
- 4) 西城卓也, 川上ちひろ, 早川佳穂, 今福輪太郎, 高橋美裕希, 鷹羽律紀, 堀田亮. 学生の社会的情動的スキルを育むアプローチを考える 学生の社会的情動的スキルを育むアプローチを考える. 新しい医学教育の流れ 24 (2):S33-S34, 2024.7.
- 5) 川上ちひろ, 今福輪太郎, 早川佳穂, 堀田亮, 高橋美裕希, 鷹羽律紀, 藤崎和彦, 西城卓也. 社会性と情動の学習 (SEL) とは何か. 医学教育 55 (4):301-308, 2024.8.

- 6) 三輪貴生, 山本真由美, 清水雅仁. 若手に役立つ議論・オピニオンリーダーからのメッセージ MASLD/MASH に対する食事療法の最前線. 肝臓クリニカルアップデート 10 (2) : 196-201, 2024.10.
- 7) 深尾琢. 「性同一性障害」の診療において 精神科医に求められる対応と連携 CAMPUS HEALTH 61 (2) : 16-21, 2024.12.
- 8) 堀田亮, 今村七菜子, 栗木由美子, 岡本綾子, 足立美穂, 三輪貴生, 田尻下聡子, 深尾琢, 山本真由美. CCAPS-iQAS の実用性に関する検討 : 再検査信頼性とユーザ満足度の観点から. CAMPUS HEALTH 61 (2) : 35-40, 2024.12.
- 9) 中川克, 堀田亮, 深尾琢, 岡本百合, 安宅勝弘. American College Health Association (ACHA) 2023 Annual Meeting 参加と UMass Boston 訪問の報告. CAMPUS HEALTH 61 (2) : 204-209, 2024.12.
- 10) 堀田亮. 南フロリダ大学の Student Accessibility Services の視察報告. CAMPUS HEALTH 61 (2) : 210-216, 2024.12.
- 11) 堀田亮. タンパ大学の Dickey Health and Wellness Center の視察報告. CAMPUS HEALTH 61 (2) : 217-223, 2024.12.

原著 (英文)

- 1) Emma U, Horita R, Imamura N, Fukao T, Adachi M, Tajirika S, Ricardo I, Yamamoto M. Changes in Mental Health among Japanese University Students during the COVID-19 Era: Differences by College Department, Graduate Level, Sex, and Academic Year. Healthcare (Basel, Switzerland) 2024 12 (9): 902. doi: 10.3390/healthcare12090902.
- 2) Tetsuka N, Suzuki K, Suzuki K, Ishihara T, Miwa T, Tajirika S, Adachi M, Horita R, Fukao T, Yamamoto M. Adverse events of COVID-19 vaccination during 2021-2022 suppressed by breakfast consumption and favorable sleeping habit among Japanese university students. Vaccine: X (19), August 2024, 100516. doi: org/10.1016/j.jvacx.2024.100516.
- 3) Hoa HTT, Yamamoto M, Calvopina M, Bastidas-Caldes C, Yamamoto Y. Chromosomal qnrB19-carrying Escherichia coli isolated from the stool sample of a community resident in Ecuador. Microbiol Resour Announc. 2024 Jun 11;13(6): e0004624. doi: 10.1128/mra.00046-24. Epub 2024 May 22. PMID: 38775496 Free PMC article.
- 4) Miwa T, Tajirika S, Imamura N, Adachi M, Horita R, Hanai T, Cheng Han Ng, Mohammad Shadab Siddiqui, Fukao T, Shimizu M, Yamamoto M. Usefulness of health checkup-based indices in identifying metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease. JGH Open 8 (6) Wiley 2024.6.17. doi: org/10.1002/jgh3.13110.
- 5) Hoa HTT, Yamamoto M, Yamamoto Y. Genomic characteristics of quinolone resistance in colistin-resistant Escherichia coli isolates from community residents in Ecuador and Vietnam. JAC Antimicrob Resist. 2024 Sep 26;6 (5): dlae151. doi: 10.1093/jacamr/dlae151.

eCollection 2024 Oct.

- 6) Terawaki H, Yoshimura R, Ueda H, Tajirika S, Kawamoto M, Horita R, Fukao T, Ito Y, Ito T, Yamamoto M. Elevated uric acid levels as a risk factor for new-onset hypertension in newly enrolled Japanese university students (JSH46-0100). Hypertens Res. 2024 Oct 12. doi: 10.1038/s41440-024-01941-y. Online ahead of print. PMID: 39394515.
- 7) Adachi M, Horita R, Miwa T, Tajirika S, Imamura N, Watanabe D, Ishihara T, Fukao T, Ohnishi H, Yamamoto M. Frequency and Mental Health Condition of Students with Developmental Disabilities Among First-Year Japanese University Students: A Cross-Sectional Survey. J Autism Dev Disord. 2024 Oct 16. doi: 10.1007/s10803-024-06515-y. Online ahead of print. PMID: 39412584.
- 8) Yamamoto M. Three distinctive activities of the Gender Equality Promotion Committee (JES We Can). Endocrine Journal 72 (3) 239-242 <https://doi.org/10.1507/endocrj.EJ20241024>
- 9) Ando M, Kubota K, Kadowaki S, Kawamoto M, Kawamoto N, Okamoto H, Nagaya S, Miwa Y, Ohnishi H. Atypical hemolytic uremic syndrome with a C3 variant following COVID-19: a case report. Frontiers in Pediatrics 13 2025.1.23. Vol.13 – 2025.1. <https://doi.org/10.3389/fped.2025.1507727>.
- 10) Kumagai C, Kawamoto N, Miwa Y, Kaneyama T, Kadowaki S, Kawamoto M, Ohnishi H. Questionnaire-based real-world survey of diagnosing food allergy in children: Utilization of oral food challenge tests and other diagnostic methods. Journal of Allergy and Clinical Immunology: Global 4 (1) 100356-100356 2025.2. <https://doi.org/10.1016/j.jacig.2024.100356>

2) 研究費獲得状況

- 1) 研究代表者：杉江 征，研究分担者：田附あえか，慶野遙香，堀田 亮，菅原大地；日本学術振興会基盤研究（C）：学生生活における大学生の心理社会的成長とその要因に関する実証的研究；2021 – 2024 年度 4,030 千円（2024 年度 1,170 千円）
- 2) 研究代表者：山本真由美，研究分担者：佐々木正大；日本学術研究助成基金助成金基盤研究（C）（一般）：大学生における新型コロナウイルス抗体保有の詳細調査－在学3年間の追跡調査－；2021 – 2024 年度；4,030 千円（2024 年度 780 千円）
- 3) 研究代表者：堀田 亮，研究分担者：山本真由美，西尾彰泰；日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究（C）；大学生の心理－精神症状尺度短縮版の開発と Web 回答システムの社会実装；2022 – 2024 年度；4,160 千円（2024 年度 1,300 千円）
- 4) 研究代表者：田尻下聡子，研究分担者：山本真由美，華井竜徳，清水雅仁，三輪貴生；日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究（C）；大学生の肝障害・肥満・サルコペニアと背景因子の実態解明とその介入モデルの確立；2022 – 2025 年度；4,030 千円（2024 年度 260 千円）
- 5) 研究代表者：山本容正，研究分担者：安楽正輝，山本真由美，手塚宜行；日本学術振興会科学研究費助成事業国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））；ガーナにおける薬剤耐性

菌エンデミック実態の解明；2022 - 2025 年度；19,890 千円（2024 年度 6,890 千円）

- 6) 研究代表者：足立美穂，研究分担者：堀田 亮，山本眞由美，大西秀典；日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究（C）；発達障害を有する大学生の頻度・特徴・介入の有効性を明らかにし支援モデルを構築する；2022 - 2026 年度；4,030 千円（2024 年度 650 千円）
- 7) 研究代表者：今村七菜子，研究分担者：堀田 亮，山本眞由美；日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究（C）；質の高い大学生相談モデルの確立；客観的指標分析と満足度調査から；2023 - 2025 年度；4,680 千円（2024 年度 1,820 千円）
- 8) 研究代表者：山本容正，研究分担者：河原隆二，田中香お里，山本眞由美，山口貴弘；日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究（A）；途上国社会に蔓延する薬剤耐性菌の耐性安定化機序解明；2023 - 2025 年度；47,320 千円（2024 年度 15,600 千円）
- 9) 研究代表者：山本眞由美，日常生活環境がコミュニティで健常人に蔓延する薬剤耐性菌が引き起こす感染上の感染症の実態解明-分子疫学解析- 公益財団法人 小林財団 研究助成 2023 - 2025

3) 学会役員

山本眞由美：

- 1) 日本内科学会東海支部評議員（～現在）
- 2) 日本糖尿病学会学術評議員（～現在）
- 3) 日本内分泌学会評議員（～現在）
- 4) 日本内分泌学会役員・幹事（～現在）
- 5) 日本内分泌学会倫理・利益相反委員会副委員長（～現在）
- 6) 日本内分泌学会教育育成部会 育成委員（～現在）
- 7) 日本内分泌学会男女共同参画推進委員会委員（～現在）
- 8) 日本内分泌学会男女共同参画推進委員会女性医師応援小委員会委員長（～現在）
- 9) 日本内分泌学会保険委員会委員（～現在）
- 10) 日本内分泌学会東海支部役員・監事（～現在）
- 11) 日本臨床栄養学会評議員（～現在）
- 12) 日本病態栄養学会学術評議員（～現在）
- 13) 日本油化学会東海支部常任幹事（～現在）
- 14) 全国大学保健管理協会国際連携委員会副委員長（～現在）
- 15) 全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会幹事（～現在）
- 16) 国立大学保健管理施設協議会国際交流委員会委員（～現在）
- 17) 日本女性科学者の会理事・東海ブロック長（～現在）
- 18) 東海学校保健学会理事（～現在）

堀田 亮：

- 1) 日本自律訓練学会 評議員 教育研修委員（～現在）
- 2) 国立大学保健管理施設協議会 健康情報標準化ガイドライン 2025 特別指定委員会委員（～現在）
- 3) 国立大学保健管理施設協議会 障害学生支援に関する特別委員会委員（～現在）
- 4) 日本学生相談機関代表者協議会, 運営委員（～現在）
- 5) 日本学生相談学会 理事（学術交流・大会委員長）（～現在）
- 6) 日本健康心理学会 健康心理士会運営委員会（～現在）

川本美奈子：

- 1) 東海地区障害学生支援フォーラム役員（～現在）

4) 学会招待講演、招待シンポジスト、座長

山本真由美：

- 1) 第 67 回日本糖尿病学会年次学術集会（「サルコペニア・フレイル 1」座長）東京 2024.5.18.
- 2) 第 97 回日本内分泌学会学術総会（「English Session 1 Pituitary・Obesity・Hepatic Endocrinology・irAE」座長）横浜 2024.6.6.
- 3) 第 97 回日本内分泌学会学術総会（「日本人 2 型糖尿病診療の治療戦略～日米の薬物療法のアルゴリズムを読み解く～」座長）横浜 2024.6.8.

深尾 琢：

- 1) 第 62 回全国大学保健管理協会東海北陸部会研究集会（「大学生世代の LGBTQ への対応」講演）名古屋 2024.7.25.
- 2) 第 62 回全国大学保健管理研究集会（「留学生支援・ダイバーシティ」座長）神戸 2024.10.16.
- 3) 日本学術会議中部地区会議学術講演会（「『性はどうかやって決まる？』性同一性障害から見た人の性決定」講演）岐阜 2024.12.6.

堀田 亮：

- 1) 全国大学保健管理協会東海北陸地方部会保健管理担当職東海地区研究会（「Wellness, Campus Connect, DEIJA ～アメリカ短期留学で感じたこと～」講演）岐阜 2024.9.13.

5) 学術賞等の受賞状況

田尻下聡子：第 62 回全国大学保健管理研究集会優秀演題賞 2024.10.

6) 学会発表

国際学会

- 1) Horita R, Emma U, Imamura N, Fukao T, Adachi M, Tajirika S, Yamamoto M. Mental Health

among Agricultural and Engineering Graduate Students: Comparison by Grade Level and with Undergraduate Students. American College Health Association Annual Meeting 2024 2024.5.29.

- 2) Horita R. Student Counseling in Japan Cultural: Characteristics and Good Practice. American College Health Association Annual Meeting 2024 2024.5.30.

国内学会

- 1) 住吉孝允, 門脇朋範, 葛西涼介, 水野朋紀, 尾崎真人, 三輪友紀, 門脇紗織, 小島健太郎, 久保田一生, 山本崇裕, 川本美奈子, 川本典生, 大西秀典. 発症から短期間で悪化し巨大結腸を呈した重症潰瘍性大腸炎の1例. 第127回日本小児科学会学術集会. 福岡 2024.4.21.
- 2) 葛西涼介, 住吉孝允, 西口雅人, 宮崎太地, 門脇紗織, 野澤明史, 門脇朋範, 堀友博, 久保田一生, 遠渡沙緒理, 小関道夫, 川本典生, 川本美奈子, 内田孟, 阪本靖介, 笠原群生, 大西秀典. 血球減少と脾腫から診断した肝外門脈閉塞症の2例. 第127回日本小児科学会学術集会. 福岡 2024.4.21.
- 3) 田尻下聡子, 三輪貴生, 清水雅仁. 若年成人男性における metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease の実態と食行動との関係. 第14回肥満と消化器疾患研究会 徳島 2024.5.8.
- 4) 新津寛樹, 田附あえか, 慶野遥香, 堀田亮, 杉江征. 学生生活における大学生の心理社会的成長とその要因に関する探索的検討. 日本学生相談学会第42回大会. 仙台 2024.5.26.
- 5) 今村七菜子, 二宮有輝, 小橋亮介, 堀田亮. IACS 認証機関のワークショッププログラムレビュー. 日本学生相談学会第42回大会. 仙台 2024.5.26.
- 6) 安藤正人, 久保田一生, 門脇紗織, 門脇朋範, 川本美奈子, 川本典生, 望月清文, 金子揚, 大西秀典. 短期間に集積して発症した小児 MOG 抗体関連疾患の5例. 第90回岐阜臨床神経集会. 岐阜 2024.6.13.
- 7) 深尾琢. 臨床現場におけるボーダーラインシフトの真の意義. 第120回精神神経学会 横浜 2024.6.22.
- 8) 堀田亮. “こころ”を測るものさしの作り方. 第56回日本医学教育学会大会 東京 2024.8.10.
- 9) 瀬戸山陽子, 田中邦彦, Peter Bernick, 川上ちひろ, 堀田亮, 青木昭子. なぜ「多様性」なのかを考える～障害のある医療系学生や医療者と共に学び働くことで変わるもの～. 第56回日本医学教育学会大会 東京 2024.8.10.
- 10) 堀田亮. ホンネで語る多職種連携－学生相談・保健管理・障害学生支援, 有意義なサポートとは－: 学生相談の視点から. AHEAD-Japan conference 2024 東京 2024.8.30.
- 11) 深尾琢. メンタルは関わる範囲を決めることが大切です. 全国大学保健管理協会東海北陸地方部会保健管理担当職東海地区研究会 岐阜 2024.9.13.
- 12) 三輪友紀, 川本典生, 門脇朋範, 笹井英雄, 久保田一生, 川本美奈子, 大西秀典, 寺本貴英. 好酸球増多を伴い多彩な臨床症状を呈した TYK2 欠損症の1例. 第86回東海小児アレルギー－談話会. 名古屋 2024.9.28.

- 13) 三輪友紀, 川本典生, 門脇朋載, 笹井英雄, 久保田一生, 川本美奈子, 大西秀典. 好酸球増多を伴い多彩な臨床症状を呈した TYK2 欠損症の 1 例. 第 52 回日本臨床免疫学会. 東京 2024.10.11.
- 14) 田尻下聡子, 三輪貴生, 足立美穂, 川本美奈子, 堀田亮, 今村七菜子, 華井竜徳, 深尾琢, 清水雅仁, 山本眞由美. 大学生の脂肪肝実態調査と健康診断におけるスクリーニング法の検討. 第 62 回全国大学保健管理研究集会. 神戸 2024.10.16.
- 15) 今村七菜子, 堀田亮, 岡本綾子, 栗木由美子, 足立美穂, 川本美奈子, 田尻下聡子, 深尾琢, 山本眞由美. 学生相談終了時における学生と臨床心理士の双方合意の有無と相談回数・期間との関連. 第 62 回全国大学保健管理研究集会. 神戸 2024.10.16.
- 16) 足立美穂, 堀田亮, 川本美奈子, 深尾琢, 田尻下聡子, 今村七菜子, 山本眞由美. 発達特性のある大学新入学生の頻度と精神的健康度についての横断的研究. 第 62 回全国大学保健管理研究集会. 神戸 2024.10.16.
- 17) 堀田亮, 今村七菜子, 栗木由美子, 岡本綾子, 川本美奈子, 足立美穂, 田尻下聡子, 深尾琢, 山本眞由美. ウェルネスキャンパス実現に向けた実態調査: 学生の運動習慣と評価及び運動しない理由. 第 62 回全国大学保健管理研究集会. 神戸 2024.10.16.
- 18) 遠藤誠士, 川本典生, 熊谷千紗, 金山朋子, 川本美奈子, 豊田一希, 菊池洋介, 大西秀典. リンパ球刺激試験を目的としたミセル水性二相分配法による水溶性タンパク質試料からのエンドトキシン除去法の検討. 第 73 回日本アレルギー学会学術大会. 京都 2024.10.18.
- 19) 田尻下聡子, 三輪貴生, 華井竜徳, 清水雅仁, 山本眞由美. Prevalence of steatotic liver disease based on MASLD criteria in Japanese young adults. 第 32 回日本消化器関連学会. 神戸 2024.11.1.
- 20) 三輪友紀, 川本典生, 門脇朋載, 笹井英雄, 久保田一生, 川本美奈子, 大西秀典, 寺本貴英. 好酸球の慢性増多を伴い多彩な臨床症状を呈した TYK2 欠損症の 1 例. 第 61 回日本小児アレルギー学会学術大会. 名古屋 2024.11.3.
- 21) 川本典生, 熊谷千紗, 三輪友紀, 金山朋子, 門脇紗織, 川本美奈子, 大西秀典. 学校現場におけるアレルギー疾患の診断, 管理および保護者の認識に関する全県調査~都道府県アレルギー疾患医療拠点病院による調査~. 第 55 回全国学校保健・学校医大会. 宮崎 2024.11.9.
- 22) 深尾琢. Chat Generative Pre-trained Transformer (ChatGPT) が生成する精神療法的な発話の検討. 第 183 回東海精神神経学会 名古屋 2025.1.20.
- 23) 堀田亮. 岐阜大学保健管理センターにウェブ予約システムを導入してみたなら… . 第 58 回全国学生相談研究会議. 広島 2025.1.26.
- 24) 川本典生, 熊谷千紗, 三輪友紀, 門脇紗織, 川本美奈子, 大西秀典. 食物アレルギーの経過中にデュピルマブを使用した 3 例について. 第 87 回東海小児アレルギー談話会. 名古屋 2025.2.15.

7) 講演

山本真由美：

- 1) 「ダイバーシティ×ユニバーシティ～ University for Diverse Communities」第 56 回岐阜大学フォーラム 2024.6.5.

深尾 琢：

- 1) 「子供の性別違和感と精神科の役割」愛知県医師会 令和 6 年度学校保健シンポジウム 2025.3.2.
- 2) 事例検討助言者 岐阜県精神保健福祉センター 精神保健福祉従事者研修会 2025.3.3.

堀田 亮：

- 1) 「自殺予防及びゲートキーパー研修」岐阜県立下呂看護専門学校 2024.4.15.
- 2) 「大学生のころ：木を見るからこそ森が見える」アカデミックフラッシュ 2024.4.24.
- 3) 「学生の社会的情動的スキルを育むアプローチを考える」岐阜大学医学教育開発研究センター 第 88 回医学教育セミナーとワークショップ 2024.5.22.
- 4) 「対応が難しいと感じる学習者への接し方と支援方法」岐阜県看護協会 看護人材現任者研修 2024.7.22.
- 5) 「話を“聴いてもらう”ということ」美濃市教育委員会 美濃市教育研修室研修講座 2024.7.25.
- 6) 「発達障害のある学生に対する支援の実際」岐阜県教育委員会 令和 6 年度発達障がい支援担当教員養成事業 2024.8.28.
- 7) 「精神的に不安定な学生への対応方法：支援と配慮の勘所」平成医療短期大学 教育方法の改善研修 2024.9.5.
- 8) 「大学に向かない大学生：不適応を社会モデルから考える」中部学院大学 大学 FD 研修会 2024.9.12.
- 9) 「学生相談と障害学生支援の相補性」筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局 教育関係共同利用拠点 FD/SD 研修会（令和 6 年度第 2 回）2024.9.20.
- 10) 「自己理解とストレス対処」岐阜県看護協会 岐阜県新人看護職員教育事業実施プログラム 2024.9.26.
- 11) 「Wellness, Embedded Counseling Model, and Campus Connect ～南フロリダ大学短期留学報告～」日本学生相談機関代表者協議会 2024 年度第 1 回集会 2024.9.29.
- 12) 「障害学生支援で変わること、変わらないこと：改正障害者差別解消法の施行を経て」名古屋経済大学 FD/SD 2024.10.9.
- 13) 「合理的配慮の基礎と実践」第 62 回全国学生相談研修会 2024.11.23-24.
- 14) 「障害のある医療系学生の社会的バリアを考える～聴覚障害を例に～」岐阜大学医学教育開発研究センター 第 90 回医学教育セミナーとワークショップ 2025.1.24.
- 15) 「大学に向かない大学生：多様化する大学生の実態と理解」一般社団法人サステイナブル・サポート 多様な若者の理解・活用セミナー 2025.1.30.

- 16) 「コーディネーター育成研修（高度専門職プログラム）」HEAP 障害学生支援・専門職プログラム 2025.2.12-14.
- 17) 「ハラスメント防止のための組織づくり」情報科学芸術大学院大学 FD 2025.2.27.
- 18) 「大学生のメンタルヘルスの実態と IT やウェルネスに着目した支援」北陸先端科学技術大学院大学メンタルヘルス研修会 2025.3.7.
- 19) 「育ちを支えることと環境を整えること～学生支援における相補性～」京都外国語大学 FD 2025.3.12.

8) 社会活動

山本真由美：

- 1) 岐阜県大学保健管理研究会 会長（～現在）
- 2) 岐阜県医師会糖尿病対策委員会 委員（～現在）
- 3) 岐阜県医師会男女共同参画委員会 委員（～現在）
- 4) 岐阜県医師会 大学医師会 代議員（～現在）
- 5) 岐阜県食育推進会議 委員（～現在）
- 6) 公益社団法人岐阜医学研究協議会 専務理事（～現在）
- 7) 岐阜県糖尿病対策推進協議会 幹事（～現在）
- 8) 岐阜県糖尿病対策推進協議会糖尿病性腎症重症化予防プログラム ワーキンググループ委員（～現在）
- 9) 学校法人誠広学園 評議会 評議員（～現在）

深尾 琢：

- 1) 高齢・障害・求職者雇用支援機構岐阜支部岐阜障害者職業センター、医療情報助言者（～現在）
- 2) 下呂市療育支援嘱託医（～現在）
- 3) 希望が丘学園児童精神科嘱託医（～現在）
- 4) 岐阜県精神保健福祉センター非常勤医師（～現在）

堀田 亮：

- 1) 岐阜県地方競馬組合 笠松競馬ハラスメント外部相談員（～現在）
- 2) 岐阜県健康福祉部障害福祉課 / 岐阜県教育委員会特別支援教育課 岐阜県発達障がい者等支援体制整備推進委員（～現在）
- 3) 岐阜新卒応援ハローワーク、臨床心理士による心理的支援（～現在）

川本美奈子：

- 1) 岐阜大学保育園ほほえみ 園医（～現在）

9) 報告書他

- 1) 山本眞由美：事故発生時の対応：安全の手引 実験・実習を安全に行うためのガイドブック。岐阜大学工学部：107-121, 2024.4.
- 2) Yamamoto M：Emergency Response. Safety Instruction for Engineering Experiments. Faculty of Engineering, Gifu University：95-115, 2024.4.
- 3) 山本眞由美：岐阜県糖尿病性腎症重症化予防プログラム。岐阜県糖尿病性腎症重症化予防プログラム News Letter Vol.12 岐阜県医師会報 No.878：60, 2025.1.
- 4) 山本眞由美：全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会 保健管理担当職研究会 祝辞 保健管理担当職研究会 50周年に寄せて 全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会 保健管理担当職研究会 50周年記念誌：5, 2025.3.
- 5) 堀田亮：学生相談にウェブ予約システムを導入してみたら…。第58回全国学生相談研究会議報告書（広島シンポジウム）：112-132 2025.3.

10) 報道

- 1) 山本眞由美：「大学生向けの健康啓発本『2024 大学生の健康ナビ ～キャンパスライフの健康管理～』のご紹介」全国大学生生活協同組合連合会インターネットメディア 2024.4.
- 2) 山本眞由美：「こころとからだを支える健やかな学生生活『2024 大学生の健康ナビ ～キャンパスライフの健康管理～』」全国大学生生活協同組合連合会インターネットメディア 2024.4.
- 3) 山本眞由美, 三輪貴生, 田尻下聡子：「若年成人男性の脂肪肝と『食行動の偏り』の関連性を明らかに。早期治療を超えた早期予防につなげたい。」岐大のいぶき 47号 最先端研究の現場 2024.6.
- 4) 保健管理センター：「ウェルネスデー×栄養ワンダーを開催しました」岐阜大学 HP お知らせ 2024.7.
- 5) 保健管理センター：「ワクチン接種後の有害事象 健康的な生活習慣で減少 朝食と睡眠時間が重要 岐阜大調べ」科学新聞 科学新聞 2024.7.19.
- 6) 保健管理センター：「ウェルネスデー×栄養ワンダー：岐阜大が「栄養の日・週間」イベント」文教速報 2024.7.22. 第9426号
- 7) 保健管理センター：「ウェルネスデー×栄養ワンダー」文教ニュース 2024.7.22. 第2812号
- 8) 保健管理センター：「学部新生を対象とした『発達特性』と『精神的健康度』に関する調査を実施 - 大学入学早期からの支援体制充実の必要性 -」岐阜大学 HP 研究・採択情報 2024.11.
- 9) 深尾琢：「岐阜大で研究者ら講演～性の決定 多面的に理解を」中日新聞 2024.12.8.
- 10) 堀田亮：「活躍できる職場を考えるセミナー」NHK 岐阜 まるっと岐阜 2025.1.30.
- 11) 保健管理センター：「南フロリダ大学医学学群来訪」郡上八幡国際友好協会 GIFA ふれんどしっふ Vol.54 2025.3.

2. 報道記事

岐大のいぶき 47号 2024年6月

若年成人男性の脂肪肝と「食行動の偏り」の関連性を明らかに。早期治療を超えた早期予防につなげたい。

岐阜大学保健管理センターに所属する3人の内科医が進めている、20代の男性を対象とした脂肪肝の研究プロジェクト。今回、脂肪肝を診断された学生の食行動の偏りに着目した調査と解析により、早期予防につながる重要な知見が得られました。

岐阜大学 保健管理センター
医学部附属病院 消化器内科
田尻下 聡子 助教



岐阜大学 保健管理センター
非常勤講師
消化器内科 消化器内科学分科 (第一内科)
三輪 貴生 臨床助教

岐阜大学 保健管理センター
医学部附属病院 糖尿病代謝内科
山本 真由美 教授

軽視されがちな脂肪肝が、実は肝がんなどの原因に。
日本の成人男性の約3割は、肝臓の細胞内に脂肪がたまる脂肪肝になっていて、体内の余った脂肪が単に肝臓に蓄えられたものだけだと思われがちですが、肝臓にたまった脂肪は正常な細胞を傷害して慢性肝炎、肝硬変、肝がんへと進行させていきます。脂肪肝は内臓脂肪の増加と関連深く、内臓脂肪は各種サイトカイン^①を血液中に放出し、高血

圧、糖尿病、脂質異常症を誘発、動脈硬化症を進めます。ですから、脂肪肝は脳卒中や心疾患、動脈硬化症などのリスク因子として知られており、脂肪肝がある患者さんの死因の多くは循環器系疾患なのです。ところが、動脈硬化が進む前に内臓脂肪の蓄積を早く見つけ、血圧、血糖、脂質値を悪化させないように抑え、健康寿命延伸に寄与したい学生への早期介入で生涯医療費を削減を目指す岐阜大学としては、健康寿命を自ら伸ばすこととして、脂肪肝の早期発見と予防を目的として、若者の脂肪肝について調査する研究プロジェクトを立ち上げました。生涯健康を自ら目指す岐阜大学は学生への早期介入で生涯医療費を削減を自ら伸ばすこととして、健康寿命を自ら伸ばすこととして、脂肪肝の早期発見と予防を目的として、若者の脂肪肝について調査する研究プロジェクトを立ち上げました。

慢性肝炎の主な原因は、脂肪肝と

ウイルス、アルコールの3つです。現在ではウイルス性のB型肝炎はワクチンによる予防が、C型肝炎は薬による治療が可能です。それだけに、重症になるまで自覚症状がない脂肪肝をいかに予防するかは、肝臓を傷める医学研究者の大きな使命となっています。

代謝異常を伴う脂肪肝の人は、「食行動」に偏りが。



今回の研究では2022年4月に、年輪中央部22歳の岐阜大学大学院男子学生322名を対象に、「脂肪肝疾患の実態」と「食行動の偏り」との関連を調査し、相関を解析しました。このように脂肪肝の実態は、新入生の定期健康診断で血液検査に加えて、全員に腹部超音波検査を実施して診断しました。食行動の偏りについては、日本肥満学会の推奨する「食行動質問表」を使用して、7分類・全55の質問に答えると、分類ごと合計点数のグラフを可視化できるものです。調査の結果、脂肪肝の中でも代

補異常に関連する脂肪肝疾患(MASLD^②)は、対象者の11%にあつた【図1】。そして、問診表の7分類のうち「体質や体重に関する認識」の回答によってはMASLDのリスク上昇に寄与していることが判明しました【図2】。「他人よりも肥りやすい体質だ」という学生は、MASLDのリスクが高い傾向を示しています。また総合合計点数が高いほど脂肪肝のリスクが高くなることも明らかになりました【図3】。

脂肪肝は遺伝的要素に加えて肥満^③などに関連して起こる疾患ですが、さらには行動療法を加えれば治療効果が高まります。健康診断で脂肪肝の診断を受けた学生は、食行動問診表の結果から問題点を自身が把握できたことで、行動変容のきっかけを得ました。このように治療や予防のための介入において、自身が理解を深める機会があることに、この研究の大きな価値があります。現在は学部生を対象に、介入回数の違いによる予防効果の差を調査しています。

一連の研究プロジェクト^④から、大学生の年代でも血液のALT値が20以上なら脂肪肝の確率が高いという知見が得られ、日本肝臓学会が「奈良宣言2023」で「健康診

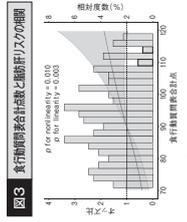
断でALT値が30を超えていればかかりつけ医を受診」と呼びかけていますが、若年男性にもこの数値があてはまるべきだと懸念がもたれています。

保健管理センターは、将来、社会でリーダーとなる岐阜大学生に正しい知識と情報を提供し、自己健康管理能力を獲得してもらい、健康な学生を育てたいと考えています。保健管理センターを気軽に利用していただければ私たちはもちろん嬉しく思います。

※1 サイトカイン 主に免疫細胞から分泌される低分子のタンパク質で、細胞間の情報伝達の役割を担っている。
※2 MASLD 代謝異常関連脂肪肝疾患。脂肪肝に追加で「肥満」「2型糖尿病」「高血圧」「脂質異常症」のうち1つ以上が認められる場合、脂肪肝と併せて「MASLD」として診断される。2023年、新たにMASLDが完成された。
※3 BMI 肥満度。肥っている状態(BMIが25以上)に加え、2型糖尿病や高血圧などがあつた場合はそのリスクが高い状態。
※4 Miva T. et al. Sci Rep. 2024; 14:1102194. doi:10.1038/s41598-024-52792-3. <https://doi.org/10.1038/s41598-024-52792-3>.
※5 Tanaka S. et al. Sci Rep. 2023; 13:1017897. doi:10.1038/s41598-023-34912-x.



MASLDやNAFLDの人は、脂肪肝ではない人に比べて、1の体質や体重に関する認識、5の果物、7の食生活のスコアが高い傾向にある。



質問表の合計点数が高いほど(赤へ行くほど)、脂肪肝のリスクが上がる傾向にある。



岐阜大学大学院男子学生322人を対象とし、調査では、MASLDが11%、NAFLDが6%、両者の併存が11%、脂肪肝なしが83%と判明した。

「ウェルネスデー×栄養ワンダー」を開催しました

7月3日（水）、岐阜大学保健管理センターは大学生協学生委員会との共催で、ウェルネスデー×栄養ワンダーを開催しました。

栄養ワンダーとは日本栄養士会が企画する「栄養の日、栄養週間」に合わせて実施されるイベントで、今年度は「口と栄養のおいしい関係」をテーマに、現代に即した栄養のあり方を教育、提案するものです。

本イベントでは、協賛社から提供されたキウイフルーツとドリンク、日本栄養士会が制作・発行した指導媒体を無料配布しました。開始前から長蛇の列となり、先着500名を対象にした配布会は約1時間半で終了となりました。加えて、岐阜市保健所の協力を得て、フードモデルを選んでセンサーに乗せるだけで栄養価計算ができる「食育SATシステム」を用いた食事のバランスチェックを行い、こちらは事前予約と当日参加を合わせて40名以上が参加しました。また、大学生協学生委員会が中心となり、手のひらをセンサーにあてるだけで、簡単に推定野菜摂取量を測定できる「ベジチェック」を用いた測定会も実施し、60人以上の参加がありました。参加者からは、「普段、野菜は摂るようにしているが具体的にどれくらい自分が食べられているかの認識はしていなかったため、数値を見ることができて良かった」、「自分も岐大の他の学生も思ったより野菜を摂取できていなくてびっくりした」、「数値が高くて低くても、野菜の摂取量を知る良い機会になった」といった感想が寄せられました。すべての企画で、学生のみならず、教職員の参加もあり、栄養ワンダーを通じて、食に関する関心と理解が深まり、毎日の食生活に生かされることを期待します。

保健管理センターと大学生協学生委員会は、2024年5月に大学生協中央店前にウェルネスルームをオープンしており「皆さんの健康をもっと身近に、もっと気軽に」をコンセプトに、体組成計の測定のほか、健康に関するさまざまな啓発資料を展示しています。また、今後もイベントの開催を予定しており、岐阜大学の構成員一人ひとりが健康でより良い生活を送れるようサポートしていきます。



ウェルネスデー会場の様子



キウイフルーツとドリンクの配布

2024.07.11

2024年11月8日 岐阜大学 HP (<https://www.gifu-u.ac.jp/news/research/2024/11/entry08-13642.html>)

研究・採択情報

2024.11.08

学部新入生を対象とした「発達特性」と「精神的健康度」に関する調査を実施 -大学入学早期からの支援体制充実の必要性-

岐阜大学保健管理センターの足立美穂助教、山本眞由美教授らのグループは、岐阜大学の学部新入生全員を対象として、発達特性^{※1}を有すると推察される学生の頻度と精神的健康度の調査を実施しました。調査は大学入学後1か月以内に実施し、発達特性は自閉症スペクトラム指数(AQ)と成人期ADHD検査(A-ADHD)を用いて推察し、精神的健康度はCCAPS日本語版^{※2}(Counseling Center Assessment of Psychological Symptoms Japanese; 大学生の精神的健康度指標で、点数が高いほど精神的健康度リスクが高い)を用いて調査しました。分析対象711人のうち、発達特性があると推察された人数は61人(8.58%)でした。これらの学生は、それ以外の学生に比べてCCAPSの7つの項目(抑うつ、全般性不安、社会不安、学業ストレス、食行動、敵意、家族ストレス)で有意に点数が高く、精神的健康度リスクが高いことが分かりました。本研究によって、発達特性があると推察される学生には、大学入学早期から支援の必要性を確認し、必要に応じて修学・生活支援を提供して精神的負担軽減に努める必要があると示唆されました。

本研究成果は、日本時間2024年10月16日にJournal of Autism and Developmental Disorders誌(Springer Nature)のオンライン版で発表しました。

発表のポイント

- 岐阜大学の学部新入生全員(日本人)を対象として、入学1か月以内の時期に発達特性および精神的健康度に関する調査を実施しました。
- 調査の結果、発達特性を有すると推察される学生の割合は8.58%でした。また、発達特性を有すると推察される学生では、それ以外の学生に比べて、抑うつ、不安、ストレスなどの精神的健康度リスクが高いことが分かりました。
- 発達特性を有する学生には、大学入学早期から大学支援部門が介入して、修学・生活支援を通じ、精神的負担軽減に努める必要があると示唆されました。

詳しい研究内容について

📄 [学部新入生を対象とした「発達特性」と「精神的健康度」に関する調査を実施](#)

-大学入学早期からの支援体制充実の必要性-

論文情報

- 雑誌名: Journal of Autism and Developmental Disorders
- 論文名: Frequency and Mental Health Condition of Students with Developmental Disabilities Among First Year Japanese University Students: A Cross Sectional Survey
- 著者: Miho Adachi, Ryo Horita, Takao Miwa, Satoko Tajirika, Nanako Imamura, Daichi Watanabe, Takuma Ishihara, Taku Fukao, Hidenori Ohnishi, Mayumi Yamamoto
- DOI: [10.1007/s10803-024-06515-y](https://doi.org/10.1007/s10803-024-06515-y)

Ⅳ 教育・広報・社会活動

1. 保健管理センター利用案内
2. 保健管理センターニュース刊行
日本語・英語 (No.167 ~ 175)

IV 教育・広報・社会活動

1. 保健管理センター利用案内

岐阜大学 保健管理センター 利用案内

2024年度版

Health Administration Center,
Gifu University

〒501-8193 岐阜市岐阜3番1
TEL: (058) 293-2174
FAX: (058) 293-2177
E-mail: hokencen@t.gifu-u.ac.jp
HP: http://www.hoken.gifu-u.ac.jp/



東海国立
大学機構 | 岐阜大学

料金 保健管理センターの利用はすべて無料です。

開館時間 月～金(祝日を除く) 8:30～17:00

♥ AED設置場所
岐阜大学にはAEDが23か所に設置されています。



①保健管理センター(下呂市)
②美濃加茂農場(美濃加茂市)

①保健管理センター正面入口
②教育学部保健体育科正門入口
③教育学部1階ヒロティ
④教育学部本館1階
⑤医学部本館1階
⑥医学部教育福利棟2階
⑦工学部正門入口
⑧工学部総合研究棟1入口
⑨応用生物科学部正門入口
⑩フィールド科学教育研究センター管理棟玄関前
⑪全学共通教育講義棟入口

⑫総合生命コア研究所棟研究棟
⑬航空宇宙生産技術開発センター入口
⑭器具庫(園外体育施設)
⑮黒野寮多目的室
⑯国際交流会館入館事務室前
⑰国際交流会館8階階段前
⑱国際交流会館C棟
⑲保健館(ほほえみ)(小児対応可)
⑳情報館
㉑理学部附属病院(多目的ホール前)
㉒佐山演習林(下呂市)
㉓美濃加茂農場(美濃加茂市)

健康状態に関する情報は、岐阜大学規則(個人情報管理規程)により管理されます。生命に危険が及ぶと判断されるような緊急・重要時以外では、即本人の了解なく健康診断結果や相談内容等が第三者に通知されることは一切ありません。保健管理センターの教職員は、すべて守秘義務を持つ有資格者です。安心して相談してください。

教職員の皆さんへ

保健管理センターでは、教職員の皆さんの健康づくりを支援する健康管理業務をしています。

- ◆ **職場の健康管理(労働安全衛生法)**
健康診断の結果に基づいて、産業医が面談させていただきます。保健管理センターから面談日時のご相談をさせていただく際にはご理解とご協力をお願いします。
- ◆ **体調不良のとき**
勤務時間の急な体調不良やケガの際には、応急処置を行い必要に応じて医療機関へ紹介します。遠慮なくご連絡ください。
- ◆ **教職員の健康相談**
就労に関わる健康相談(療養後の復業支援、過重労働による疲労なども含む)や健康上の悩み(産業界(内科医・精神科医)が対応いたします。医療機関の情報提供や紹介状作成もいたします。ご相談の際には、十分な時間をご用意できるように電話またはメールで予約の上、お越しください。

皆さんへ

- ◆ **健康啓発**
・窓口には各種パンフレットを揃えています。
・保健管理センターニュースを発行し、健康に関する情報を提供しています。ホームページをご覧ください。
<http://www.hoken.gifu-u.ac.jp/>
- ◆ **健康チェック**
血圧、身長、体重、体脂肪率、視力の測定など自由に利用できます。自分の健康状態を知りたいときや、健康管理に利用してください。
- ◆ **その他**
・部活やサークルの合宿等で必要とき、救急車の貸出をしています(事前の申請が必要です)。
・自己測定用の電子血圧計の貸出もしています。
・保健管理センターの窓口では保健師、看護師など医療専門職が必ず対応します。気軽にお問い合わせください。

予約・
問い合わせ
TEL: 058-293-2174
E-mail: hokencen@t.gifu-u.ac.jp

学生の皆さんへ

◆ 応急処置

学内で病気やケガをしたとき、看護スタッフから応急処置が受けられます。すぐに連絡してください。

- ・体調が悪いときはベッドで休養できます。

◆ 内科医による健康相談・禁煙サポート

医師相談(予約制)	
火・水・木	10:00~12:30

- ・薬を希望される方は上記の時間内にお越しください。
- ・保健師による健康相談も随時行っています。(原則予約制)
- ・禁煙相談は随時行っていますが、ニコチンパッチの処方には医師の相談時内にお越しください。
- ・管理栄養士による栄養アドバイスは毎週水曜13:30~16:30です。(原則予約制)

予約・問い合わせ | TEL:058-293-2174
E-mail:hokencen@gifu-u.ac.jp

◆ 定期健康診断・健康診断証明書の発行

岐阜大学では、在学生(次年度卒業予定者を除く)は毎年2月に、新入生は4月に定期健康診断を実施しています。健康診断を受けることは、自分の健康管理のためにとっても重要なことです。学校保健安全法でも、年に1回健康診断を受けることが定められていますので、必ず受診してください。

混雑を避け、待ち時間を短縮できるよう、在学生は予約制です。就職、実習、卒業に際して健康診断証明書が必要な際、定期健康診断の結果に基づいて無料で発行します。定期健康診断を受けていない方には証明書を発行できませんので毎年必ず受診してください。(医療機関で発行してもらった場合は、自己負担費用が発生します。)

- 必要に応じて医療機関を受診することがあります。医療機関を受診するときは健康保険証が必要で、保護者と覆れて書らず方は、保護者の加入している健康保険の「通院地域保険者証」または「通院地域被保険者証」を用意しておいてください。

◆ メンタルヘルズ学生相談

勉強・進路・人間関係の悩み・不安・落ち込み・身体症状等の問題について、気軽に利用してください。原則的に予約制です。保健管理センターの受付、電話やメールで予約してください。オンライン相談も対応しています。

曜日	医師相談(予約制)	心理カウンセリング(予約制)
月	14:00~17:00 精神科医	9:00~17:00 臨床心理士
火	—	9:00~17:00 臨床心理士
水	14:00~17:00 精神科医	10:00~17:00 臨床心理士
木	14:00~17:00 精神科医	10:00~17:00 臨床心理士
金	14:00~17:00 精神科医	9:00~17:00 臨床心理士

相談日曜は、やむをえず変更することがあります。

予約・問い合わせ | TEL:058-293-2174
E-mail:hokencen@t.gifu-u.ac.jp

◆ 歯科相談

毎月1回(第1または第2水曜日)、歯科専門医(岐阜大学医学部附属病院歯科口腔外科)による歯科相談を行っています。歯並びや噛み合わせのことも含め、なんでも相談してください。

2024年度日程												
■時間 13:30~15:00												
2024年	4月	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	1月	2日	3日
10日	1日	5日	3日	—	—	—	2日	6日	4日	15日	—	5日

- 健康診断の案内などは、大学から配布された個人のメールアドレスに配信されます。大学のメールアドレスに届いたメールは必ず確認できるようにしておいてください。

◆ 障害学生支援室

障害や慢性疾患等のために修学に際し配慮が必要な場合は相談してください。

「どのような支援を受けられるか」「どのような手続きをすればよいか」などの方法について一緒に考え、所属学部・研究科の教職員と連携して合理的な配慮を立案し、実施に向けて支援します。

障害学生支援室には、医師、臨床心理士が常勤しています。なお、相談することで不利益が生じることはありません。相談は、原則予約制です。下記へ連絡ください。

電話:058-293-2172・2174
E-mail:shien@t.gifu-u.ac.jp

◆ 学務情報システム

健康診断の問診入力・結果確認は、「学務情報システム」からweb上で行ってください。

<https://alss-portal.gifu-u.ac.jp>

機構アカウント、パスワードを入れてログイン

学務情報システムは機構アカウント、パスワードで認証された個人しか見ることができないので、個人情報完全に保護されています。

※機構アカウント、パスワードは大学のEメールアドレスとは別です。機構アカウント、パスワードが不明な場合は、下記のURLから対応してください。
<<https://www.imc.gifu-u.ac.jp/service/authentication/thers-account.html>>

健康診断日程など詳しいことは、保健管理センターにお問い合わせください。ぜひ一度、ホームページをご覧ください。

For Faculty and Staff

The Health Administration Center provides health management services for the faculty and staff.

◆ Occupational Health (The Industrial Safety and Health Act)

Occupational physicians and health nurses will make health advice for the faculty and staff on the basis of their annual health checkup results. Please understand the importance of this health promotion activities by the Health Administration Center.

◆ First Aid for Illness or Injury at Work

In the event of a sudden illness or injury on campus the Health Administration Center will provide first aid and may refer them to an appropriate medical institutes.

◆ Health Consultations

The industrial physicians provide work-related health consultations and address your health problems. We will provide information about medical institutions and prepare a referral form. To secure enough time for consultation, please make an appointment before visiting.

Reservation and Question

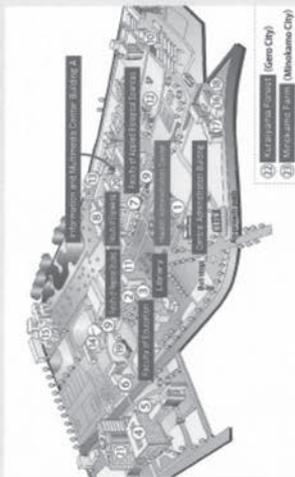
TEL: +81-58-293-2174, 2173 (8:30am-5:00pm)
 FAX: +81-58-293-2177
 E-mail: hokencen@t.gifu-u.ac.jp

Charge All services at the Health Administration Center are free of charge

Opening hours Monday to Friday excluding holidays, 8:30am-5:00pm

♥ Location of AEDs

Automated external defibrillators (AEDs) are installed at 23 locations on the Gifu University campus.



- ① Health Administration Center, Main Entrance
- ② Faculty of Education, Health and Physical Education Building, Main Entrance
- ③ Faculty of Education, Building A
- ④ School of Medicine, Main Building 1st Floor
- ⑤ Medical Course Building 2nd Floor, School of Medicine
- ⑥ Nursing Course, School of Medicine
- ⑦ Faculty of Engineering, Main Entrance
- ⑧ Faculty of Engineering, General Research Building 1, Entrance
- ⑨ Faculty of Applied Biological Sciences, Main Entrance
- ⑩ Gifu Field Science Center
- ⑪ Center for General Education, Main Entrance
- ⑫ Institute for Glyco-core Research (IGCORE)
- ⑬ Intelligent Production Technology Research & Development Center for Aerospace, Main Entrance
- ⑭ Utensil Storage/Locker Room
- ⑮ "Kuroono" Dormitory, 1st Floor
- ⑯ International House Building A
- ⑰ International House Building B
- ⑱ International House Building C
- ⑲ Nursery "Hohoemi"
- ⑳ Information Management Core
- ㉑ University Hospital (in front of Multipurpose hall (IF))
- ㉒ Kurayama Forest (Gero City)
- ㉓ Minokamo Farm (Minokamo City)

Health Administration Center, Gifu University

1-1 Yanagido, Gifu 501-1193, Japan
 TEL: +81-58-293-2174
 FAX: +81-58-293-2177
 E-mail: hokencen@t.gifu-u.ac.jp
 HP: <http://www.hoken.gifu-u.ac.jp/>

For Students

◆ First Aid

For your sickness or injury on campus, first aid is provided by physician or public health nurse.

- When you are feeling unwell, you can rest in bed. Don't hesitate to visit us.

◆ Consultation with physician or psychiatrist

Consultation : Appointments are required

Monday	3:00pm - 5:00pm Psychiatrist
Tuesday	10:00pm - 0:30pm Physician
Wednesday	2:00pm - 5:00pm Psychiatrist 10:00pm - 0:30pm Physician
Thursday	2:00pm - 5:00pm Psychiatrist 10:00pm - 0:30pm Physician
Friday	2:00pm - 5:00pm Psychiatrist

- Appointments are required for consultations with the physician or psychiatrist. You can make appointments by telephone, by e-mail, or at the reception desk of Health Administration Center.
- Prescription service is provided during opening hours with an appointment.
- Smoking cessation consultation is also provided with an appointment. The prescription of nicotine patches is available.

◆ Dental Counseling

Once a month, Wednesday afternoon, dental counseling is provided by a specialist of the Department of Dentistry, Oral and Maxillofacial Surgery, Gifu University Hospital. Feel free to consult with a specialist.

◆ Annual health checkup and issuance of medical checkup certificates

New students at Gifu University receive a health checkup in April. For other students, annual health checkups are provided in February. It is very important that you receive these checkups. In Japan, based on the School Health and Safety Act, you must have a health checkup at least once a year.

- You may be referred to a medical institution as needed. When you visit a medical institution, you have to present your national health insurance card. Please ensure that you have national health insurance.

To avoid overcrowding and reduce wait times, the annual health checkup requires a reservation; this allows you to receive the checkup on a day that is convenient for you.

If you require a medical checkup certificate for job searches, practical training, or schoolwork, we will issue a certificate based on your data from the health checkup for the relevant year using an automatic issuing machine or at the reception desk of the Health Administration Center. Certificates cannot be issued to students who have not taken the annual checkup.

Information about your health will be managed according to the regulations of personal information administrative provision, Gifu University. Aside from emergencies or other critical situations where there is deemed to be a life-threatening risk, we will never give information to any third party without your consent. All member of the Health Administration Center has a medical licence with duty to ensure confidentiality. Please feel at ease when consulting the staff.

◆ Accessibility Center

Don't hesitate to contact us when you need support for various academic activities due to your disability or illness. We collaborate with the faculty and staff of your department and create a plan catered to your individual needs. The disability center is run by medical doctors and clinical psychologists. Your consultation is handled by trained professionals, and provided for your benefit. There is no disadvantage to coming for a consultation.

Booking are essential. Kindly, contact us via e-mail or telephone as below, to make your appointment.

Tel: +81-58-293-2172, +81-058-293-2174

E-mail: shien@gifu-u.ac.jp

- Information such as an announce of annual health checkup will be delivered to your personal e-mail address provided by the university, Web Mail System for Student. Please remember to check for messages delivered to your university e-mail address.

◆ Students Affairs Information System

When you make a reservation for the annual health checkup, answer the health questionnaires, and confirm the checkup results, use the "Students Affairs Information System" on the web.

<https://alss-portal.gifu-u.ac.jp>

Login to the system with your THESS account and password. Personal information is completely protected, because only the individual who is approved by THESS account and password can see the personal site.

- ※ Your THESS account and its password are different from your Email address and its password. If you need more help, go to the site below.

<https://www.jmc.gifu-u.ac.jp/service/authentication/thers-account.html>

◆ Health Promotion

- Various health brochures are available at the center.
- The Health Administration Center provides health information with "Health Administration Center News". Please go to our web site.

<http://www.hoken.gifu-u.ac.jp/>

◆ Health Self-check

You can make health self-check with physical measurements of blood pressure, height, body weight, body fat percentage, and visual acuity at any time. You can use this information to understand your health condition and to your health management.

◆ Other Services

- First-aid kits bag are available for student activities with appointment.
- Electronic machine for self-measuring of blood pressure are also available.

Reservation TEL: +81-58-293-2174 FAX: +81-58-293-2177

Question E-mail: hokencen@gifu-u.ac.jp

 岐阜大学保健管理センター

- 内科医診察
- メンタルヘルス
- 障害学生支援
- 栄養相談
- 歯科相談
- 健康相談

についてWEB予約を受け付けています。



学生、教職員のみなさんが健やかな生活を送られるように
様々な相談や健康増進活動、情報発信をしています。

受付時間：8:45～16:30 閉館日：土日祝 TEL:(058)293-2174

 Health Administration Center, Gifu University

- Physical health
- Mental health
- Support for special needs
- Nutrition consultation
- Dental consultation
- Health consultation

Online reservations are available.



We provide various consultations, health promotion activities,
and information dissemination to ensure that students and
faculty and staff lead healthy lives.

Hours: 8:45AM~4:30PM Closed: Saturdays, Sundays and holidays. TEL:(058)293-2174

2. 保健管理センターニュース刊行日本語・英語 (No.167 ~ 175)

保健管理センターニュース No.167 2024/4/8

発行 | 岐阜大学保健管理センター
TEL: 056-269-2174 FAX: 056-232-2177 E-mail: hokenkan@gifu-u.ac.jp

2024年度 前期特殊健康診断のご案内

1. 日 時: 2024年4月17日(水) 13:30~15:30
18日(木) 9:30~11:30, 13:00~15:30
19日(金) 9:30~11:30, 13:00~15:30

2. 場 所: 大学病院(旧庁)

3. 検査項目: 診察、問診、血液検査・尿検査など(登録された作業内容、取扱商品それぞれについて法律で定められた検査項目を実施します。)

4. 予 約: 必ず事前に予約票としてから予約してください。
健康診断の受付で、予約票を電子採印または印刷した用紙で見せてください。
特別健康診断とは、専攻学科、学年・学年間、専攻学科ごと、大層に感謝する感謝状、表彰状なども送付いたします。また、専攻学科ごとに、専攻学科の健康診断と異なり、専攻学科の安全衛生責任者や専攻学科の責任者によって登録されます。専攻学科の安全衛生責任者や専攻学科の責任者とよく相談してください。

予約方法

学務情報システム <https://aisa-portal.gifu-u.ac.jp>

予約 学務情報システム ⇒ 健康診断 ⇒ 健康予約 ⇒ 予約を追加する

Notification of Special Health Checkup in 2024

1. Date: April 17th, Wednesday 1:30 - 3:30 pm
April 18th, Thursday, 9:30 - 11:30 am, 1:00 - 3:30 pm
April 19th, Friday, 9:30 - 11:30 am, 1:00 - 3:30 pm

2. Location: University Hall (MICHIGAKI KAMKAN), 1st Floor

3. Content: medical examinations, physical examination, blood analysis, urine analysis, etc. (depend on the work environment). Special health check contents are determined by the Occupational Health and Safety Act in Japan.

4. Reservation: Make an appointment. At the reception, show the appointment paper on your phone or PC. Special health checkup is conducted for students who are engaged in school, club, and related activities routinely. Since your health has responsibility for safety management, please confirm your reservation with your mentor.

Appointment

Students Affairs Information System: <https://aisa-portal.gifu-u.ac.jp>

Appointment → Students Affairs Information System → Health → Apply for Health Checkup → 予約を追加する (story, zipcode)

※ If you can not make appointments, don't hesitate to visit the Health Administration Center.

保健管理センターニュース No.169 2024/7

発行 | 岐阜大学保健管理センター
TEL: 056-269-2174 FAX: 056-232-2177 E-mail: hokenkan@gifu-u.ac.jp

コロナウイルス感染症 (COVID-19) が 学内で再び増加しています！

- 体調がすぐれない時には登校を控える
- 症状がある時はマスク着用をする
- 部活、サークル等の集団で感染者が出ている場合は、関係者全員がマスクをし、会食は控えるなど、感染が広がらないよう注意しましょう！

感染拡大防止への ご協力をお願いいたします

外出をする際は、今一度、ご自身の体調を確認いただき、発熱や倦怠感があった場合は、軽度であっても外出や移動を控え、自治体等の方針に従って受診や検査をお願いします。また、県省等で高齢の方等と会う場合は、より一層感染防止対策を心がけて体調を整えるようにしましょう。
高齢者や基礎疾患のある方が感染すれば重症化リスクも高まります。「手洗い」や「3密(密接・密集・密閉)回避」「換気」「マスクの効果的な着用面などでの費用」など基本的な感染対策に取り組みましょう。

厚生労働省

Health Administration Center News No.169 2024/7

Health Administration Center, Gifu University
TEL: 056-269-2174 FAX: 056-232-2177 E-mail: hokenkan@gifu-u.ac.jp

COVID-19 are on the rise again on campus!

- Refrain from coming to school if you are not feeling well.
- Wear a mask if you have symptoms.
- If there are cases of infection in a club or group, all involved should wear masks and refrain from dining together.

Take care to prevent the spread of infection!

COVID-19 Preventing Infection

Check your physical condition, and when you have to go out despite a fever or feel fatigue, please avoid crowd and wear a mask.
The elderly and people with underlying medical conditions have an increased risk of severe illness if infected. We advise you to take basic precautions such as washing hands, ventilation and wearing masks.
Thank you for your cooperation.

厚生労働省

保健管理センターニュース

発行:岐阜大学保健管理センター
 TEL: 058-293-2174 FAX: 058-293-2177
 E-mail: hokencen@t.gifu-u.ac.jp

No.168
 2024/7/29

スポーツ活動中の熱中症に注意!

運動に関する指針

【熱中症予防情報サイト】から暑さ指数が確認できます
https://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php

気温 (暑さ)	暑さ指数 (WBGT)	活動制限の目安	熱中症予防指針
35℃以下	21以下	制限なし(通常)	通常の活動が問題なく行われる。特に子どもの場合は中止すべき。
31℃以上 34℃未満	26以上 29未満	注意喚起 (暑い運動は中止)	熱中症の危険性が高くなる。暑い時間帯は長時間の練習が避けられ、早急な中止を要する。10〜15分おきに休憩を取り水分・塩分の補給を要する。暑さに弱い人は運動を中止または中止。
30℃以上 31℃未満	25以下 26未満	注意 (暑い運動は中止)	熱中症の危険性が高くなる。特に高齢者や子供は、水分・塩分を補給する。10〜15分おきに、30分おきに休み、休憩をとる。
27℃以上 30℃未満	21以上 26未満	注意 (暑い運動は中止)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。動作の危険性に注意するとともに、運動の回数が制限的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21未満	注意 (暑い運動は中止)	海岸は熱中症の危険性が高いが、湿度が高い・風の強い場合は必要である。市民マラソンなどの場合は、熱中症が発生するおそれがある。

暑さ指数が
28以上で
熱中症が急増!



運動前に暑さ指数を確認!
 気温 31℃以上では屋外の
 サークル活動中止を検討し
 てください!

※暑さ指数が高い人: 体力が弱い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など
 (公報) 日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」(2019)より

スポーツ活動中の 熱中症予防の5ヶ条

暑いとき、無理な運動は事故のもと

急な暑さに要注意

失われる水と塩分を取り戻そう

薄着スタイルでさわやかに

体調不良時の運動は事故のもと

Health Administration Center News

Health Administration Center, Gifu University
 TEL: 058-293-2174 FAX: 058-293-2177
 E-mail: hokencen@t.gifu-u.ac.jp

No.168
 2024/7/29

Be cautious of heatstroke during sports!

Guideline

You can check the WBGT on this site
 Heat Illness Prevention Information: <https://www.wbgt.env.go.jp/en/>

Air temperature (typical value)	WBGT	Guides to how much exercise can be safely performed
< 33 °C	< 21	At a WBGT of 21 or above, the body temperature is higher than the skin temperature, so body heat cannot escape, and except for special cases, all activities should be stopped. At a WBGT of above 24, the danger of heat illness is high, so people should stop heavy exercise or work in which the body temperature will rise. The danger of heat illness increases, so rest periods should be provided every 20 minutes for even simple heavy exercises.
33 ~ 35 °C	20 ~ 23	At a WBGT of above 21, there is the danger of fatal accidents due to heat illness, so caution is advised, and water and salt intake should be promoted during exercise. At a WBGT below 21, normally the danger of heat illness is small, but appropriate water and salt intake is necessary. In addition, caution must be taken in cases such as illness, heat stroke, or other conditions, so activities should be stopped.
36 ~ 38 °C	25 ~ 28	At a WBGT of above 21, there is the danger of fatal accidents due to heat illness, so caution is advised, and water and salt intake should be promoted during exercise. At a WBGT below 21, normally the danger of heat illness is small, but appropriate water and salt intake is necessary. In addition, caution must be taken in cases such as illness, heat stroke, or other conditions, so activities should be stopped.
> 39 °C	> 29	At a WBGT of above 21, there is the danger of fatal accidents due to heat illness, so caution is advised, and water and salt intake should be promoted during exercise. At a WBGT below 21, normally the danger of heat illness is small, but appropriate water and salt intake is necessary. In addition, caution must be taken in cases such as illness, heat stroke, or other conditions, so activities should be stopped.

When WBGT exceeds 28, there is a sharp increase in cases of heatstroke!



Check WBGT before you exercise.
 Consider suspending outdoor activities, if the WBGT is 28 or higher!

Reference: Japan Sports Association, "A Guidebook for the Prevention of Heat Illness During Sports Activities", 2019.

Heatstroke prevention during sports activities

Exercising in hot weather can lead to accidents

Be careful of sudden heat

Replenish lost water and salt

Let's dress lightly

Do not exercise when feeling unwell

⚠ 蜂に注意！！

キャンパス内で蜂に刺される被害（蜂刺症）が発生しています。
もし、蜂を見つけたら、
静かにその場を離れましょう。
蜂の巣を見つけたら、触ったりしないで
学務係に連絡してください。



もし、蜂に刺されてしまったら、保健管理センターで処置を受けてください。
保健管理センターに來れない場合は、速やかに①～④を実行してください。

- ① その場から身を低くして離れる。
- ② 傷口を強く絞りながら水でよく洗う。
- ③ 傷口を水や氷で冷やす。
- ④ 皮膚科を受診する。

★蜂に刺された後、24時間以内に発疹や吐き気などアレルギーやアナフィラキシーの症状があれば、すぐに救急車を呼ぶか医療機関を受診してください！



⚠ Beware of bees！！

There have been incidents of bee stings on campus.
If you see a bee, quietly leave the area.
If you find a beehive, do not touch it and contact the administrative office.



If you get stung by a bee, please receive treatment at the Health Care Center. If you cannot go to the Health Care Center, promptly follow steps (1) to (4).

- (1) Lower your body and leave the area.
- (2) Thoroughly wash the wound with water while squeezing it firmly.
- (3) Cool the wound with water and ice.
- (4) Consult a dermatologist.

★ If you experience symptoms of allergy or anaphylaxis such as rash or nausea within 24 hours after being stung by a bee, call an ambulance or visit a medical facility immediately.



2024年度 後期待特殊健康診断のご案内

No.171
2024/10/11

1. 日時：2024年10月23日（水）13:30～16:00
2. 場所：大学会館（1階）
3. 検査項目：診察、問診、血液検査・尿検査など（登録された作業内容、取扱薬品それぞれについて法律で定められた検査項目を実施します。）
4. 予約：必ず事前に学務情報システムより予約をしてから受診してください

健康診断の受付で、予約画面を電子媒体または印刷した用紙で見せてください。

特殊健康診断とは、有機溶剤、特定化学物質、電離放射線を常時取り扱う学生に対して実施する健康診断です。定期健康診断とは別のものです。定期健康診断で異常があった人の再検査でもありません。皆さんの安全管理に責任を持つ担当教員が登録するので、担当教員に事前に登録内容をよく確認してから受診してください。

予約方法

学務情報システム <https://aiss-portal.gifu-u.ac.jp>

予約 → 学務情報システム → 保健管理 → 健診予約 → 予約を追加する

Notification of Special Health Checkup in 2024

1. Date: October 23rd, Wednesday 1:30 - 4:00 pm
2. Location: University Hall (DAIGAKU KAIKAN), 1st Floor
3. Content: medical questionnaire, physical examination, blood analysis, urine analysis, etc. depend on the work environment. Special health check contents are determined by the Occupational Health and Safety Act in Japan.
4. Reservation: Make an appointment through Students Affairs Information System, and printout the appointment page using browser function.

Special health checkup is conducted for students who use organic solvent, chemicals, and radiation materials routinely. Since your mentor has responsibility for safety management, please confirm your registration with your mentor.

Appointment

Students Affairs Information System: <https://aiss-portal.gifu-u.ac.jp>

Appointment → Students Affairs Information System → Health → Appoint for Health Checkup → 予約を追加する
Ⓜ Sorry, Japanese

※ If you can not make appointments, don't hesitate to visit the Health Administration Center.

保健管理センターニュース No.172 2024/10

発行：岐阜大学保健管理センター
TEL: 058-293-2174 FAX: 058-293-2177 E-mail: hokencen@gifu-u.ac.jp

海外渡航を考えている学生・教職員の方へ

留学や調査活動などの海外渡航では、予防接種などの準備が必要です。渡航の少なくとも3ヶ月前までに保健管理センターへお越しください。各種資料をお渡しします。渡航先への健康診断証明書や予防接種証明書が必要な場合は、保健管理センター医師が発行できるため、下記の書類を準備し、医師との面談を予約してください。

<医師との面談前に準備するもの>

- ① 母子手帳の予防接種記録の写し
- ② パスポートの氏名記載部分の写し
- ③ B型肝炎の抗体価検査結果があればその写し
- ④ 本学の健康診断証明書 (Word形式：英語版)
※保健管理センターのホームページでダウンロードできます。
URL: https://hokenen.gifu-u.ac.jp/study_abroad/
- ⑤ 渡航先指定の証明書 (Word形式)

①～③は、保健管理センターに直接持参するか、メールに添付して送ってください。
④、⑤は、ご自身で記入できる箇所をすべて入力してください。
健康診断結果は、最新のデータを入力しましょう。

ご不明な点があれば
保健管理センターまで!

保健管理センター
TEL: 058-293-2173
E-mail: hokencen@gifu-u.ac.jp

Health Administration Center News No.172 2024/10

Health Administration Center, Gifu University
TEL: 058-293-2174 FAX: 058-293-2177 E-mail: hokencen@gifu-u.ac.jp

To students and faculty considering overseas travel

For overseas travel such as studying abroad or research activities, vaccinations and other preparations are necessary. Please visit the Health Administration Center at least three months before your trip. We will provide you with various materials.

If you require a health certificate or vaccination certificate for your destination, it will be issued by the physicians at the Health Administration Center. Please prepare the necessary documents and schedule an appointment with a physician.

<Items to prepare before your appointment with the physicians>

1. A copy of your vaccination record. (ex. mother's book)
2. A copy of the page of your passport showing your name.
3. A copy of the hepatitis B antibody test results, if available.
4. A health certificate from Gifu University (Word format: English version).
* You can download it from the Health Administration Center's Website. https://hokenen.gifu-u.ac.jp/study_abroad
5. A certificate from specified by your destination (Word format).

Please bring items 1 to 3 directly to the Health Administration Center or send an email attached them. For items 4 and 5, please fill in all the sections that you can. Make sure the health examination results are up to date.

If you have any questions, don't hesitate to contact the Health Administration Center!

Health Administration Center, Gifu University
Phone: 058-293-2174
E-mail: hokencen@gifu-u.ac.jp

保健管理センターニュース No.173 2024/11/26

発行：岐阜大学保健管理センター
TEL: 058-293-2174 FAX: 058-293-2177 E-mail: hokencen@gifu-u.ac.jp

インフルエンザの流行に 備えましょう

11月に入り、本学でもインフルエンザの感染報告が増えてきています。日頃から感染症対策を心がけ、快適な冬を過ごしましょう。

流行前のワクチン接種

発症の予防や、発症後の重症化を予防する効果があります。

手洗い

ドアノブやバスのつり革など様々なものに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。外出先から帰宅時や調理の前後、食事前などこまめに手を洗いインフルエンザウイルスを除去しましょう。

咳エチケット

咳やくしゃみが直接人にかからないようにカバーしましょう。
(咳やくしゃみをするときは)
・マスクを着用
・マスクがない場合はティッシュなどで鼻と口を覆う
・とっさの時は袖や上着の内側で覆う
・周囲の人からなるべく離れる

インフルエンザにかかったら...

「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで(学校保健安全法)」は出席停止期間となります。自宅ですでに療養してください。

保健管理センターニュース No.173 2024/11/26

発行：岐阜大学保健管理センター
TEL: 058-293-2174 FAX: 058-293-2177 E-mail: hokencen@gifu-u.ac.jp

Prepare for flu season

As we enter November, reports of influenza infections have been increasing on campus. Let's practice daily infection prevention measures and enjoy a healthy and comfortable winter.

Vaccination before the outbreak

It helps prevent the onset and reduces the risk of severe symptoms after infection.

Handwashing

Touching various surfaces such as doorknobs and bus handrails can leave viruses on your hands. Wash your hands frequently, especially after returning home, before and after cooking, and before meals, to remove influenza viruses.

Cough Etiquette

Cover your mouth and nose to prevent your coughs and sneezes from directly reaching others.
-When coughing or sneezing:-
・Wear a mask.
・If you don't have a mask, use a tissue or similar item to cover your nose and mouth.
・In an emergency, use your sleeve or the inside of your jacket to cover your face.
・Try to keep your distance from people around you.

If You Catch the Flu...

According to the School Health and Safety Act, you are required to refrain from attending school until at least five days have passed since the onset of symptoms, and at least two days have passed after your fever has subsided.
Have adequate rest at home and receive proper treatment from medical institution.

保健管理センターニュース No.174 2025/2/10

発行：岐阜大学保健管理センター
TEL：058-293-2174 FAX：058-293-2177
E-mail：hokencom@gifu-u.ac.jp

※ 2024年12月改定

少しだけ延長になりました！ //
1997年4月2日～2008年4月1日
生まれの女性のあなた!!
(おおよそ16～27歳の方)

HPVワクチン(子宮頸がんワクチン)はもう打ちましたか？
子宮頸がんの8～9割が予防できます！

2025年3月末日までに接種を始せば
10万円→0円 (公費助成)

2025年3月末日までに1回目の接種をした方は、
2026年3月末日までに残りの2回が無料で接種できます！

詳しくは以下のURLをチェック！

子宮頸がん(HPV)ワクチン
全額自己負担
→HPVワクチンに関するお問い合わせ

HPVワクチンの
接種について

HPVワクチンの
接種について
(日本語版)

HPVワクチン接種の
予約について
(日本語版)

HPVワクチン接種の
予約について
(英語版)

※リンク先の詳細に追加がある場合があります。1款のみに従ってください。ご利用の際は、必ずご確認ください。

20歳になったら検診を受けましょう！

ちば HPV フォロアップ

東海国立大学機構 岐阜大学

Health Administration Center News No.174 2025/2/10

Health Administration Center, Gifu University
TEL : 058-293-2174 FAX : 058-293-2177
E-mail : hokencom@gifu-u.ac.jp

The catch-up vaccination period for the HPV vaccine has been extended.

Have you received the HPV vaccine?
The HPV vaccine can prevent 80-90% of cervical cancer.

The following individuals are eligible to receive the human papilloma virus (HPV) vaccine for the prevention of cervical cancer free of charge.

Eligible individuals
Females born between April 2, 1997, and April 1, 2008, who have not completed a total of three doses of HPV vaccine in the past.

Vaccination method
Check the notification for specific vaccination procedures from the municipality where you are registered. Depending on the number of doses and timing of past vaccinations, the vaccination method may vary. Consult with your municipality or medical institution.

URL where a list of medical institutions in Gifu City is posted (Japanese version)
https://www.city.gifu.lg.jp_res/projects/default_project_page_001/004440f6eyouniteki2.pdf

Those who receive the first dose of the HPV vaccine by the end of March 2025 can receive the remaining two doses for free of charge by the end of March 2026.

保健管理センターニュース No.175 2025/3/7

発行：岐阜大学保健管理センター
TEL：058-293-2174 FAX：058-293-2177
E-mail：hokencom@gifu-u.ac.jp

あなたのいつもの歯磨き、大丈夫？

「毎日歯磨きをしているのにむし歯や歯周病になってしまった」「口のおいが気になる」ということはありませんか？歯ブラシだけの歯磨きでは、しっかり磨けていないことがほとんどです。一度、自分の歯磨きを見直してみましょう。

どうすればいいの？

歯ブラシは歯の表面をきれいにします。
歯磨きの時に、デンタルフロスと歯間ブラシをプラスしましょう。
歯垢の基であるプラーク(歯垢)を取り除くことが、むし歯や歯周病の予防に効果的です。
デンタルフロスは歯と歯の間の汚れを取るため、むし歯予防に効果的です。
歯間ブラシは歯と歯肉の間の汚れを取るため、歯周病予防に効果的です。

デンタルフロスと歯間ブラッシュってどんなもの？

デンタルフロス 歯間ブラシ

歯間が狭い部分に 歯間が広い部分に

フッ素入りマウスウォッシュであれば、むし歯予防にも効果的を發揮します。

いろいろな種類があるので自分の歯にあったものを選びましょう！
選った時は、歯科に相談をしましょう！

歯は一生ものです。定期的に歯科でチェックを受けることで、口の健康状態を確認できます。
保健管理センターでは、毎月1回(水曜)、歯科専門医(岐阜大学医学部附属病院口腔外科)による歯科相談を行っています。
歯並びやかみ合わせについての悩み相談もできます。
保健管理センターホームページよりウェブ予約ができます。
是非ご利用ください！

保健管理センター ウェブ予約
<https://hokencom.gifu-u.ac.jp/act/>

Health Administration Center News No.175 2025/3/7

Health Administration Center, Gifu University
TEL : 058-293-2174 FAX : 058-293-2177
E-mail : hokencom@gifu-u.ac.jp

Do you always brush your teeth properly?

Even though you brush your teeth every day, have you ever had cavities or gum disease? Do you ever worry about bad breath? Brushing with just a toothbrush is not enough for good oral health care. Let's reassess our toothbrushing routine.

How should you brush your teeth properly?

A toothbrush cleans the surface of your teeth. Add dental floss and interdental brushes to your toothbrushing routine. Removing plaque is effective in preventing cavities and gum disease. Dental floss is effective in preventing cavities as it removes dirt between your teeth. An interdental brush is effective in preventing gum disease as it removes dirt between your teeth and gums.

What are dental floss and interdental brushes?

Due to its active ingredients, mouthwash can help prevent bad breath and kill bacteria that cause cavities and gum disease. If the mouthwash contains fluoride, it can be effective in preventing cavities as well.

There are various types available, choose one that suits your teeth! If you're unsure, consult with your dentist!

Your teeth are for a lifetime. By regularly visiting the dentist, you can check the health of your mouth. At the Health Administration Center, dental consultations are available once a month by a dental specialist from the Department of Dentistry, Oral and Maxillofacial Surgery, Gifu University Hospital. You can seek advice regarding concerns about teeth alignment and bite. Reservations are available through the Health Administration Center website. Please take advantage of this service!

V 保健管理センター規程等

1. 岐阜大学保健管理センター規程
2. 岐阜大学保健管理センター運営委員会細則
3. 岐阜大学保健管理センター長候補者推薦及び教育職員選考細則
4. 岐阜大学保健管理センター障害学生支援室細則
5. 保健管理センター運営委員会委員（令和6年度）
6. 保健管理センター学校医・非常勤講師（令和6年度）
7. 保健管理センター教職員（令和6年度）
8. 保健管理センター位置図

V 保健管理センター規程等

1. 岐阜大学保健管理センター規程

平成 19 年 10 月 1 日

規程第 167 号

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、岐阜大学組織運営規程（令和 2 年度岐大規程第 1 号）第 15 条に規定する保健管理センター（以下「センター」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第 2 条 センターは、岐阜大学（以下「本学」という。）における学生及び職員の心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。

(業 務)

第 3 条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 学内の保健計画の立案について指導援助すること。
 - 二 定期及び臨時の健康診断の業務を行うこと。
 - 三 健康相談及び学生の心身の悩みに関する相談に応ずること。
 - 四 障害のある学生の支援に関する業務を行うこと。
 - 五 救急処置を行うこと。
 - 六 健康診断の事後措置等健康の保持増進について必要な指導を行うこと。
 - 七 学内の環境衛生及び伝染病予防について指導援助すること。
 - 八 保健管理の充実向上のための調査・研究を行うこと。
 - 九 その他健康の保持増進について必要な専門的業務を行うこと。
- 2 前項第 3 号及び第 4 号に掲げる業務は、教育推進・学生支援機構と連携して行うものとする。

(組 織)

第 4 条 センターに次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 専任の大学教員
- 三 医療系職員
- 四 その他の職員

(分 室)

第 5 条 センターには、必要に応じ分室を置くことができる。

2 分室に関し必要な事項は、別に定める。

(障害学生支援室)

第 6 条 センターに、障害のある学生の支援に関する業務を行うため、障害学生支援室を置く。

2 障害学生支援室に関し必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第7条 センターに保健管理センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(センター長候補者等の推薦及び選考)

第8条 センター長候補者は、本学の専任の教授のうちから運営委員会が推薦する。

2 前項に定めるもののほか、センター長候補者の推薦及びセンターの専任の大学教員の選考については、別に定める。

(庶務)

第9条 センターに関する庶務は、学務部学生支援課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて、センター長が定める。

附 則

この規程は、平成19年10月1日から施行する。

附 則（平成21年5月1日）

この規程は、平成21年5月1日から施行する。

附 則（平成22年1月1日）

この規程は、平成22年1月1日から施行する。

附 則（平成22年4月1日）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成27年4月1日）

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（令和2年3月30日規程第115号）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年3月29日岐大規程第156号）

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

2. 岐阜大学保健管理センター運営委員会細則

平成19年10月1日

細則第160号

(趣 旨)

第1条 この細則は、岐阜大学保健管理センター規程（平成19年規程第167号）第7条第2項の規定に基づき、保健管理センター（以下「センター」という。）の運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 保健管理の基本方針に関すること。
- 二 環境衛生の維持改善に関すること。
- 三 センター長候補者の推薦に関すること。
- 四 センターの教員の教育研究業績の審査に関すること。
- 五 センターの教育又は研究に関する重要事項
- 六 センターの予算及び決算に関すること。
- 七 センターの業務計画に関すること。
- 八 その他保健管理及びセンターの管理運営に関する重要事項

2 前項第3号及び第4号について審議する場合には、次条第1項第6号及び第7号に規定する委員を除くものとする。

(組 織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 担当副学長
- 三 センターの専任の教員
- 四 各学部（医学部を除く。）及び学環から選出された教員 各1人
- 五 医学系研究科・医学部から選出された教員 1人
- 六 学務部長
- 七 その他委員会が必要と認める者

2 前項第7号に規定する委員には、外部有識者を含めることができる。

3 第1項第4号、第5号及び第7号に規定する委員は、学長が委嘱する。

(任 期)

第4条 前条第1項第4号、第5号及び第7号に規定する委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

ただし、委員に欠員が生じたときの補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、センター長をもって充てる。
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 4 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会 議)

第6条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 議事は、出席委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、第2条第1項第3号及び第4号に掲げる事項については、出席委員の3分の2以上の同意をもって決するものとする。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、学務部学生支援課において処理する。

(雑則)

第9条 この細則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会の意見を聴いて、センター長が定める。

附則

1 この細則は、平成19年10月1日から施行する。

2 岐阜大学保健管理センター運営委員会規則(平成16年岐阜大学規則第176号)は、廃止する。

附則(平成21年5月1日)

この細則は、平成21年5月1日から施行する。

附則(平成22年1月1日)

この細則は、平成22年1月1日から施行する。

附則(平成22年4月1日)

この細則は、平成22年4月1日から施行する。

附則(平成24年4月1日)

この細則は、平成24年4月1日から施行する。

附則(平成27年4月1日)

この細則は、平成27年4月1日から施行する。

附則(令和2年3月30日細則第112号)

この細則は、令和2年4月1日から施行する。

附則(令和3年5月19日岐大細則第4号)

この細則は、令和3年5月19日から施行し、令和3年4月1日から適用する。

附則(令和4年3月31日岐大規程第74号)

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

3. 岐阜大学保健管理センター長候補者推薦及び教育職員選考細則

平成19年10月1日

細則第161号

(趣旨)

第1条 この細則は、国立大学法人法施行規則第10条に規定する、学部等教育研究上の重要な組織の長の任命に関し、学長が定める事項(平成26年学長裁定)及び岐阜大学保健管理センター規程(平成19年規程第167号)第8条の規定に基づき、保健管理センター長(以下「センター長」という。)候補者の推薦及び教員の選考に関し必要な事項を定めるものとする。

(センター長候補者の選考)

第2条 運営委員会は、学長から候補者の推薦を求められたときに、候補者を推薦する。

2 運営委員会は、原則として2名以上の候補者を推薦するものとし、各候補者の所信及び参考となる資料を学長に提出する。

(教育職員の選考)

第3条 保健管理センターの教員となることのできる者の資格については、東海国立大学機構職員採用規程(令和2年度規程第41号)及び東海国立大学機構大学教員選考基準(令和2年度機構基準第3号)の定めるところによる。

2 前項に規定する教員の教育研究業績の審査は、運営委員会において行う。

(雑則)

第4条 この細則に定めるもののほか、必要な事項は、センター運営委員会の意見を聴いて、センター長が定める。

附則

1 この細則は、平成19年10月1日から施行する。

2 岐阜大学保健管理センター長及び教育職員選考規則(平成16年岐阜大学規則第177号)は、廃止する。

附則(平成22年1月1日)

この細則は、平成22年1月1日から施行する。

附則(平成22年4月1日)

この細則は、平成22年4月1日から施行する。

附則(平成27年4月1日)

この細則は、平成27年4月1日から施行する。

附則(平成28年7月19日)

この細則は、平成28年7月19日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附則(令和2年3月30日細則第113号)

この細則は、令和2年4月1日から施行する。

4. 岐阜大学保健管理センター障害学生支援室細則

令和3年3月29日

岐大細則第99号

(趣旨)

第1条 この細則は、岐阜大学保健管理センター規程(平成19年規程第167号)第6条第2項の規定に基づき、岐阜大学保健管理センター障害学生支援室(以下、「障害学生支援室」という。)に関し必要な事項を定めるものとする。

(業 務)

第2条 障害学生支援室は、東海国立大学機構における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領（令和2年4月1日役員会決定）に基づき、岐阜大学における障害のある学生（以下「障害学生」という。）の修学及び学生生活の円滑化に寄与するため、次に掲げる業務を行う。

- 一 障害学生の支援に係る情報収集及び分析に関すること。
- 二 障害学生の支援に係る企画立案に関すること。
- 三 障害学生の支援に係る関係部局等との連絡調整に関すること。
- 四 障害学生の支援に係る学外の関係機関との連携に関すること。
- 五 障害学生の支援に係る啓発に関すること。
- 六 障害学生の支援に係る教育研究に関すること。
- 七 障害学生の支援者養成に関すること。
- 八 その他障害学生の支援に関し必要な業務

(組 織)

第3条 障害学生支援室に、次の職員を置く。

- 一 室長
- 二 専任の大学教員
- 三 その他の職員

2 室長は、保健管理センターの教員のうちから保健管理センター長（以下「センター長」という。）が指名する。

3 第1項第2号及び第3号に規定する教職員は、保健管理センターの職員の中からセンター長が推薦する者をもって充てる。

(支援チーム)

第4条 障害学生支援室は、個別の障害学生に係る具体的な支援策を協議するため、必要に応じ当該支援に関係する職員で構成する支援チームを組織することができる。

2 前項に規定する支援チームを組織する場合には、室長は、支援チームの構成員が所属する部局等の長の了承を得るものとする。

(庶 務)

第5条 障害学生支援室に関する庶務は、学務部学生支援課において処理する。

(雑 則)

第6条 この細則に定めるもののほか、障害学生支援室に関し必要な事項は、センター長が定める。

附 則

1 この細則は、令和3年4月1日から施行する。

2 岐阜大学教育推進・学生支援機構学生支援センターサポート・ルーム細則（令和2年岐阜大学細則第28号）は、廃止する。

5. 保健管理センター運営委員会委員（令和6年度）

	所 属	氏 名	役 職
委員長	保健管理センター長	山 本 眞由美	教 授
委 員	副学長（教育・学生支援）	益 子 典 文	副 学 長
委 員	保健管理センター専任の教育系職員	深 尾 琢	教 授
委 員	保健管理センター専任の教育系職員	堀 田 亮	准 教 授
委 員	保健管理センター専任の教育系職員	田尻下 聡 子	助 教
委 員	保健管理センター専任の教育系職員	川 本 美奈子	特任助教
委 員	保健管理センター専任の教育系職員	今 村 七菜子	特任助教
委 員	教育学部	山 本 政 幸	教 授
委 員	地域科学部	府 川 純一郎	助 教
委 員	工学部	吉 野 純	教 授
委 員	応用生物科学部	岩 本 悟 志	教 授
委 員	社会システム経営学環	市来寄 治	准 教 授
委 員	医学系研究科・医学部	兵 藤 文 紀	教 授
委 員	学務部長	野々村 晴 子	部 長
委 員	医学部看護学科	三 好 美 浩	教 授
委 員	総務部人事労務課	後 藤 康 之	主 幹

6. 保健管理センター学校医・非常勤講師（令和6年度）

小 島 敏 弘	こじま内科クリニック院長
尾 関 茂 彦	おぜきクリニック院長
佐 藤 まゆみ	さとう内科クリニック院長
野 田 宜 輝	のだ医院院長
足 立 佳代子	いなば内科院長
三 輪 佳 行	MIWA 内科胃腸科クリニック院長
立 山 健一郎	立山クリニック院長
河 田 智 男	河田医院院長
石 黒 源 之	石黒クリニック院長
皆 川 太 郎	みながわ内科・循環器科クリニック院長
黒 川 淳 一	犬山病院副院長
川 口 知 子	岐阜大学医学部附属病院歯科口腔外科医員
奥 村 歩	医療法人三步会 おくむら memory クリニック院長
奥 村 三 恵	医療法人三步会 おくむら memory クリニック医師
山 本 啓 二	やまもと整形外科院長
飯 田 一 規	岐阜大学医学部附属病院歯科口腔外科講師
宮 地 幸 雄	岐阜カウンセリング研究所所長
加 納 克 徳	加納内科 リウマチ科・糖尿病内科クリニック院長
西 本 博 文	西本整形外科院長
田 中 生 雅	愛知教育大学 健康支援センター教授

石垣倫子	特になし
佐渡忠洋	名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授
棚橋弘成	小牧内科クリニック 副院長（兼）在宅診療部長
大野貴敏	大野整形外科クリニック院長
船越高樹	筑波大学ヒューマンエンパワーメント推進局准教授
西尾彰泰	沖縄科学技術大学院大学 保健センター長
阿部幸二郎	岐阜大学医学部附属病院歯科口腔外科医員
清原潤一	岐阜大学医学部附属病院歯科口腔外科医員
林樹	岐阜大学医学部附属病院歯科口腔外科医員
三輪貴生	岐阜大学医学部附属病院第一内科医員（パート）
中島教行	岐阜大学医学部附属病院歯科口腔外科医員
武内佑麻	岐阜大学医学部附属病院歯科口腔外科医員
丹羽翔太郎	岐阜大学医学部附属病院歯科口腔外科医員
足立美穂	岐阜大学保健管理センター
浅井宙	浅井歯科医院副院長
祖父江達子	そぶえ歯科医院院長
永田雅裕	永田歯科医院院長
井上泰子	井上歯科医院院長
川畑美紀	岐阜プレシヤス歯科・矯正歯科院長
兵藤文美	兵藤歯科院長
糸尾尚浩	いとおファミリー歯科院長
岡崎祥子	河村病院歯科医師
森康志	歯科 i・オーラルクリニック院長
恩田健生	恩田歯科医院
伊藤栄二	岐阜大学医学部附属病院歯科口腔外科医員（パート）

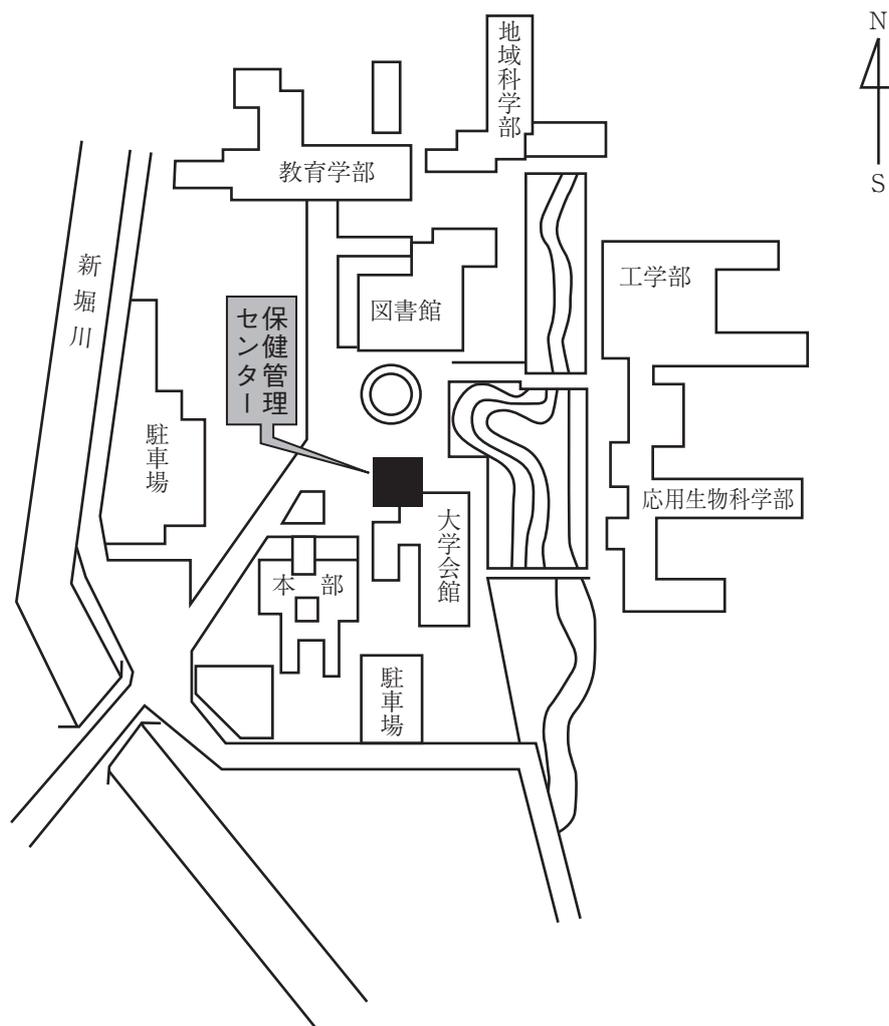
7. 保健管理センター教職員（令和6年度）

教授	内科（内分泌代謝）	山本 眞由美	学校医・統括産業医
教授	精神科	深尾 琢	学校医・産業医
准教授	臨床心理士	堀田 亮	スクールカウンセラー
助教	内科（消化器）	田尻下 聡子	学校医・産業医
特任助教	内科（小児科）	川本 美奈子	障害学生支援担当 (R6.4.1 付け採用)
特任助教	臨床心理士	今村 七菜子	(～ R4.5.31 非常勤スクールカウンセラー、 R4.6.1 付け採用)
保健師・看護師		西川 里奈	第1種衛生管理者 (R6.11.26 から育児休業)
看護師		宮本 由紀子	
保健師・看護師		石樽 志織	第1種衛生管理者
保健師・看護師		猪俣 京	第1種衛生管理者 (R5.8.13～R6.12.18 まで育児休業)
保健師・看護師		渡辺 麗	第1種衛生管理者
看護師		山口 友希	
臨床心理士		栗木 由美子	非常勤スクールカウンセラー
臨床心理士		岡本 綾子	非常勤スクールカウンセラー (R7.3.31 付け辞職)
技術補佐員	管理栄養士	高田 麻紀	学校栄養士
技術補佐員	研究室	川邊 敬子	
事務補佐員	障害学生支援室	長谷川 あづみ	

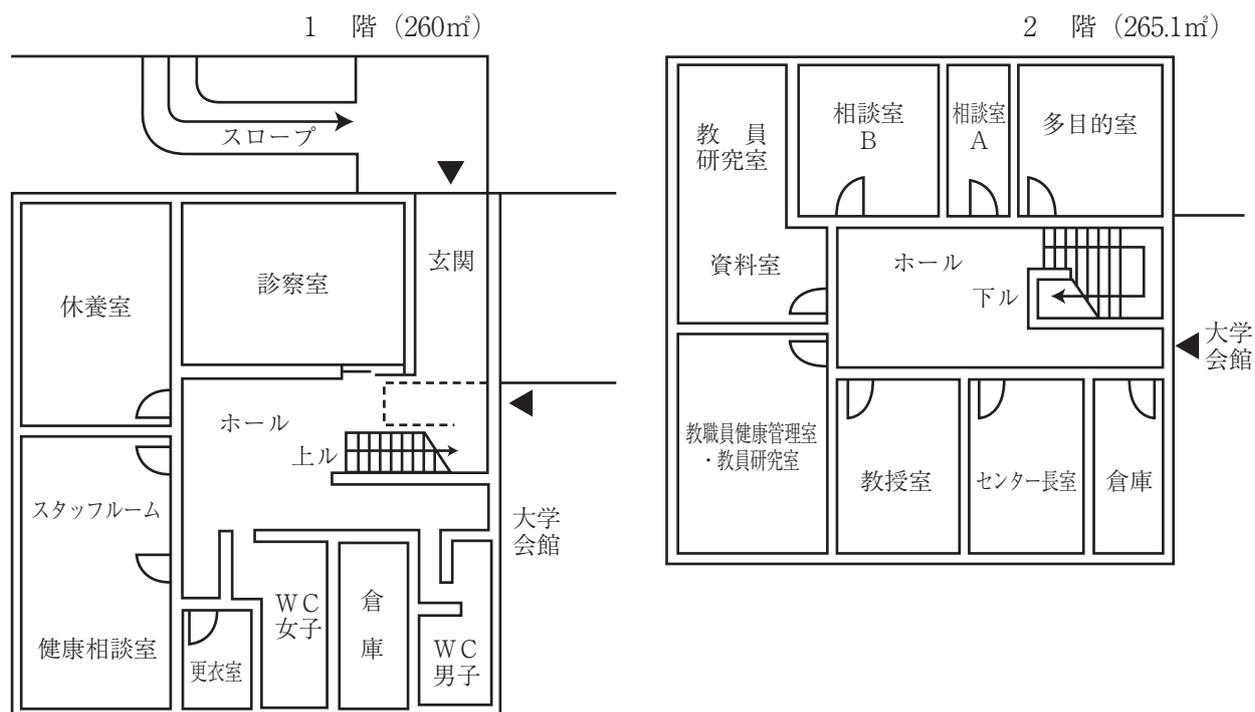
保健管理センター事務担当課（学務部学生支援課）

学務部	学生支援課長	小林 恵子
	学生支援課課長補佐	山田 孝

8. 保健管理センター 位置図



保健管理センター平面図



岐阜大学保健管理センター年報 第49号

令和8年3月 発行

編集
発行 岐阜大学保健管理センター

岐阜市柳戸1の1

TEL 〈058〉293-2174
(ダイヤルイン)

FAX 〈058〉293-2177

